

nord stage 3

ユーザー・マニュアル

Nord Stage 3
日本語版

OSバージョン:1.04

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



マークには次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘記号は、禁止(してはいけないこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- 電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線を接続する。アース接続を外す場合は、電源プラグをコンセントから取り外してから行う。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。感電やショートのおそれがあります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。
- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。
 - 電源コードやプラグが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき

- 本製品を分解したり改造したりしない。
- 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。

- 電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。
- 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管はしない。
- 振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。



● 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。



● 雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。

● 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。

● 本製品に液体をこぼさない。



● 濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります



- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。



● 本製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。



● 付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。

● 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線しない。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

● スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。

故障の原因になります。

● 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。

● 不安定な場所に置かない。

本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

● 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。

本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

● 本製品の隙間に指などを入れない。

お客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

● 地震時は本製品に近づかない。

● 本製品に前後方向から無理な力を加えない。

本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。データを他のメディア等へセーブすることのできる製品では、大切なデータはこまめにセーブすることをお勧めします。

目次

1	はじめに	6	キークリックコントロール.....	18
	ありがとうございます!	6	Voxモデル.....	19
	主な特長.....	6	Voxドローバー.....	19
	Nordウェブサイトについて.....	6	ピブラート.....	19
	このマニュアルについて.....	6	Farfモデル.....	19
	PDF版マニュアル.....	6	Farfレジスター.....	19
	ファクトリー・プリセットに戻す.....	6	ピブラート.....	20
	OSアップグレード.....	6	パイプ・オルガン.....	20
	フリー・サウンド.....	6	Pipe 1.....	20
	商標について.....	7	Pipe 2.....	20
			Pipe 1/Pipe 2のレジスター.....	20
2	概要	8	オルガン・プリセットI/II.....	20
	オルガン・セクション.....	8	ドローバー・ライブ(Compactモデル).....	20
	ピアノ・セクション.....	8	スウェル・ペダル.....	20
	Nord Piano Library.....	8	ロータリー・スピーカー.....	20
	ストリング・レゾナンス.....	8		
	Nord Triple Pedal.....	8	5	ピアノ
	ペダル・ノイズ.....	9		オン/オフの切り替えとレベルおよびゾーンの選択.....
	ピアノとClav EQ.....	9		オクターブ・シフト.....
	プログラム・セクション.....	9		ピッチ・スティックとサスティン・ペダル.....
	シンセ・セクション.....	9	ピアノ・サウンドについて.....	21
	エクスターナル・セクション.....	9	ピアノ・サイズについて.....	22
	エフェクト・セクション.....	9	ピアノ・セレクト.....	22
			タイプとモデル.....	22
3	使い始める	10	クラビネットについて.....	22
	接続する.....	10	リストビュー.....	22
	プログラム.....	10	KBD TOUCH.....	22
	プログラムを選択する.....	10	ピアノ・インフォ.....	22
	パネル・コントロール.....	11	ストリング・レゾナンス/ソフト・リリース/ペダル・ノイズ.....	22
	ダイヤルとノブ.....	11	ソフト・リリース.....	22
	ボタン.....	11	ストリング・レゾナンス.....	23
	[SHIFT]ボタン.....	11	ペダル・ノイズ.....	23
	リスト・ビュー.....	11	Nord Triple Pedal.....	23
	プログラムをエディットする.....	11	サスティンとハーフ・ペダリング.....	23
	別のピアノ・サウンドを選ぶ.....	11	ソステヌート.....	23
	メモリー・プロテクトをオフにする.....	12	ソフト・ペダル.....	23
	プログラムを保存する.....	12	PIANO/Clav EQ.....	24
	ライブ・モード.....	12	PIANO EQ設定.....	24
	エフェクトをオンにする.....	12	レイヤー・デチューン.....	24
	2つのパネル.....	12		
	スプリットを作成する.....	12	6	プログラム
	ピアノをアッパー・ゾーンに割り当てる.....	13		モーフ・アサイン.....
	シンセをローワー・ゾーンにセットする.....	13		モーフ・デスティネーション.....
	シンセ・プリセットをロードする.....	13		モーフ・インジケーター.....
	レイヤーを作成する.....	13		LEDエンコーダー.....
	2つのパネルを同時にアクティブにする.....	14		モーフLED.....
	スプリットクロスフェード(スプリット幅)を設定する.....	14		ドローバーLED.....
	モーフ機能.....	14		モーフィングを消去する.....
	シンセサイザー.....	15	マスター・クロック.....	26
	サンプル・プリセットをロードして調節する.....	15	エクスターナル・シンク.....	26
	アルペジエーター.....	16	(KBS)キーボードシンク.....	26
4	オルガン	17	トランスポーズ・オン/セット.....	26
	オン/オフの切り替えとレベルおよびゾーンの選択.....	17	パニック.....	26
	オクターブ・シフト.....	17	スプリット.....	26
	ピッチ・スティックとサスティン・ペダル.....	17	キーボード・スプリットの設定.....	27
	ドローバーとドローバー・ボタン.....	17	スプリット・ポジションを選択する.....	27
	オルガン・モデルを選択する.....	18	スプリット幅の設定.....	27
	B3モデル.....	18	キーボード・ゾーン・エディター.....	27
	B3ドローバー.....	18	保存する.....	27
	ピブラート&コーラス.....	18	プログラムまたはソングを保存する/名前を付ける.....	28
	パーカッション.....	18	名前を付けて保存する.....	28
			ソング・モード.....	28
			ソング・エディット.....	28
			ソングを保存する.....	28
			エディットしたプログラムを保存する.....	28

パネル・ボタンA&B	28
モニター/パネルのコピー/ペースト	29
モノアウト	29
デュアルKB	29
[SHIFT]/[EXIT]ボタン	29
ライブ・モード	29
プログラム・イニシャルイズ	29
プログラム・ボタン	30
プログラムとは?	30
システム、サウンド、MIDI、エクスターナル、KBゾーン	30
[PROGRAM]ダイアル	30
MIDI LEDインジケーター	30
ページ・ボタン	30
プログラム・レベル	30

7 シンセ	31
シンセ・セクションについて	31
オン/オフの切り替えとレベルおよびゾーンの選択	31
オクターブ・シフト	31
ピッチ・スティックとサスティン・ペダル	31
オシレーター	32
オシレーター・コントロール	32
モジュレーション	32
セレクトター・ボタン	32
クラシック波形	32
サイン波	32
三角波	32
ノコギリ波	32
矩形波、パルス波33/パルス波10	32
ESaw	32
ESquare	33
Wave	33
F-Wave	33
S-Wave	33
サンプル	33
カテゴリとサンプル・プリセット	33
ファスト・アタック	33
オシレーター・コンフィギュレーション	33
シングル・オシレーター・コンフィギュレーション	33
ベーシック	33
ピッチ	33
シェイプ	33
デュアル・オシレーター・コンフィギュレーション	33
シンク	34
デチューン	34
サイン波、三角波、ノコギリ波、矩形波のミックス	34
ミックス・レベル	34
ミックス・ノイズ	34
ミックス・ノイズ2	34
デュアルFM	34
トリプルFM	34
Ring Mod	34
シンセ・プリセット	34
シンセ・プリセットを選択する	34
リストビュー	34
シンセ・プリセットを保存する	35
フィルター・セクション	35
フィルター・セレクトター・ボタン	35
LP 24 & LP 12	35
LP M	35
LP/HP	36
HP	36
BP	36
フィルター・フリケンシー	36
フィルター・レゾナンス	36
KBトラック	36
KBトラックの設定	36
ドライブ	37
LFOアマウント	37
ペロシティ/モジュレーション・エンベロープ	37

エンベロープ	37
モジュレーション・エンベロープ	37
アタック	37
ディケイ	37
リリース	37
ペロシティ	37
アンプ・エンベロープ	38
アタック	38
ディケイ	38
リリース	38
ペロシティ	38
LFO	38
マスター・クロック	38
LFOの波形	38
ボイス・セクション	39
モノボイス・モード	39
レガートボイス・モード	39
グライド	39
ユニゾン	39
サウンドを初期化する(SOUND INIT)	39
アルペジエーター	40
アルペジオの実行とキーボードシンク(KBS)	40
アルペジエーター・レンジ	40
アルペジエーター・ディレクション	40
アルペジエーター・レイト	40
アルペジエーターのマスター・クロック	40
キーボード・ホールド	40
ビブラート	40

8 エクスターナル	41
エクスターナル・セクション	41
設定する	41
エクスターナル・セクションを使う	41
オンにする	41
キーボード・ゾーン	41
キーボードを使わずにエクスターナル・セクションの設定を行う	41
オクターブ・シフト	41
ピッチ・スティック/サスティン・ペダル・メッセージ	41
エクスターナル・パラメーター	42
プログラム	42
センド・オンロード	42
エクスターナル・セクションとMIDIソフト・スルー	42
エクスターナル・メニューのその他の設定	42

9 エフェクト	43
概要	43
エフェクトをオンにする	43
エフェクト・オフ時にエフェクト・タイプを選択する	43
A-Pan(オート・パン)	43
応用例:サウンドのパン・ポットとして使う	43
Trem(トレモロ)	44
RM(リング・モジュレーション)	44
Wa-Wa(ワウ)	44
A-Wah 1&2(オート・ワウ)	44
エフェクト2	44
Phas 1&2(フェイザー)	44
Flange(フランジャー)	44
Vibe(ヴァイブ)	44
Chorus 1&2(コーラス)	44
ディレイ	44
タップ・テンポ	44
フィルター	45
アナログ・モード	45
マスター・クロック	45
アンプ・シミュレーター/EQ	45
DRIVE	45
LP 24フィルター	45
HP 24フィルター	45
アンプ・モデル	46

コンプレッサー.....	46	MIDIメニュー.....	54
ファストモード.....	46	1 - LOCAL CONTROL.....	54
リバーブ.....	46	2 - CHANNEL.....	54
ロータリー・スピーカー.....	46	GLOBAL.....	54
ロータリー・スピーカーとリバーブ.....	47	PANEL A/B.....	54
ロータリーメニューの設定.....	47	DUAL KB.....	54
<hr/>		3 - CONTROL/PROGRAM CHANGE MODE.....	54
10 MIDI	48	CC(コントロール・チェンジ).....	54
MIDIを使う.....	48	PC(プログラム・チェンジ).....	54
グローバル.....	48	4 - TRANSPOSE MIDI AT.....	54
パネルA/B.....	48	エクスターナルメニュー.....	55
エクスターナル・セクション.....	48	1 - MIDI CHANNEL MODE.....	55
外部機器をエクスターナル・セクションでコントロールする.....	49	2 - MIDI PANEL A/B CHANNEL (PROG/GLOB).....	55
外部MIDI機器からNord Stage 3をコントロールする.....	49	3 - KEYB VELOCITY PANEL A/B.....	55
デュアルKB.....	49	4 - DEVICE MIDI PANEL A/B.....	55
パネルMIDIコントロール.....	50	5 - SEND ON LOAD.....	55
グローバルMIDI.....	50	6 - PROGRAM CHANGE SETTINGS PANEL A/B.....	55
エクスターナル・シンク.....	50	BANK MSB.....	55
エクスターナル・セクションとMIDIの再ルーティング.....	50	BANK LSB.....	55
本機での演奏をシーケンサーにレコーディングする.....	50	PROGRAM NUMBER.....	55
プログラム・チェンジ.....	51	7 - CONTROL CHANGE SETTINGS A/B.....	55
各種MIDIメッセージ.....	51	CTRL(コントロール).....	55
ノート・オン/オフ.....	51	VALUE.....	55
ピッチ・ベンド.....	51	8 - VOLUME VALUE A/B.....	55
コントローラー.....	51	9 - GLOBAL SOFT THRU.....	55
キーボード・ベロシティ.....	51	<hr/>	
アフタータッチ.....	51	12 NORD SOUND MANAGER	56
プログラム・チェンジ.....	51	Nord Sound Managerについて.....	56
バンク・セレクト.....	51	動作環境.....	56
ローカル・オン/オフ.....	51	<hr/>	
パニック.....	51	I 付録:接続について	57
<hr/>		オーディオの接続.....	57
11 メニュー	52	HEADPHONES.....	57
ディスプレイ上のボタン.....	52	CH 1&2, CH 3&4 OUT.....	57
システムメニュー.....	52	MONITOR IN.....	57
1 - MEMORY PROTECT.....	52	MIDIの接続.....	57
2 - GLOBAL TRANSPOSE.....	52	MIDI IN.....	57
3 - FINE TUNE.....	52	MIDI OUT.....	57
4 - SEAMLESS PROG CHANGE.....	52	USB接続.....	57
5 - OUTPUT ROUTING MODE.....	52	ペダル接続.....	57
6 - OUTPUT PANEL A/B.....	52	SUSTAIN PEDAL.....	57
7 - SUSTAIN PEDAL.....	53	CONTROL PEDAL.....	57
TYPE.....	53	ORGAN SWELL.....	57
FUNC(機能).....	53	PROGRAM UP/DN PEDAL.....	57
8 - ROTER PEDAL.....	53	<hr/>	
TYPE.....	53	II 付録:MIDIコントローラー・リスト	58
FUNC(機能).....	53	<hr/>	
9 - PROG PEDAL.....	53	III 付録:索引	59
TYPE.....	53	<hr/>	
FUNC(機能).....	53	仕様.....	61
GAIN.....	53	<hr/>	
10 - CTRL PEDAL.....	53	<hr/>	
TYPE.....	53	<hr/>	
FUNC(機能).....	53	<hr/>	
GAIN.....	53	<hr/>	
11 - SWELL PEDAL.....	53	<hr/>	
TYPE.....	53	<hr/>	
FUNC(機能).....	53	<hr/>	
GAIN.....	53	<hr/>	
サウンドメニュー.....	53	<hr/>	
1 - PIANO PEDAL NOISE LEVEL.....	53	<hr/>	
2 - PIANO STRING RES LEVEL.....	53	<hr/>	
3 - B3 ORGAN TONEWHEEL MODE.....	54	<hr/>	
4 - B3 ORGAN CLICK LEVEL.....	54	<hr/>	
5 - B3 ORGAN KEYBOARD TRIGGER POINT.....	54	<hr/>	
6 - SYNTH VIBRATO.....	54	<hr/>	
RATE.....	54	<hr/>	
Amnt(アマウント).....	54	<hr/>	
7 - ROTARY ROTOR.....	54	<hr/>	
Accel(アクセラレーション).....	54	<hr/>	
8 - ROTARY HORN.....	54	<hr/>	
Accel(アクセラレーション).....	54	<hr/>	

1 はじめに

ありがとうございます！

Nord Stage 3をお買い上げいただきありがとうございます！

実績あるStageシリーズから「演奏者がステージ上で最高のパフォーマンスを発揮できる楽器を作り上げる」というビジョンを受け継いだ最新のフラッグシップモデル、Nord Stage 3は、Nord Sample Libraryに対応したNord Lead A1シンセ・エンジン、定評あるNord C2Dオルガン・エンジン、大幅に強化されたピアノ・セクション、自由自在に操作できる豊富なエフェクトなど、Nordの持てる技術の粋を1台に結集した、最高のステージキーボードです。

主な特長

Nord Stage 3には次のような主な特長があります：

- 評価の高いNord C2D コンボ・オルガンにも搭載されている、B3、Vox、Farf (Farfisa) の3種のクラシック・オルガン・モデルを忠実に再現したオルガン・セクション。独特なサウンドを持つ2つのパイプ・オルガン・モデルも搭載。
- 88鍵モデルと76鍵モデルにはデジタルLEDドローバー、73鍵モデルには物理ドローバーを搭載。
- グランド・ピアノ、アップライト・ピアノ、エレクトリック・ピアノ、デジタル・ピアノ、クラベネットやハーブシコードなどのサウンドに加え、ピアノ・サウンドを組み合わせて豊かな音色を作り出せるレイヤー・カテゴリーを搭載したピアノ・セクション。メモリー容量は2GB。
- Lead A1 シンセサイザーをベースとしたシンセ・セクション。オシレーター専用の有機EL (OLED) ディスプレイ、サンプル・プレイバック、アナログ・スタイルのクラシックな波形、デジタル波形、フォルマント、豊富な「スーパーウェーブ」を搭載。
- 幅広く、自由度の高い音作りをサポートするエフェクト・セクション。
- プログラムを切り替えてもサステイン・ノートが途切れないシームレスな切り替え。
- 外部MIDI機器をコントロールするエクスターナル・セクション。
- 複数のパラメーターを物理コントロールで切り替えるパワフルなモーフ (モーフィング) 機能。
- スプリット幅を自由に調節できる4つのキーボードゾーン。スプリットポイント上でサウンドのスムーズなクロスフェードが設定可能。
- 3種類のモデル展開。ウェイテッド・ハンマー・アクション鍵盤 (A～C) を採用したNord Stage 3 88、持ち運びやすいよう軽量に設計されたウェイテッド・ハンマー・アクション・ポータブル鍵盤 (E～G) を採用したNord Stage 3 HP 76、73鍵セミ・ウェイテッド・ウォーターフォール鍵盤 (E～E) を採用し物理ドローバーを搭載したNord Stage 3 Compact。
- Nord Stage 3のサウンド・エンジンやエフェクトを個別に設定できる、独立した2つのパネル。この機能により、あらゆる種類のレイヤーやスプリットを使用できるほか、「二段鍵盤」のB3オルガンも演奏可能。

NORDウェブサイトについて

Nordウェブサイト (<http://www.nordkeyboards.jp/>、nordkeyboards.com (英文)) では、以下をご利用いただけます：

- » Nord Stage 3やその他のNord製品に関する情報
- » Nord Stage 3最新OSバージョンのダウンロード
- » Nord Sound Manager, Nord Sample Editor, 各種ドライバーなどのフリー・ソフトウェアのダウンロード
- » Nord Piano Libraryサウンドの無償ダウンロード
- » Nord Sample Libraryサウンドの無償ダウンロード
- » Nordに関するニュースや動画を配信するNord World
- » ユーザー・マニュアルのダウンロード
- » チュートリアルはnordkeyboards.com/tutorialsでご覧いただけます。

ぜひ、Facebook、Instagram、Twitter、YouTubeでNord Keyboardsをフォローしてください。SNSの投稿には、Nord公式ハッシュタグ#iseenordをお気軽にご利用ください。

このマニュアルについて

本マニュアルはリファレンス・マニュアルとして使用できるように制作しました。また、実際に各種機能を使用するときに便利なヒントなどもご紹介しています。

PDF版マニュアル

本マニュアルのPDF版は、NordウェブサイトのNord Stage 3セクションから無償でダウンロードできます。

ファクトリー・プリセットに戻す

工場出荷時のプログラム、シンセ・プリセット、サンプル、ピアノのデータはNord Sound Managerのバックアップ・ファイル形式でNordウェブサイトからダウンロードできます。また、任意の時点の状態に戻す必要がある場合に備えて、インストゥルメント全体およびそのインストゥルメントの工場出荷時の状態をバックアップしたものをご用意しています。

OSアップグレード

Nord Stage 3の最新OSバージョンは、Nordウェブサイトからいつでもダウンロードできます。また、Nordウェブサイトでは各バージョンの更新履歴も公開していますので、Nordウェブサイトにて定期的にアクセスして最新情報をチェックしてください。

フリー・サウンド

Nord Stage 3では、すべてのピアノやサンプルを入れ替えることができます。入れ替え作業は、Nordウェブサイトから無償でダウンロードできるNord Sound Managerアプリケーションを使用していきます。

また、Nord Stage 3は次々と新たなサウンドが追加されているNord Piano LibraryやNord Sample Libraryと互換性があります。追加されたサウンドは、随時、Nordウェブサイトのサウンドライブラリー・セクションから無償でダウンロードできます。

商標について

本マニュアルに記載のあらゆる商標やブランド名はそれぞれの所有者が保有する商標であり、Claviaとの一切の関係はありません。また、それらの商標やブランド名は本機の機能やサウンドを説明するためにのみ使用しています。

2 概要



Nord Stage 3は非常に柔軟かつ表現力に富んだ使いやすい楽器となるよう設計されています。ここでは、その主な機能をご紹介します。

オルガン・セクション

Nord Stage 3のオルガン・セクションには、評価の高いC2Dコンポ・オルガンに搭載された最新のB3トーンホイール・オルガン・モデルが採用されています。

このB3モデルは、オリジナルB3に内蔵された91枚のトーンホイールからの信号を膨大な時間をかけて解析するだけでなく、それぞれのトーンホイール同士の相関関係も忠実に再現したものをベースにしています。これにより、単にサウンドだけを再現するに留まらず、オリジナルB3の内部回路でリアルタイムに起きる現象のひとつひとつも忠実に再現しました。そのため、鍵盤高音部でのオクターブ繰り返しやトーンホイールのエネルギーロスもオリジナルそのままに再現できます。特にエネルギーロスによる穏やかなコンプ効果はオルガン・サウンドをオルガン・サウンドたらしめる重要な要素です。Nord Stage 3では、新品のオリジナルB3と同様にクリーンなタイプから使い古したサウンドなど、3種のトーンホイール・モデルを内蔵しました。

また、1960年代に活躍したVox Continental、Farf(Farfisa) Compactの2大トランジスター・オルガンのサウンドも忠実に再現しました。さらに、Nord C2Dに搭載された最新版のロータリー・スピーカー・シミュレーションも装備しました。スピーカーに取り付けられたローターやホーンが回転することにより発生する広がりのあるサウンドは、Nord Stage 3のオルガン・サウンドをさらに迫真のリアル・サウンドに仕上げます。コントロール面では、88鍵モデルと76鍵モデルにはすでに実績のあるNordのデジタルLEDドローバー、73鍵のCompactモデルには物理ドローバーを搭載しています。

さらに、「プリンシパル」パイプ・モデルを含む2つのパイプ・オルガン・モデルにより、様々な用途に使用できるパイプ/チャーチ・オルガンのサウンドを再現できます。

このセクションについては、17ページ以降のオルガンのチャプターで詳しく説明します。

ピアノ・セクション

2GBのメモリーを内蔵したNord Stage 3のピアノ・セクションには、驚くほど幅広いピアノ・サウンドとキーボード・サウンドが用意されています。ピアノ・サウンドはグランド・ピアノ、アップライト・ピアノ、エレクトリック・ピアノといったクラシック・ピアノとデジタル・ピアノ、そして事前に設定されたレイヤー・サウンドを含む6つのタイプに分類されます。

NORD PIANO LIBRARY

Nord Stage 3では、今後も増え続けるNord Piano Libraryのサウンドを利用できます。最先端のコンサート用グランド・ピアノや特徴あふれるアップライト・ピアノ、歴史的な楽器、そしてエレクトリック・ピアノなど、私たちは長い時間と手間をかけて多彩なサウンドを集めています。

Nord Piano Libraryの最新のサウンドは定期的にNordウェブサイト (www.nordkeyboards.com) にアップロードされ、無償でダウンロードできます。

ストリング・レゾナンス

ストリング・レゾナンスとは、アコースティック・ピアノのすべて、または一部の弦が演奏中の弦の基音や倍音に共鳴する音響現象のことです。ストリング・レゾナンスをオンにすると、演奏された音が互いに影響し合い、グランド・ピアノやアップライト・ピアノの内部で生じる音響相互作用を再現できます。

NORD TRIPLE PEDAL

Nord Stage 3は、ピアノ・セクションの機能を最大限に引き出すNord Triple Pedalに対応しています。

右側のペダルはサスティン・ペダルです。ペダルを踏むと、ペダルを離すまですべての音にサスティンがかかります。また、ペダルを踏んだときのメカニカルな「ペダル・ノイズ」をダイナミックにコントロールしたり、生き生きとした「ハーフ・ペダリング」テクニクを使用したりもできます。

左側のペダルはソフト・ペダルです。ウナ・コルダ(Una Corda)とも呼ばれています。このペダルを踏むと、演奏中のすべての音量がわずかに下がり、柔らかく落ち着いた音色になります。

中央のペダルはソステヌート・ペダルです。このペダルを踏んでいるときに弾いた音は「ダンパーが上がった状態」になるため持続しますが、そのあとに弾いた音は持続しません。

ペダル・ノイズ

グランドピアノやアップライトピアノのペダルを踏むと、ペダル機構内部の各種パーツから様々な音が出ます。この自然な音をNord Stage 3でも再現できます。サステイン・ペダルを踏むと、ダンパーが弦から外れるときの音や、その際に出る弦の音が聴こえます。

ペダルを離すとダンパーが弦の位置に戻り、このときにもかすかな音が出ます。

ピアノとCLAV EQ

現在のピアノ・サウンドのニュアンスを素早く切り替えるには、ピアノとClav EQの設定を使用します。Clav設定は元の楽器の特徴をエミュレートするために設計されていますが、ピアノ設定はピアノ奏者が演奏することを想定して設計されています。これらの設定を使用することで、曲の内容に応じてサウンドの柔らかさや明るさ、ミッドフォーカスの度合いなどを瞬時に変更できます。

このセクションについては、21ページ以降のピアノのチャプターで詳しく説明します。

プログラム・セクション

Nord Stage 3のプログラムには、サウンド・エンジンとエフェクトの設定がすべて含まれています。Nord Stage 3の中央にあるプログラム・セクションでは、プログラムの呼び出しや保存のほか、様々な演奏機能や設定メニューを操作できます。また、このセクションには、各プログラムで使用できる独立した2つのパネルを切り替えるためのパネル・ボタンが2つあります。

このセクションについては、25ページ以降の「プログラム」チャプターで詳しく説明します。

シンセ・セクション

Nord Stage 3のパワフルなシンセサイザー・エンジンは、評価の高いNord Lead A1をベースにしています。クラシックな波形やデジタル波形、そしてF-Wave(フォルマント)に加え、Nord Stage 3のシンセはあらゆる種類のサンプルベースのサウンドに使用できます。また、シンセ・セクションには他の方法では作り出せない豊富なマルチオシレーター・サウンドに適したS-Wave(スーパーウェーブ)カテゴリーもあります。オシレーター・コンフィギュレーションも多数用意されており、シングルまたはデュアルの様々なオシレーター設定、ウェーブシェーピング、フリケンシー・モジュレーションなどを行うことができます。さらに、シンセ・セクション専用の有機EL(OLED)ディスプレイにより、現在のオシレーターの設定を一目で確認できます。

Nord Stage 3を購入すると、MellotronやChamberlinなどの有名なビンテージ・サウンドを含み、世界有数のサウンドを誇る膨大な無償のライブラリー、Nord Sample Libraryにアクセスできます。また、ユーザーが作成したサンプルを本機にロードすることもでき、まったく新しいクリエイティブなサウンドの世界が広がります。

幅広い用途に使用できる12/24dBのローパス・フィルターや12dBのハイパス・フィルター、バンドパス・フィルターに加え、Nord Stage 3にはトランジスターをエミュレートしたローパス・フィルターやローパスとハイパスを組み合わせたパワフルなフィルターも搭載されています。

アンプ・エンベロープ、モジュレーション・エンベロープ、LFO、ユニゾン・コントロールを装備したNord Stage 3のパワフルなシンセ機能は、圧倒的なステージ・サウンドを生み出す無限の可能性をもたらします。

このセクションについては、31ページ以降のシンセのチャプターで詳しく説明します。

エクスターナル・セクション

Nord Stage 3にはMIDIコントローラーとしてのパワフルな機能が搭載されており、専用のエクスターナル・セクションを使用することでその真価を発揮します。エクスターナル・セクションでは内蔵のサウンド・エンジンと同じようにオン/オフを切り替えたりキーボード・ゾーンに割り当てたりできますが、その機能はMIDIを介してコンピュータやシンセ・モジュールなどの外部機器をコントロールすることに特化しています。

このセクションについては、41ページ以降のエクスターナルのチャプターで詳しく説明します。

エフェクト・セクション

包括的なエフェクト・セクションでは、幅広いクラシック・エフェクトを簡単にアサインできます。

エフェクト1および2ユニットには、伝説的なコンパクト・エフェクターやエフェクト・ユニットをモデルにしたトレモロ、コーラス、フェイザーなどの主要なモジュレーション・エフェクトがすべて用意されています。ディレイ・エフェクトにはアナログ・モードと専用のフィードバック・フィルターが搭載されており、ビンテージ・サウンドからモダン・サウンド、独特の雰囲気を持ったサウンドに至るまで、あらゆるサウンドに使用できます。

アンプ・シミュレーション/EQセクションでは、クラシックなアンプ・シミュレーション、多用途なEQ、パワフルなレゾナント・フィルターを使用できます。また、非常にタイトな「ファスト・モード」を備えた力強いコンプレッサーは、演奏をコントロールするのに役立ちます。そして最後に、豊かなリバーブはパネルごとに独立して使用でき、狭い部屋や広いホールなど、様々な空間の響きを瞬時にシミュレートできます。

※ エフェクト・パラメーターの多くはモーフ機能を使ってモジュレーション・ホイール、コントロール・ペダル、またはアフター・タッチでコントロールできます。これにより、様々な種類のクリエイティブな操作をリアルタイムで行えるようになります。

エフェクト・セクションとロータリー・スピーカーについては、43ページ以降のエフェクトのチャプターで詳しく説明します。

3 使い始める

ここからNord Stage 3の最も基本的な機能についてご紹介します。このチャプターでは、エディットや高度なセットアップを行う出発点としてお使いいただけるよう、最も一般的なシナリオとタスクを順を追って説明します。

接続する

- ① 電源コードを本機に接続し、コンセントに接続します。それからサスティン・ペダルやヘッドフォン、またはアンプ、ミキサーなどのオーディオ機器に接続します。
- ② 本機の電源を入れてから、オーディオ機器の電源を入れます。電源を入れるときはそれぞれの機器のボリュームにご注意ください。

接続に関する詳細は、57ページもご参照ください。

プログラム

プログラム・エリアはパネル中央にあり、その中央には有機EL (OLED)ディスプレイがあります。パネル上のすべてのパラメーターをプログラムとして保存でき、400個のプログラムをストックしておけます。

プログラムは「A」～「H」のラベルが付いた8つのバンクに分けられており、すべて自由に書き換えたり移動したりできます。



- ① プログラム・メモリーは、工場出荷時のプログラムを使用していつでも元の状態に戻すことができます。工場出荷時のプログラムはすべて Nord ウェブサイト (www.nordkeyboards.com) からダウンロードできます。

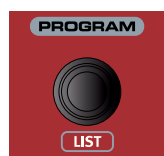
プログラムを選択する

- ① プログラムはディスプレイの下にある5つの **[PROGRAM]** ボタンを押して選択できます。**[PAGE ◀]**、**[PAGE ▶]** ボタンを押すと、プログラム・ページ（プログラムを5個ずつグループ化したページ）が切り替わります。Nord Stage 3のプログラム・バンクには最大で50個（プログラム・ページ10ページ分）のプログラムを登録できます。
- ♪ 工場出荷時のプログラムには「MW」や「AT」と書かれたものがあります。これらはそれぞれモジュレーションホイール、アフタータッチの略で、それらの機能を使うとサウンドが変化するようにになっています。ぜひお試しください。

- ② プログラムは **[PROGRAM]** ダイアルを回して切り替えることもできます。

パネル・コントロール

ダイヤルとノブ



Nord Stage 3では、開始位置と終了位置が固定されていないノブをダイヤルと呼び、パラメーターや設定を段階的に切り替えるのに使用します。**[PROGRAM]**ダイヤルもその1つです。このマニュアルでは、ダイヤルをエンコーダーと呼ぶこともあります。



[LEVEL]ダイヤルの周囲にはLEDインジケーターがあり、ダイヤルに関連付けられたパラメーターの現在値を示します。



Nord Stage 3では、多くのパラメーターにボリューム・タイプのノブが使用されています。プログラムをロードしたときにはノブの位置とパラメーターの実際の値が一致していないことが多いですが、ノブを回すと関連付けられたパラメーターの値がノブの位置を瞬時にキャッチしてノブの位置と一致するようになります。



モーフ・デスティネーションとして機能するノブには緑色のモーフLEDが付いています。モーフLEDはノブの左下であり、そのパラメーターにモーフ機能が割り当てられているとLEDが点灯します。詳しくは、25ページをご参照ください。

✧ プログラム・セクションにある**[MONITOR]**ボタンを押しながらノブを回すと、そのパラメーターの設定値を変更することなく現在の設定値をディスプレイで確認できます。

ボタン



セレクター・ボタンは、丸や三角形のLEDが付いたいくつかの選択肢からひとつを選択するパラメーターに使用されます。ボタンを数回押して選択肢を順に切り替えて選択できます。



[ON OFF] ボタンは、機能のオン/オフやエフェクトのように一連の機能をまとめてオン/オフするときに使用します。オン/オフの状態はボタンの近くにあるLEDで示されます。また、ソースやゾーンを示すLEDもあります。

❶ 図のようなエフェクトのオン/オフ・ボタンにはセレクター機能もあります。一度押すとエフェクトがオンになり、すぐにもう一度押すとソースが切り替わります。

[SHIFT]ボタン



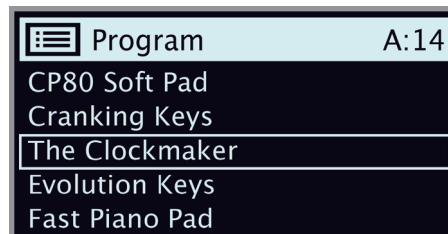
Nord Stage 3のパネル・コントロールの多くはもうひとつの機能を備えており、それらの機能は各ボタンのすぐ下にプリントされています。これらの機能を使用するには、**[SHIFT]**ボタンを押しながらそのコントロールを操作します。

[SHIFT]ボタンは、メニューを終了するときや保存操作を途中で中止するときに**[EXIT]**ボタンとしても使用します。

リスト・ビュー

下に**[LIST]**と書かれた**[PROGRAM]**ダイヤルなどのダイヤルでは、便利なリスト・ビューを使用できます。

① **[SHIFT]** ボタンを押しながら **[PROGRAM]** ダイヤルを回すと、すべてのプログラムの**リスト・ビュー**が表示されます。



② **[PROGRAM]** ダイヤルを使用してプログラムを確認します。リスト・モードでは8つすべてのプログラム・バンクにアクセスできます。

③ もう一度**[SHIFT]** ボタンを押すとリスト・ビューが終了します。

✧ **[PIANO]**ダイヤル、**[SYNTH PRESET]**ダイヤル、**[WAVEFORM]**ダイヤルのリスト・ビューも同じように機能します。

プログラムをエディットする

プログラムのエディットとは、ノブを回したりボタンを押したりして設定値を変更する、とても簡単な操作のことです。ちょっとやってみましょう。

① バンク A、プログラム 1 (ピアノ・ベースのプログラム) を選択し、これをエディットしてみましょう。

ピアノ・セクションのパネルはプログラム・エリアの左側にあります。プログラム・エリアのディスプレイのピアノ・セクションには選択したピアノ・サウンドの名前が表示され、**[PIANO SELECT]**インジケーターが「GRAND」に設定されていることを確認してください。

別のピアノ・サウンドを選ぶ

② **[PIANO SELECT]** ダイヤルを回してピアノ・サウンドを閲覧します。サウンドはピアノのタイプによって分類されています (グランドやアップライトなど)。**[PIANO SELECT]** LED インジケーターには、現在選択されているサウンドのタイプが表示されます。

③ **[SHIFT]** ボタンを押しながら **[PIANO SELECT]** ダイヤルを回すと**リスト・ビュー**が表示されるので、その中からピアノ・サウンドを選択してみましょう。もう一度**[SHIFT]** ボタンを押すとリスト・ビューが終了します。

パラメーターの設定を変更すると、ディスプレイに表示されているプログラム・ナンバーの後ろにアスタリスク(*)が付きます。これは、プログラムがエディット中で、まだメモリーに保存されていないことを示しています。このとき、保存の操作をせずに別のプログラムを選択すると、それまでのエディット内容は消えてしまい、次に同じプログラムを選択したときにはエディットする前の設定が表示されます。

メモリー・プロテクトをオフにする

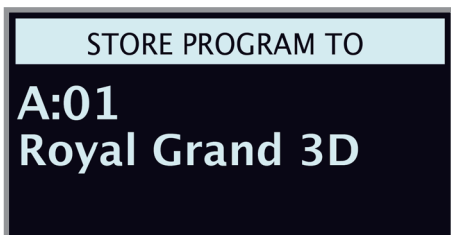
Nord Stage 3はメモリーがプロテクトされた状態で出荷され、工場出荷時のプログラムが誤って上書きされないようになっています。メモリー・プロテクトはシステム・メニューにある設定を切り替えることで、オフにすることができます。

- ① **[SYSTEM]** ボタン ([SHIFT] + [PROGRAM 1]) を押します。
 - ② メモリー・プロテクト ([Memory Protect]) はシステム・メニューの最初に表示される設定です。ディスプレイに別の設定が表示されている場合は、**[PAGE ◀]** ボタンを使用して「Memory Protect」を選択します。
 - ③ **[PROGRAM]** ダイアルを回してこの設定をオフに変更します。
 - ④ **[EXIT]** ([SHIFT]) ボタンを押してシステム・メニューを終了します。
- ❗ この設定は、ほかのすべてのシステム設定と同様に、再び変更されるまでは永続的に保存されます。

詳しくは、52ページの「システム・メニュー」をご参照ください。

プログラムを保存する

- ① ディスプレイの左にある **[STORE]** ボタンを一回押し、現在のプログラムの保存操作を始めます。
- ② **[STORE]** ボタンの LED が点滅し、プログラムの保存先を指定する画面がディスプレイに表示されます。



- ③ エディットしたプログラムを同じプログラム番号に上書き保存する場合は、**[STORE]** ボタンをもう一度押します。別のプログラム番号に保存する場合は、ダイアルや **[PAGE ◀]**、**[PAGE ▶]** ボタンを使用して別の場所を選択します。
- ※ 選択した場所のプログラムは、上書き保存する前にキーボードで試聴することができます。
- ④ プログラムの保存先を決めたら、**[STORE]** ボタンをもう一度押し、保存操作を確定します。
- ❗ **[STORE]** ボタンを押す前に **[SHIFT]/[EXIT]** ボタンを押すと保存作業を中止します。

保存操作およびプログラムに名前を付ける方法については、28ページのプログラムのチャプターをご参照ください。

ライブ・モード

他のプログラムとは異なり、5つのライブ・プログラムに対して行われたエディットは、手動の保存操作を行わなくてもすぐに保存されます。

- ① **[LIVE MODE]** ボタンを押して、5つの **[PROGRAM]** ボタンで5つのライブ・プログラムを切り替えます。
- ② 選択したプログラムに対して、いずれかのエフェクト・セクションをオンにするなどのエディットを行います。
- ③ 別のライブ・プログラムを選択したあとエディットしたライブ・プログラムに戻ると、エディットが自動的に保存されたことがわかります。

ライブ・モード・プログラムを通常のプログラムとしてプログラム・バンクに保存する場合は、**[STORE]** ボタンを押したあとに、**[LIVE MODE]** ボタンを押す(ライブモードを抜ける)ことで保存できます(前述の説明もご参考ください)。

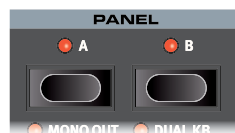
プログラムを5つのライブ・モード・プログラムのいずれかのメモリーに保存することもできます。この場合、そのプログラムの設定は現在選択されているライブ・モードの設定と入れ替わります。

[LIVE MODE] ボタンをもう一度押すと、ライブ・モードを終了し、プログラム・バンクに戻ります。

エフェクトをオンにする

- ① リバープの **[ON]** ボタンを押してリバープをオンにします。
 - ② リバープ・セレクター・ボタンの上にある **[DRY WET]** ノブでリバープの量を調整します。
 - ③ デイレイの **[ON OFF]** ボタンを1回押し、デイレイ・エフェクトをオンにします。
 - ④ ボタン上のLEDは、どのサウンド・エンジンがそのエフェクトにルーティングされているかを示します。**[PIANO]** LEDが点灯していない場合は、**[PIANO]** LEDが点灯するまで **[SHIFT]** ボタンとデイレイの **[SOURCE]** ボタンを押します。
- ※ **[ON OFF]/[SOURCE]** ボタンをダブルクリックすると、エフェクト・セクションのソースを素早く切り替えることができます。
- ⑤ **[TEMPO]**、**[FEEDBACK]**、**[FILTER]**、**[MIX]** のコントロールを使って、デイレイ・エフェクトの特性や強さを変更してみましょう。

2つのパネル



[PANEL A] ボタンと **[PANEL B]** ボタンを使用すると、物理パネル上の2つの機能セットに簡単にアクセスできます。例えば、オルガン/ピアノ/シンセ/エクスターナル/エフェクトのセットアップをパネルAに割り当て、別のセットアップをパネルBに割り当てるといったことができます。

これにより、2つの異なるサウンドを瞬時に切り替えたり、2つのオルガン、2つのピアノ、2つのシンセサイザーといった複雑なプログラムを扱ったりできます。この2つのパネルは、レイヤーとしても、スプリット・キーボード配列としても組み合わせることができます。まずはスプリットを設定し、そのあとでレイヤー・コンビネーションを追加して拡張してみましょう。

スプリットを作成する

- ① パネルAだけがアクティブで、ピアノ・セクションだけがオンになっていることを確認します。
 - ② スプリット・モードをオンにするには、プログラム・エリアのディスプレイ上方の最上段にある **スプリットの [ON/SET]** ボタンを押します。
 - ③ スプリット・ポイントの位置を調節するには、プログラム・エリアのディスプレイ上方の最上段にある **スプリットの [ON/SET]** ボタンを長押しします。
- ❗ 「▼」記号は、このボタンを長押しすることで機能の1つである **[SET]** にアクセスできることを示しています。
- ④ スプリット・ポイントには、位置と幅という2つの設定があります。ディスプレイに「Split Width Middle」と表示されている場合は、

ディスプレイ上の ◀ 記号に応じて [PROGRAM 4] ボタンを押し、スプリット・ポジションの設定を表示します。ダイヤルを使用して Mid スプリット・ポイントを C4 に設定します。

- ⑤ [PROGRAM 1] ボタンと [PROGRAM 3] ボタンを押し、他の 2 つのスプリット・ポイント (Low と High) が「Off」に設定されていることを確認します。

これでキーボードが 2 つのゾーンに分割されました。スプリット・ポイントは鍵盤上の緑の LED で表されます。同時にスプリットの [ON/SET] ボタンの上の [M] LED が点灯します。これはスプリットがオンになっていることと、Mid スプリット・ポイントだけがアクティブになっていることを表します。

ピアノをアッパー・ゾーンに割り当てる

- ⑥ 3 と 4 の LED だけが点灯した状態になるまで、ピアノの [KB ZONE SELECT] ボタン ([SHIFT] + [ON/SET]) を繰り返し押します。

この操作で、ピアノが鍵盤上の高音部 (アッパー・ゾーン) に割り当てられます。ピアノ・セクションの [OCTAVE SHIFT] ボタンを押すと、割り当てられる音の範囲が変わります。

シンセをローワー・ゾーンにセットする

- ⑦ シンセ・セクションをオンにします。1 と 2 の LED だけが点灯した状態になるまで、シンセの [KB ZONE SELECT] ボタン ([SHIFT] + [ON/SET]) を繰り返し押します。これでシンセが鍵盤上の低音部 (ローワー・ゾーン) にセットされます。

- ❶ 3 つのスプリット・ポイントである Low、Mid、High のすべてを使用すると、鍵盤を合計で 4 つのゾーンに分割できます。各ゾーンには、6 つのサウンド・エンジンと 2 つのエクスターナル・セクションのいずれかまたはすべてを割り当てることができます。

シンセ・プリセットをロードする

- ① [SYNTH PRESET] ダイアルを回して 8 つのプリセット・バンクからシンセ・プリセットを選択します。試しにベース・シンセを選択してみてください。プログラム・エリアのディスプレイの一番下にプリセットの場所と名前が表示されるはずですが、シンセ・ディスプレイには現在アクティブなオシレーター設定が表示されます。



パネル上のすべてのシンセサイザー・パラメーターは、プリセットをベースとして使用した場合でも調整できます。パラメーターについて詳しくは、31 ページ以降のシンセのチャプターをご参照ください。

- ※ [MONITOR] ボタンを押しながらパラメーターのノブを回すと、設定を変更することなくパラメーターを確認できます。

レイヤーを作成する

シンセとピアノのスプリットにさらにサウンドを重ねてみましょう。

- ① [PANEL B] ボタンを押しパネル B をアクティブにします。これで、2 つ目のサウンド・エンジンとエフェクトを使えるようになります。
- ② シンセ・セクションだけがオンになっていることを確認します。[PROG INIT] ボタン ([SHIFT] + [LIVE MODE]) を押し、[PROGRAM 4] ボタンを押しディスプレイ上の「Synth」を選択します。

- ※ [PROG INIT] 機能を使用すると、作成するプログラムのタイプに適した方法で現在のパネルを素早く初期化できます。使用しないセクションはすべて無効化され、使用しないパラメーターはすべてリセットされます。

- ③ [SYNTH PRESET] ダイアルを使用して、設定したスプリットの上に重ねるサウンドを選択します。

2つのパネルを同時にアクティブにする

- ④ **[PANEL A]** ボタンと **[PANEL B]** ボタンを同時に押すと、両方のパネルのサウンドを使用したレイヤーを作成できます。パネル A にはシンセとピアノのスプリットが含まれ、パネル B のシンセ・サウンドがその上に重ねられます。

パネルLED(AまたはB)の点滅は、現在フォーカスされている(パネル上でエディット可能な状態にある)パネルがどちらであるかを示しています。フォーカスを切り替えるには、フォーカスしたいパネルのボタンを押します。

スプリット・クロスフェード(スプリット幅)を設定する

最後の手順として、スプリットしたシンセとピアノのサウンドがなめらかに切り替わるようにスプリット・ポイントを調節しましょう:

- ⑤ プログラム・エリアのディスプレイ上方の最上段にある**スプリットの [ON/SET]** ボタンをもう一度押したままにします。
- ⑥ ディスプレイ上の ▶ 記号に応じて [PROGRAM 4] ボタンを押します。これで各スプリット・ポイントのスプリット幅を調節できます。
- ⑦ Mid スプリット・ポイントを選択し、ダイヤルを回して「Lrg」に設定します。**スプリットの [ON/SET]** ボタンを離します。



これで、スプリット・ポイントをまたいで演奏すると、低音部と高音部の間に「クロスフェード」がかかるようになります。

※ スプリットやレイヤーを使用する際には、エクスターナル・セクションも使用できます。例えば、鍵盤上の1つのゾーンだけで外部ユニットをコントロールする場合などです。スプリット幅の設定はエクスターナル・セクションには適用されません。

同時にアクティブにした2つのパネルを非アクティブにするには、保持したいパネルのパネル・ボタンを押しながらもう一方のパネル・ボタンを押します。

モーフ機能



モーフ機能を使用すると、モジュレーション・ホイール、コントロール・ペダル、またはキーボード・アフタータッチを使って演奏中に1つまたは複数のパラメーターを変更できます。つまり、モーフ機能に含めるソース(物理コントローラー)、デスティネーション・パラメーター、パラメーター範囲を選択することでモーフィングを設定できます。

- ① ここではドローバーをモジュレーション・ホイールでコントロールしてみましょう。まずはオルガン・セクションがオンになっていることを確認します。
- ② オルガン・モデルが B3 になっていることを確認し、ドローバーのうち左から3本(Sub、Sub3、Fund)を下側のドローバー・ボタンを押して「引き出した」状態にします。Nord Stage 3 Compact モデルを使用している場合はドローバーを実際に引きます。
- ③ プログラム・エリアのダイヤルの上にある [MORPH ASSIGN] グループの **[WHEEL]** ボタンを押したままにします。
- ④ ドローバーの右4本をドローバー・ボタンで完全に引き出します。このとき、各ドローバーの量はそれぞれLEDがひとつ点灯して表示されます。これはモーフ機能によるコントロール量を表示しています。
- ⑤ **[WHEEL]** ボタンを離すと設定は完了です。モジュレーション・ホイールを操作しながら少し弾いてみましょう。

モジュレーション・ホイールの動きに応じてドローバーも動き、音色に変化が起こります。

※ モーフ・ソース(モジュレーション・ホイール、コントロール・ペダル、アフタータッチ)は、複数のパラメーターを同時にコントロールできます。

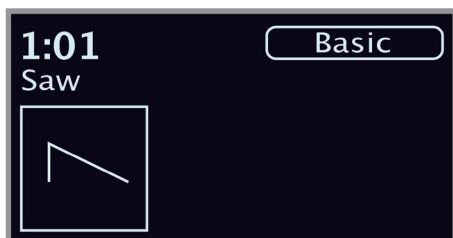
※ ひとつのモーフソースで一方のパラメーターを上昇させ、同時に他方を下降させる設定も可能です。これにより例えば、クロスフェードのようなことができます。

モーフ機能について詳しくは、25ページをご参照ください。

シンセサイザー

Nord Stage 3のシンセ・セクションの主な機能を見ていきましょう。まずは、クラシックな「アナログ」波形を使用してサウンドを設定する方法について説明します。

- ① シンセ・セクションがオンになっていることを確認します。シンセの **[ON]** ボタンを押すか、**[PROG INIT]** ボタン ([SHIFT]+[LIVE MODE]) を押してディスプレイで「Synth」を選択します。
- ② まっさらな状態から始めるために、**[SOUND INIT]** ボタン ([SHIFT]+[UNISON]) を押してシンセサイザーをデフォルト設定の状態に初期化します。
- ③ ディスプレイの下の波形セクターが **[CLASSIC]** に設定されていることを確認します。ノコギリ波が選択されるまで **[OSC 1 WAVEFORM]** ダイアルを回します。
- ④ この時点では、画面の右半分にも何も表示されていません。ここでは、ベーシックなシングル・オシレーター・コンフィギュレーションを使用します。つまり、**[OSC CTRL]** ノブはサウンドに何の影響も与えません。別の構成を選択してみましょう。



- ⑤ **[CONFIG]** ダイアル ([SHIFT] + [OSC 2 PITCH]) を回し、別の構成をブラウズします。「Mix Square」構成を選択して **[SHIFT]** ボタンを離します。



- ⑥ これで2つのオシレーターを使用できるようになりました。1つはノコギリ波、もう1つは矩形波に設定されています。**[OSC CTRL]** ノブを回して2つのオシレーターのサウンドをミックスします。
- ⑦ オシレーター・セクションの **[OSC 2 PITCH]** ダイアルを回して ([CONFIG] ダイアルと同様の操作ですが [SHIFT] ボタンは押さずに回します)、矩形波に別のピッチを選択します。ピッチはディスプレイに半音単位で表示されます。これにより、最初のオシレーター（この例ではノコギリ波）のサウンドを別のピッチ（1オクターブ下から数オクターブ上まで）のサウンドにミックスできます。この例では1オクターブ下の「sub」を使用しています。



最後の手順として、フィルター・セクションで調節してみましょう：

- ⑧ フィルター・セクションの **[FREQ]** ノブを反時計回りに回すと、サウンドが徐々に抑えられていきます。すべての **フィルター・タイプ** 設定についてこの操作を繰り返し、サウンドの形成にどのような影響を与えるかを確認してください。

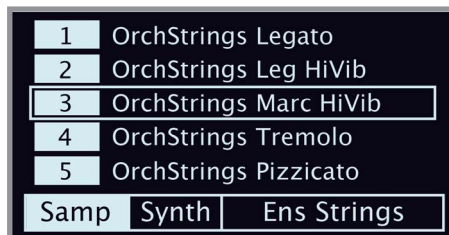
- ❶ フィルター・タイプとその他の設定について詳しくは、35ページ以降のフィルターのセクションをご参照ください。

サンプル・プリセットをロードして調節する

今回はサンプル・プリセット・バンクからロードしたサンプルをベースにストリング・パッド・サウンドを設定してみましょう。

※ サンプルは[OSC 1 WAVEFORM]ダイアルで選択できるほか、シンセ・プリセット・バンク内でプリセットとしても使用できます。プリセットからロードすると、アンブ・エンベロープやベロシティなどのいくつかのシンセ設定は、そのサンプルに適した値に自動的に設定されます。もちろん、すべてのパラメーターは必要に応じて手動で調節できます。

- ① **[SHIFT]** ボタンを押しながら **[SYNTH PRESET]** ダイアルを回し、シンセ・プリセットの **リスト・ビュー** を表示します。
- ② ディスプレイ上の **Samp** ボタン (プログラム 1 ボタン) を押してサンプル・プリセットだけを表示します。ディスプレイ上でいずれかの **カテゴリ・ボタン** (PROGRAM 3 または PROGRAM 4) を押すと、すべてのシンセ・プリセットがカテゴリごとグルーピングされます。**[PAGE ◀]**、**[PAGE ▶]** ボタンを使用するとカテゴリを素早く切り替えることができます。
- ③ **[SYNTH PRESET]** ダイアル (または [PROGRAM] ダイアル) を回して適当なアンサンプル・ストリングスを選択します。



- ④ いくつか音を弾いてみましょう。サウンドからパッドを作成するには、いくつかの調整が必要です。**[AMP ENV]** (アンブ・エンベロープ) セクションに移動します：
 - ⑤ 音を弾きながら、鍵盤を離れたときに減衰が適当な長さになるようにアンブ・エンベロープの **[RELEASE]** コントロールを調節します。5.0 前後の値がよいでしょう。
 - ⑥ 同じように、演奏する音がより柔らかくゆるやかに始まるように **[ATTACK]** コントロールを調節します。この場合も、値は 5.0 前後がお勧めです。
 - ⑦ ストリング・パッドの仕上げとして、**[FILTER FREQ]** を調節してサウンドを柔らかくします。6.0 前後の値を基準にするとよいでしょう。
- ❶ この例ではプリセットをベースにしているため、前述の手順 8 を試してみる場合は **[VEL MOD ENV]** ノブを 0 (12 時の位置) にセットしてプリセット・ベロシティの動作をリセットしてください。

この基本のストリング・パッド・サウンドは、モジュレーションやエフェクトを追加するなどしてさらに強化することもできます。モジュレーション・オプションについては32ページ、エフェクトについては43ページ以降をご参照ください。

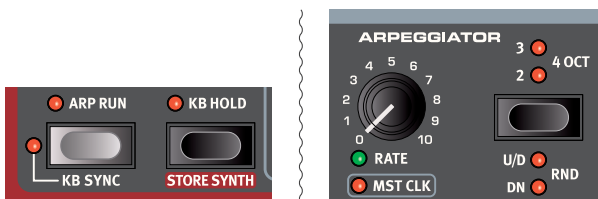
Nord Sound Managerソフトウェアを使用すると、Nord Stage 3にサンプルをさらに追加できます。

※ [STORE SYNTH]ボタン([SHIFT]+[KB HOLD])を押すと、調整したシンセ・サウンドをプリセットとして保存できます。

アルペジエーター

最後の練習として、シンセ・セクションとアルペジエーターを使用したサウンドを作成してみましょう。

- ① シンセ・セクションだけがオンになっていることを確認し、**[SOUND INIT]** ボタン ([SHIFT]+[UNISON]) を押します。アンプ・エンベロープの **[ATTACK]** を 0、**[DECAY]** を 3 前後にセットします。ノコギリ波を選択し、フィルターを少し開いた状態にします。これでパーカッシブなサウンドになります。
- ② **[ARP RUN]** ボタンを押し、鍵盤でコードを押さえながらアルペジエーターの **[RATE]** ノブを回します。これで、押さええているコードの構成音によるアルペジオになります。



- ③ **[SHIFT]** ボタンを押しながらアルペジエーターのセクター・ボタンを押すと、アルペジオの方向を選択できます。ディレクション LED がすべて消えているときは、アルペジオ・ディレクションはアップ (UP) になります。これは押さえたコードの最低音から最高音へ向かって順に発音し、最高音を発音すると再び最低音に戻るタイプです。他のディレクションにはダウン (DN)、アップ&ダウン (UP/DN)、ランダム (RD) があります。
- ④ セクター・ボタンを数回押ししてレンジを選択します。レンジ LED がすべて消えているときは、鍵盤で押さえたコードと同じオクターブでアルペジオ演奏します。**[2 OCT]** が点灯しているときは元のオクターブをアルペジオ演奏してから 1 オクターブ上を演奏します。**[3 OCT]** が点灯しているときは [2 OCT] のさらに 1 オクターブ上も演奏し、**[4 OCT]** が点灯している状態では [3 OCT] よりもさらに上のオクターブまで演奏します。
- ⑤ **[KB HOLD]** ボタンを押すと、鍵盤から手を離してもアルペジオ演奏をそのまま続けます。

マスター・クロック

マスター・クロック機能を使ってアルペジエーターとエフェクトを同期させてみましょう。

- ① **[SHIFT]** ボタンを押しながらアルペジエーターの **[RATE]** ノブを回してアルペジエーターをマスター・クロックに同期させると、**[MST CLK]** LED が点灯します。
- ② プログラム・エリアでマスター・クロックの **[TAP/SET]** ボタンを押しながら、**[PROGRAM]** ダイヤルでテンポを指定します。**[CLOCK]** ボタン ([SHIFT] + [TAP/SET]) を押すと、ボタンを押し続けなくてもマスター・クロックの表示と調節を行えます。テンポは BPM 表示です。ここでは 130BPM に合わせてみましょう。ボタンを離してテンポ指定モードを解除します。「**CLOCK**」モードの場合は **[EXIT]** ボタン ([SHIFT]) を押します。

☀ **[MST CLK]** ボタンを 4 回タップするとタップ・テンポ入力ができます。



- ③ アルペジオの **[RATE]** ノブを回すとマスター・クロックに比例した周期 (または音符) でアルペジエーターを演奏させることができます。ノブを回すとプログラム・エリアのディスプレイに設定が表示されます。1/4 は 1/8 の半分の「スピード」になります。また、数字の後ろにある「T」は三連符の意味です。ここでは 1/8 にしましょう。
- ④ **ディレイ**・エフェクトをオンにし、**[SOURCE]** ボタンを数回押ししてシンセの LED を点灯させ、ソースをシンセに設定します。ディレイ・タイムをアルペジオのリズムに合うように慎重に合わせてもよいのですが、他の方法もあります。ディレイ・タイムをアルペジオと同じクロックに同期させてみましょう。
- ⑤ **[SHIFT]** ボタンを押しながらディレイの **[TEMPO]** ノブを回し、ディレイのマスター・クロックをオンにします。すると、**[MST CLK]** LED が点灯します。



- ⑥ ディレイの **[TEMPO]** ノブを回し、プログラム・エリアのディスプレイで設定を再度確認します。
- ⑦ ここではアルペジオの半分の音価 (スピードは倍速) の 1/16 に合わせてみましょう。**[AMOUNT]** ノブを時計の 12 時の位置を超えない程度にし、アルペジオの音とディレイ音を聴いてみましょう。

アルペジオ、シンセ・セクションの LFO、ディレイ、エフェクト 1 のレートはこの方法でマスター・クロックと同期させることができます。

この他にも、マスター・クロックは A/B 2 つのパネルに共通して使用できますので、それぞれパネル間でアルペジオや LFO、エフェクトの同期を行います。

1/1 よりも大きい譜割りや 1 小節よりも長い周期になります。また、いくつかをマスター・クロックと同期させ、その他を同期させないというセッティングも行えます。

4 オルガン



Compactモデル

Nord Stage 3のオルガン・セクションには、トーンホイール方式のB3オルガン、トランジスター方式の2種類のオルガン(Vox, Farfisa)、プリンシパルを含む2種類のパイプ・オルガン方式のオルガンを忠実に再現した5タイプのオルガン・モデルが内蔵されています。パネルAとパネルBにはそれぞれ異なるオルガン・モデルを選択できるため、異なるオルガン・タイプを使用してスプリットやレイヤーを作成できます。

- ① オルガン・セクションのすぐ横にはロータリー・エフェクトがあります。これについては46ページ以降のエフェクトのチャプターをご参照ください。

オン/オフの切り替えとレベルおよびゾーンを選択

オルガン・セクションは[ON/OFF]ボタンを押してオン/オフを切り替えます。オルガンのサウンド出力レベルはモーフィング可能な[LEVEL]エンコーダーでコントロールします。

[ZONE SELECT]ボタン([SHIFT] + [ON/OFF])を押すと、アクティブなキーボード・ゾーンにオルガンを割り当てることができます。緑色の[KB ZONE] LEDは、オルガン・セクションが割り当てられているゾーンを表します。スプリットの設定とキーボード・ゾーンについては、26ページをご参照ください。

オクターブ・シフト

[OCTAVE SHIFT]ボタンを使用すると、オルガン・セクションを1オクターブ上または下(±12半音)にトランスポーズできます。オクターブ・シフトをキーボード全体に割り当てると、キーボード全体を1オクターブ上または下にトランスポーズできます。ゾーンに割り当てると、トランスポーズできる値は異なりますが、オルガンの全範囲にはいつでもアクセスできます。

ピッチ・スティックとサスティン・ペダル

[PSTICK]ボタン([SHIFT] + [OCTAVE SHIFT]左側のボタン/

OCTAVE DOWN)を押すと、オルガンのピッチ・スティック機能をオンにできます。この機能をオンにすると、ピッチ・スティックを使用してオルガン・サウンドが2半音バンドされます。

[SUSTPED]ボタン([SHIFT] + [OCTAVE SHIFT]右側のボタン/OCTAVE UP)を押すと、接続したサスティン・ペダルをオルガン・セクションで使用できるようになります。接続したペダルの設定方法については詳しくは、52ページのメニューのチャプターをご参照ください。

ドローバーとドローバー・ボタン

Nord Stage 3の88鍵モデルと76鍵モデルのドローバーには、ボタンとLEDバーグラフを採用しました。73鍵のCompactモデルには機械式ドローバーが搭載されています。

本機のデジタルドローバーは機械式ドローバーと同じように動作します。B3, Vox, パイプ, サインの各モデルでは、ドローバー・ボタンを使用してドローバーの「引き出し」と「押し込み」を行います。Farfモデルではドローバー・ボタンはレジスターのオンとオフを切り替えるロッカー・スイッチとして動作します。

ドローバー・ボタンは押し続けると自動的に音量が増減するようになっていきますので、何度も繰り返しボタンを押す必要がありません。

- ※ ドローバーはモジュレーション・ホイールやコントロール・ペダルを使用して劇的に音色を変化させることができるモーフ機能でコントロールできます。

ドローバー・ボタンを押している間に逆方向のボタンを押すこともできます。

- ① オルガン・セクションの現在のドローバー設定はプログラム・セクションのディスプレイにも表示されます。これは、ドローバー LED のない Compact モデルで特に便利です。

オルガン・モデルを選択する



オルガン・モデルの選択は、**[ORGAN MODEL]**セレクトター・ボタンを使用して行います。Pipe 1 が設定されている場合は上2つのLEDが、Pipe 2 が設定されている場合は下2つのLEDが点灯します。

B3モデル

B3 モデルはクラシックなエレクトロメカニカル・トーンホイール・オルガンを忠実にデジタル・モデルで再現したものです。オリジナル・サウンドのあらゆるニュアンスを余すところなく忠実に再現できる革新的な技術を採用して実現したこのモデルには、次のような主な特長もあります：

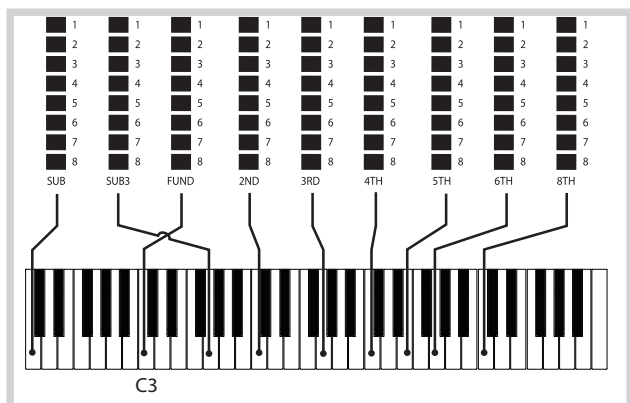
- オリジナルのコーラス、ピブラート・スキャナーを忠実に再現。
- ドローバー内部で不規則に発生するコンタクト・バウンスをモデリング。
- オルガン・サウンドの「ボディ」を構成するオリジナルの内蔵プリアンプのユニークな周波数特性を忠実に再現。
- トーンホイール回路で発生するエネルギー・ロスによるコンプレッション効果のシミュレーション。
- オリジナル同様のトーンホイール・チューニングを採用。
- 驚異的に素早いキーボード・レスポンス。
- 全鍵ポリフォニック。

B3ドローバー

トーンホイール・オルガンの各ドローバーの倍音のインターバルは、ドローバーの下にプリントされています。

ドローバーの基本的な操作法につきましては、前ページの「ドローバーとドローバー・ボタン」をご覧ください。各ドローバーからは打鍵したピッチに対して一定の比率の倍音が発音されます。

下図は C3 を打鍵したときに発音する 9 本のドローバーのピッチ・インターバルを示したものです。SUB3ドローバーは、実際には FUND(ファンダメンタル: 基音) の 5 度上のピッチですが、多くの場合、聴感上は基音よりも低いピッチに聞こえます。



ピブラート&コーラス

トーンホイール・オルガンに内蔵されたオリジナルのピブラート&コーラス・スキャナーは、モジュレーションがかかったディレイ・ラインと回転式スキャナーを組み合わせたものでした。ピブラート・エフェクトには、オーディオ信号にフェイズ・シフターが接続されていました。コーラス・エフェクトでは、フェイズ・モジュレーションされた音が原音にミックスされていました。

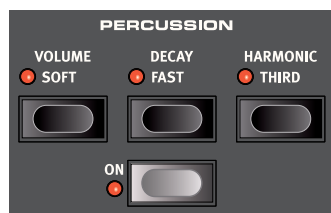


Nord Stage 3 ではオリジナルと同様、3 種のコーラス (C1 ~ C3) と 3 種のピブラート (V1 ~ V3) を使用できます。[VIBRATO/CHORUS] セレクトター・ボタンでこのうちの 1 種を選択できます。このエフェクトは、パネルごとオン / オフできます。

パーカッション

[PERCUSSION] の **[ON]** ボタンを押すと、B3 サウンドにさらなるアタックを追加できます。パーカッションは 1 基のエンベロープ・ジェネレーターで構成され、2nd または 3rd の倍音を発音します。

鍵盤を弾くと、エンベロープ・ジェネレーターがわずかの瞬間だけ開きます。パーカッションはシングル・トリガーでノン・レガートのエフェクトですので、他に打鍵している音がないときでないと発音しません。言い換えれば、単音やコードを弾いているときに、それらの音が完全にリリースしない間に別の鍵盤を打鍵 (レガート奏法) しても、その音にはパーカッションはかかりません。このため、すべての音にパーカッションをかけた場合は、前の音を完全にリリースさせてから次の音を打鍵するノン・レガートで演奏する必要があります。



[VOLUME SOFT] ボタンはパーカッションの音量のノーマルとソフトの切り替えを行います。また、**[DECAY FAST]** ボタンはパーカッションのディケイのスロー / ファストの切り替えを行います。

[HARMONIC THIRD] ボタンはパーカッション・エフェクトのソースとなる倍音を 2nd または 3rd から選択するときを使用します。

- ❶ パーカッション・エフェクトは B3 オルガン・モデルにのみ使用できます。

キー・クリック・コントロール

オリジナルのキー・クリックは鍵盤の接点でランダムに発生するコンタクト・バウンスによるもので、当初は設計ミスと捉えられていました。ところがこの設計ミスによるサウンドがミュージシャンの間で好評となり、今ではオルガン・サウンドに欠かせないファクターの 1 つになっています。キー・クリックのレベルはサウンド・メニューで設定できます。詳しくは 53 ページをご参照ください。

- ※ B3 モデルには 3 種のトーンホイール・モデルがあり、これらはサウンド・メニューで切り替えることができます。新品同様のクリーンなサウンドから長年使い古したサウンドまで、劇的にサウンドが変化しますのでぜひお試しください。

VOXモデル

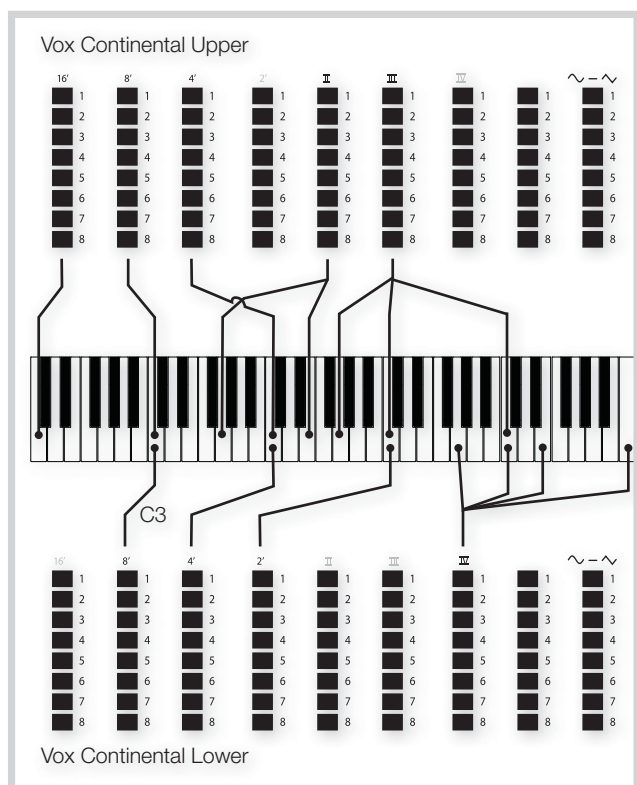
オリジナルの Vox™オルガンは 1960 年代初期に出現したすべてのトランジスター式コンボ・オルガンの中で最も有名なオルガンと言えます。トランジスター技術の普及により、オルガンをコンパクトでポータブルな楽器として開発できるようになりました。トーンホイール式オルガンの分厚く力強いサウンドと比べて、トランジスター式オルガンのサウンドは一般的に耳につく線の細いものでしたが、一聴してすぐにそれと分かる特徴的なサウンドと高い可搬性、そしてクールなデザイン（リバースカラーのキーボードやクローム・フィニッシュの「Z フレーム」スタンドなど）で当時は絶大な人気を誇りました。そのサウンドはやがて時代を超えたクラシックなものとなり、Nord Stage 3 で忠実に再現されました。

VOXDローバー

Vox モデルの各ドローバーの名称は、ドローバー LED の直上の行にプリントされています。

ドローバーの基本的な操作法につきましては、17 ページの「ドローバーとドローバー・ボタン」をご参照ください。

Vox モデルでは 7 本のドローバーで各倍音の音量をコントロールして音色を作ります。各倍音は打鍵したノートと一定比率のピッチになります。下図は、C3 を打鍵したときの各ドローバーのピッチ・インターバルを示したものです。図のとおり、アッパーとローワーでドローバーの構成が異なりますが、Nord Stage 3 でもそれを忠実に再現しています。



一番右のドローバーは、フィルターを通したソフトでダークなサウンドと、フィルターを通さないブライトで耳につくサウンドのミックスをコントロールします。

ビブラート

Vox モデルにはいくつかのビブラートとコーラスがあり、ビブラート・セクションの [ON] ボタンでオン / オフを切り替えられます。ビブラートの **V3** セットアップはオリジナルを忠実に再現したものです。

Vox モデルのビブラート設定はパネル A とパネル B のオルガン・セクションに共通してかかりますが、オン / オフはそれぞれ個別に切り替えられます。

FARFモデル

Farfisa オルガンは、特徴的なブザーのようなサウンドから、これまで製造されたすべてのオルガンで最もそれと分かるサウンドのビンテージ・キーボードですが、実はサウンド・パリエーションが豊富な点もこのオルガンの大きな特徴なのです。Flute はソフトな音、Oboe は耳につく音、Trumpet はブライトな音というように、各音色名はその楽器音をシミュレートしたのではなく、その端的な特長を楽器名に例えたものです。

FARFレジスター

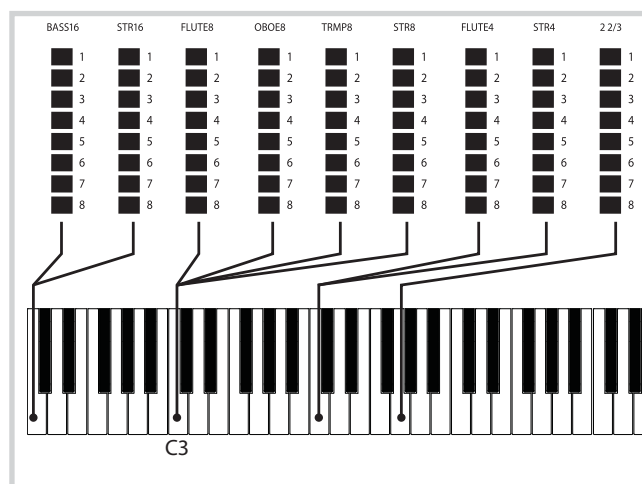
FARF モデルの各ドローバー / レジスター名は、ドローバー LED またはドローバーの上の 1 行目にプリントされています。

Farf モデルではドローバーはオン / オフ・スイッチ、または「レジスター・セレクター」として機能します。オリジナルの Farfisa オルガンでは、ドローバーではなく、インストゥルメント・ボイス（実際には異なるフィルター・セッティング）を選択するためのロッカー・スイッチを使用していました。ドローバー LED の 5 ~ 8 でオンになっているボイスを、1 ~ 4 はオフになっているボイスをそれぞれ表示します。Nord Stage 3 Compact モデルでは、ドローバーを半分以上引き出すとレジスターがオンになります。

また、従来通り、プログラム・セクションのディスプレイにはオルガン・セクションの現在のドローバー設定が表示されます。以下の表はオリジナルのレジスター名をまとめたものです。

ドローバー	ボイス	パネル上の表記
1	Bass 16	BASS16
2	Strings 16	STR16
3	Flute 8	FLUTE8
4	Oboe 8	OBOE8
5	Trumpet 8	TRMP8
6	Strings 8	STR8
7	Flute 4	FLUTE4
8	Strings 4	STR4
9	基音に対してオクターブと5度上のブライトな音	2 2/3

下図は、C3 を打鍵したときの各ボイス間のピッチ・インターバルを示したものです。ピッチが同じボイスがありますが、音色のキャラクターはそれぞれ異なります。



ビブラート

オリジナルの Farfisa オルガンのビブラートはそれぞれ周期の異なる「ライト」と「ヘビー」という 2 種類の基本的なビブラート・モードがありました。Farf モデルでも複数のタイプのビブラート、コーラスを内蔵し、ビブラート・セクションの **[ON]** ボタンでオン/オフできます。

Farf モデルではビブラートは両方のパネルに共通してかかります。

パイプ・オルガン

PIPE1

[PIPE1] オルガン・モデルは既存の楽器を再現するものではなく、便利で魅力的な「多目的」オルガンとして設計されており、ロータリー・スピーカーを使用してもしなくても効果的に使うことができます。音色は B3 オルガンに似ていますが、エレクトロメカニカルな効果やアーティファクトはありません。

PIPE2

[PIPE2] オルガン・モデルはプリンシパル・パイプ・セクションを忠実に再現します。プリンシパル・パイプ・セクションは金属製のパイプを束ねたものでランクとも呼ばれ、パイプ・オルガンまたはチャーチ・オルガンの土台となる部品です。ランクには他の楽器（フルート、トランペット、弦楽器など）のサウンドを再現するものもありますが、プリンシパル・サウンドは他の楽器を模倣するのではなく、パイプ・オルガンに固有のサウンドを表現します。

[PIPE2] の **[VIBRATO/CHORUS]** をオンにすると、プリンシパル・パイプ・オルガンの別のバリエーションに切り替わります。このバリエーションはあまり正確にチューニングされていないため、レジスターを組み合わせ合わせた場合にコーラスのような効果が生まれ、わずかに不協和音が生じてより本物らしく聴こえます。

PIPE1/PIPE2のレジスター

[PIPE1]、**[PIPE2]** のパイプ・モデルのパイプの長さは、B3 モデルと同じ 16 フィートから 1 フィートまでです。

オルガン・プリセット I/II



各オルガン・モデルについて、1 つのパネル内に 2 つのオルガン・プリセットまたは設定を保存できます。これにより、オルガン・サウンドの 2 つのバリエーションを、プログラムやパネルを変更することなく素早く切り替えることができます。

プリセット I と II の切り替えは、**[PRESET III]** ボタンで行います。各プリセットには、ドローバーの設定とビブラート/コーラスとパーカッションの設定（オン/オフ）が保存されます。

ドローバー・ライブ (COMPACTモデル)



Nord Stage 3 Compactモデルにはドローバー・ライブ設定があります。この設定をオンにすると、物理ドローバーの現在の位置を使用してオルガンを演奏します。この設定はプログラムと一緒に保存できます。つまり、プログラムをロードすると同時に実際のドローバー

位置が適用されます。

スウェル・ペダル

スウェルはエクスプレッション・ペダルでコントロールするオルガン特有の機能です。これは単なるボリューム・コントロールではなく、B3 では特殊な方法を使用しており、音量とともに音色も微妙に変化しています。Nord Stage 3 でスウェル・コントロールを使用する場合は、一般的なエクスプレッション・ペダルを本機リアパネルの **[ORGAN SWELL]** インプットに接続（57 ページをご参照ください）し、ペダルの設定をシステム・メニューで行います（52 ページをご覧ください）。

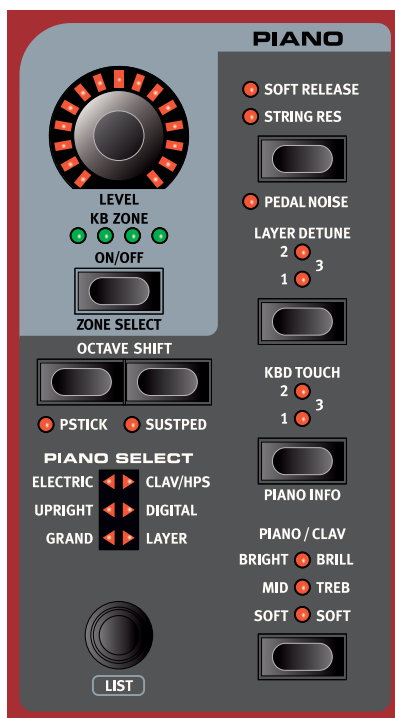
[ORGAN SWELL] インプットにエクスプレッション・ペダルを接続すると、すべてのオルガン・モデルのスウェルをコントロールできるようになります。

エクスプレッション・ペダルが 1 つしかない場合でも、モーフ機能のコントローラーとスウェル・ペダル機能（コントロール・ペダル・ジャックに接続した場合）を切り替えて使用できます。この設定はシステム・メニューでも行えます。

ロータリー・スピーカー

ロータリー・スピーカーのコントロールはオルガン・セクションのすぐ隣にあります。この設定については、46 ページのエフェクトのチャプターで詳しく説明します。

5 ピアノ



オン/オフの切り替えとレベルおよびゾーンの選択

ピアノ・セクションは[ON/OFF]ボタンを押してオン/オフを切り替えます。ピアノのサウンド出力レベルはモーフィング可能な[LEVEL]エンコーダーでコントロールします。

[ZONE SELECT]ボタン([SHIFT] + [ON/OFF])を押すと、アクティブなキーボード・ゾーンにピアノを割り当てることができます。緑色の[KB ZONE] LEDは、ピアノ・セクションが割り当てられているゾーンを表します。スプリットの設定とキーボード・ゾーンについて詳しくは、26ページをご参照ください。

オクターブ・シフト

[OCTAVE SHIFT]ボタンを使用すると、ピアノ・セクションを1オクターブ上または下(±12半音)にトランスポートできます。オクターブ・シフトをキーボード全体に割り当てると、キーボード全体を1オクターブ上または下にトランスポートできます。ゾーンに割り当てると、トランスポートできる値は異なりますが、ピアノの全範囲にはいつでもアクセスできます。

ピッチ・スティックとサスティン・ペダル

[PSTICK]ボタン([SHIFT] + [OCTAVE SHIFT]左側のボタン/OCTAVE DOWN)を押すと、ピアノのピッチ・スティック機能をオンにできます。この機能をオンにすると、ピッチ・スティックを使用してピアノ・サウンドが2半音ベンドされます。

[SUSTPED]ボタン([SHIFT] + [OCTAVE SHIFT]右側のボタン/OCTAVE UP)を押すと、接続したサスティン・ペダルをピアノ・セクションで使用できるようになります。接続したペダルの設定方法については、53ページのメニューのチャプターをご参照ください。

ピアノ・サウンドについて

Nord Stage 3のピアノには6種類のタイプがあり、各タイプにはさらにいくつかのインストール・モデルがあります。Nord Sound Managerを使用すると、Nordウェブサイト(www.nordkeyboards.com)から新たなピアノ・サウンドをダウンロードしてNord Stage 3に追加できます。

工場出荷時の状態では、厳選されたアコースティック・ピアノ、エレクトリック・ピアノ、デジタル・ピアノなどの高品位サウンドとピアノ・レイヤーが内蔵されています。これらのサウンドとピアノ・レイヤーは、サウンドやレスポンスのニュアンスができる限りオリジナルの楽器に近づくよう、膨大な手間をかけて作成されました。各ピアノは様々なペロシティで入念にサンプリングされています。そのため、あらゆるサウンドがナチュラルで弾き心地よいものばかりなのです。

ピアノ・サウンドに使用できるメモリー・サイズは2GBです。

- ❶ Nord Sound Manager を使用してピアノ・インストールをダウンロードすると、そのインストールのタイプに応じたメモリー・ロケーションに自動的に保存されます。

ピアノ・インストールを使用するプログラムにはそのピアノ・インストールのタイプやモデル・ナンバーを識別するデータが入っています。そのため、Nord Stage 3にダウンロードされていないピアノを必要とするプログラムを選択すると、タイプLEDが点滅し、ディスプレイに「Piano not found」と表示されます。このような場合、同じタイプの別のモデルを選び直すか、またはNord Sound Managerを使用して必要なインストールを本機にロードしてください。

ピアノ・サイズについて

Nord Piano Libraryのサウンドには、最大で4種類のサイズがあります。以下の表は、各サイズの機能の違いをまとめたものです：

	Sml	Med	Lrg	XL
ステレオ・サンプリング	✓	✓	✓	✓
詳細なペロシティ・マッピング	✓	✓	✓	✓
中音域のストリング・レゾナンス		✓		
全音域のストリング・レゾナンス			✓	✓
鍵盤全体にマッピング				✓

スモール(Sml)のピアノ・ファイルにはストリング・レゾナンスが収録されていないため、使用するピアノ・メモリーの容量が最も小さくなります。

ミディアム(Med)には、演奏上重要な位置を占める中音域のストリング・レゾナンスが収録されています。

ラージ(Lrg)には、すべての音域でストリング・レゾナンスが収録されています。

また、エクストラ・ラージ(XL)バージョンを利用できるピアノも数多くあります。XLバージョンではサウンドが鍵盤全体にマッピングされるため、Nordの各キーがオリジナル楽器の鍵盤に正確に対応します。そのため、サイズは当然大幅に増加します。

ピアノ・セレクト

タイプとモデル

使用するピアノ・サウンドは[PIANO SELECT]ダイアルで選択できます。ピアノ・サウンドは全部で6つのタイプに分類されます：

タイプ	内容
Grand	アコースティック&エレクトリック・グランド・ピアノ
Upright	アップライト・ピアノ
Electric	エレクトリック・ピアノ
Clav/Hps	クラビネットとハーブシコード
Digital	デジタル・ピアノ・サウンド
Layer	レイヤード・ピアノ・サウンド

❶ 設定したピアノ・タイプを別のピアノ・タイプに変更することはできません。



三角形の[PIANO SELECT] LEDは、現在選択されているピアノ・モデルのタイプを表します。選択したモデルの名前は、プログラム・エリアのディスプレイの一番下にある鍵盤アイコンの隣に表示されます。

クラビネットについて

オリジナルの Clavinet D6 では、ロッカー・スイッチでピックアップの組み合わせを選択できました。Nord Stage 3 でもこの機能は忠実に再現され、オリジナルの Clavinet D6 のピックアップはすべて選択できます。

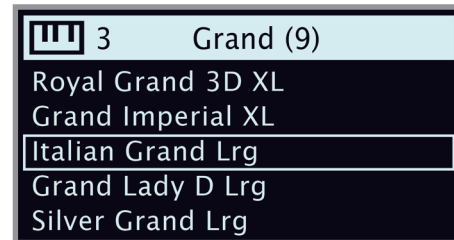
ピックアップ・タイプ

Clav Model A：「ネック」側のピックアップを使用したソフトなサウンド。
Clav Model B：「ブリッジ」側のピックアップを使用したブライツなサウンド。
Clav Model C：両方のピックアップを同位相で出力したパワフル・サウンド。
Clav Model D：両方のピックアップを使用し、位相を反転させ、基音成分がほとんど打ち消された線の細いサウンド。

リスト・ビュー

[SHIFT]ボタンを押しながら[PIANO SELECT]ダイアルを回すと、ピアノ・サウンドのリスト・ビューがオンになります。

リストの一番上の行には、現在選択しているモデルのタイプ名(ここでは「Grand」)、そのタイプのモデル数(9)、そのモデルのインデックス(3)が表示されます。



リストでは現在選択しているモデルに四角い枠が表示され、前後のモデルも確認できます。

KBD TOUCH



Nord Piano Library のピアノには非常に幅広いダイナミクス・レンジが収録されており、お好みのスタイルや演奏の流れに合わせてダイナミクス・レスポンスを調節できます。

デフォルト設定では、[KBD TOUCH] の LED はすべてオフとなっており、柔らかく表情豊かな演奏ができるように設定されています。[KBD TOUCH] の設定を増やすと(1、2、3)、大きな音で演奏しやすくなります。

ピアノ・インフォ

[SHIFT]ボタンを押しながら[PIANO INFO]ボタンを押すと、バージョン・ナンバーや正確なサイズなど、現在選択しているモデルに関する詳細な情報が表示されます。

ストリング・レゾナンス/ソフト・リリース/ペダル・ノイズ

ソフト・リリース



[SOFT RELEASE] をオンにすると、ピアノ・サウンドのリリースがわずかに長く、不明瞭になります。これは、アコースティックやエレクトリック・ピアノのダンパー・テンションを調整するのと同じ効果となります。また、リリースのかかり具合はノートごとにタッチの強弱に反応するようになっています。

- ❶ クラビネットやハーブシコードなどの一部のピアノ・タイプはソフト・リリース機能に対応していません。対応していないピアノ・タイプを選択すると、[SOFT RELEASE] ボタンが無効になります。

ストリング・レゾナンス

ストリング・レゾナンスとは、すべての弦または一部の弦が、演奏中の弦の基音や倍音に共鳴する音響現象のことです。

[STRING RES] をオンにすると、グランド・ピアノやアップライト・ピアノの内部で起きている豊かで素晴らしい音響現象がすべての音域で再現されます。

また、サスティン・ペダルを踏んでいくつかのノートを打鍵しても、ストリング・レゾナンスの音を聴き取ることができます。

- ❶ ストリング・レゾナンス機能をサポートしていないピアノを選択した場合、この機能は使用できません。また、スモール (Sml) バージョンのグランド・ピアノ、アップライト・ピアノ、エレクトリック・ピアノはこの機能をサポートしていません。

ペダル・ノイズ

[PEDAL NOISE] 機能 ([SHIFT] + [SOFT RELEASE]/[STRING RES]) は Nord Triple Pedal を Nord Stage 3 に接続したときに使用できる機能です (下記参照)。この機能をオンにすると、アコースティック・ピアノやエレクトリック・ピアノのサスティン・ペダルから発生するメカニカル・ノイズを再現することができます。また、Nord Triple Pedal はダイナミック方式を採用していますので、サスティン・ペダルを踏む力具合でノイズの量を調節することができます。

- ❶ ペダル・ノイズ機能をサポートしていないピアノを選択した場合、この機能は使用できません。

NORD TRIPLE PEDAL

Nord Stage 3 は 3 本ペダルを装備した Nord Triple Pedal (別売オプション) に対応しています。このペダルを接続すると、Nord Stage 3 のピアノ・セクションでさらなる機能やサウンドを使用できるようになります。

- ❶ Nord Triple Pedal を使用する際には、システム・メニューでサスティン・ペダルのタイプを「Auto」または「Triple」に設定してください。詳しくは 53 ページをご参照ください。

サスティンとハーフ・ペダリング

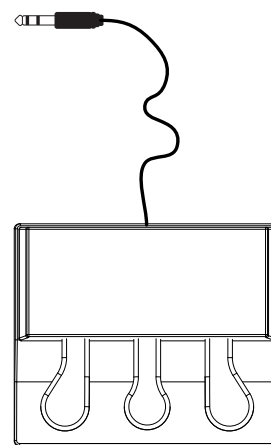
右側のペダルはサスティンです。Nord Triple Pedal では、ペダルを半分踏むことでハーフ・ペダリング・テクニックを使用できます。ハーフ・ペダリングを使用すると、(仮想) ダンパーが半分だけ上がった状態になるため、少し抑えられたサウンドになります。

ソステヌート

センターのペダルはソステヌート・ペダルです。このペダルを使用すると、そのとき打鍵していた音のみにサスティンがかかり、その他の音にはサスティンがかかりません。サスティンがかかるのはペダルを踏んだときにすでに弾いていた音のみで、ペダルを踏んだあとに弾いた音にはかかりません。

ソフト・ペダル

左のペダルはソフト・ペダル、別名ウナ・コルダです。このペダルを踏むと、すべての音域で音量がわずかに下がると同時にわずかに丸みを帯びた音色になります。



PIANO/CLAV EQ

PIANO EQ設定



PIANO EQセクションを使用すると、アンプ・シミュレーション/EQのエフェクト・ユニットを他の作業用に保持したまま、現在選択されているピアノ・サウンドの周波数成分と特性を瞬時に切り替えることができます。

[SOFT]に設定すると、主に高周波数レンジが除去されるため、低周波数部分が強調されて落ち着いたメロウなサウンドになります。

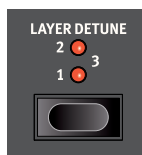
[MID]モードに設定すると、高周波数レンジと低周波数レンジの両方が抑えられ、ミッドレンジが強調された鋭いサウンドになります。

[BRIGHT]モードに設定すると、高周波数レンジが強調されて明るく澄んだサウンドになります。このモードはエレクトリック・ピアノの「ピーン」という音を再現するのにも便利です。

CLAV EQ設定

オリジナルのクラビネットでは、ピックアップ・セクター以外に4つのロッカー・スイッチがあり、内蔵EQをコントロールできました。これらの設定の組み合わせのほとんどはNord Stage 3でも使用できます。**[PIANO/CLAV]** ボタンを使用すると、フィルター設定の組み合わせを自由に選択できます。

レイヤー・デチューン



1つのレイヤー構成でパネルAとパネルB両方のピアノ・セクションをオンにした場合、**レイヤー・デチューン**機能を使用して2つのピアノ・サウンドをデチューンできます。デチューンの度合いは**1**、**2**、**3**の3段階から選択でき、コーラスのような微妙な効果も、極端なデチューンも可能です。

- ❶ レイヤー・デチューンの効果はパネルAとパネルBのピアノ・サウンドにのみ適用され、アクティブな他のサウンド・エンジンには影響しません。

6 プログラム



プログラム・セクションでは、プログラムの保存や呼び出しなどの演奏機能、ソング・モードやライブ・モード、キーボード・スプリット機能などを使用できます。さらに、システム、サウンド、MIDI、エクスターナルなどの設定メニューにもアクセスできます。各メニューとその設定については、52 ページ以降のチャプターで詳しく説明します。

プログラム・エリアの機能についてはすべて本チャプターで説明します。

いくつかのパラメーターは [MORPH ASSIGN] ボタンを押している最中に調節でき、モーフ・デスティネーションはモーフを設定したあとでも追加できます。

※ [MORPH ASSIGN] ボタンをダブルクリックするとモーフ・アサインのラッチ・モードがオンになり、[MORPH ASSIGN] ボタンを押したままにしながらもモーフを設定できます。モーフ・アサインのラッチ・モードを終了するには [EXIT] を押します。

モーフ・アサイン



モーフ機能は複数のパラメーターを1つのコントロール「ソース」でリアルタイム・コントロールできるパワフルな機能です。フットペダルでピアノとシンセ・サウンドの音量バランスをコントロールしたり、モジュレーション・ホイールでB3サウンドのドローバーを操作したり、キーボード・アフタータッチでエフェクトを徐々に盛り上げたりすることを、同時に行えるのです。

[WHEEL]、[A TOUCH]、[CTRLPED] の3つの [MORPH ASSIGN] ボタンは、利用可能な3つのモーフ・ソースであるモジュレーション・ホイール、キーボード・アフタータッチ、コントロール・ペダルを表しています。

モーフを設定するには、[MORPH ASSIGN] ボタンのいずれかを押しながら、モーフを開始する位置から終了する位置までパラメーター・コントロール（ノブやドローバーなど）を動かします。パラメーター・コントロールは、[MORPH ASSIGN] ボタンを押す前に開始位置にセットするようにしましょう。モーフの設定中は、開始値と終了値がディスプレイに表示されます。

モーフ・デスティネーション

モーフ・デスティネーションとして使用できるパラメーターは次のとおりです：

オルガン	ピアノ	シンセ	エフェクト
レベル	レベル	レベル	エフェクト1のレイト
ドローバー		LF0のレイト	エフェクト1のアマウント
ロータリー・スピード		オシレーター・コントロール	エフェクト2のアマウント
		LF0のアマウント	ディレイ・テンポ
		フィルター・フリケンシー	ディレイ・フィードバック
		レゾナンス	ディレイ・ミックス
		アルペジエーターのレイト	EQ Mid/フィルター・フリケンシー
			ドライブ
			リバーブのドライ/ウェット

モーフ・インジケーター

モーフィング可能なすべてのパラメーターには、モーフがアサインされていること、またはモーフが実行中であることを示すインジケーターが用意されています。モーフ・インジケーターには次の3種類があります：

LEDエンコーダー



オルガン・セクション、ピアノ・セクション、シンセ・セクションの **[LEVEL]** コントロールには、回転式のLEDエンコーダーが搭載されています。モーフが設定されている場合はモーフの開始位置と終了位置が一目でわかり、モーフの実行中はコントロールに現在の値が常に表示されます。

モーフLED



モーフィング可能なほとんどのパラメーターには「モーフLED」が搭載されており、パラメーターにモーフソースが割り当てられていると緑色のライトが点灯します。

ドローバーLED

モーフ・デスティネーションとしてドローバーを選択した場合、モーフを実行するとそれに合わせてドローバーLEDも変化します(ドローバーLEDの代わりに物理ドローバーを使用するNord Stage 3 Compactモデルは除く)。

モーフィングを消去する

[CLEAR MORPH] ボタン ([SHIFT] + [MORPH ASSIGN]) を押すと、フォーカスされている(エディット可能状態の)パネルのモーフィングを消去できます。特定のモーフ・アサインのみを消去したい場合は、[MORPH ASSIGN] ボタンを押しながら消去したいパラメーターのノブを回すとモーフ・セッティング(セカンド・セッティング)が消去されます(このとき、プログラムに保存されている設定値とモーフ・セッティングとの間のギャップが消えます)。

マスター・クロック

マスター・クロックを使用すると、Nord Stage 3 のアルペジエーター、シンセLFO、ディレイ、エフェクト1のレイトを同期させることができます。まったく同じ周期で同期させるだけでなく、各コンポーネントに異なる譜割りを設定することもできるため、リズム的な効果を簡単に引き出せます。

テンポを設定するには **[MST CLK]** ボタンを4回以上タップします。テンポはBPM(1分あたりの拍数)で表されます。必要に応じてボタンをタップし続けると、テンポ設定をさらに調整できます。

[CLOCK] ボタン ([SHIFT] + [MST CLK]) を押すと、マスター・クロックのテンポと設定のページが開きます。テンポを設定するには、**[PROGRAM]** ダイヤルを使用します。設定が終了したら **[EXIT]** ボタン ([SHIFT]) を押します。設定したテンポは、保存操作を行うとプログラムとともに保存されます。

❶ 「▼」記号で示されるように、**[MST CLK]** ボタンを長押しすると、ボタンを押している間マスター・クロックのテンポ・ページが表示されます。

マスター・クロック・テンポが設定されると、そのテンポに対して比例関係にある様々なテンポ(譜割り)で同期させることができます。また、マスター・クロックを変更してもこの関係を崩さずに同期できます。

譜割りの詳細については、同期可能な各機能(シンセLFO、アルペジエーター、エフェクト1、ディレイ)のセクションをご参照ください。

エクスターナル・シンク

Nord Stage 3 のマスター・クロックは、外部MIDIクロックとの同期が行えます。外部クロックとの同期は、本機のMIDIインプットやUSB MIDIのインプットからMIDIクロックを受信すると自動的に行われます。

本機のマスター・クロックが外部MIDIクロックと同期している場合、**[MST CLK]** ボタンを押すとディスプレイに「external」と表示され、外部MIDIクロックのテンポがBPMで表示されます。

(KBS)キーボード・シンク

マスター・クロックのテンポ/設定ページでは、ディスプレイ上のKBSボタンを押してキーボードシンクの動作を選択できます

Off:[Off]に設定すると、キーボードを演奏してもマスター・クロックはリセットされません。

On:[On]に設定すると、鍵盤から手を離してキーボードをもう一度演奏するたびにマスター・クロックがリセットされます。

Soft:[Soft]に設定すると、鍵盤から手を離れたあと、(現在のテンポで)4分の1音符より長く待ってからキーボードを演奏した場合にのみマスター・クロックがリセットされます。

トランスポーズ・オン/セット



Nord Stage 3 では、プログラムごとに半音単位で±6半音までトランスポーズできます。設定は **[TRANSPOSE]** ボタンを押しながら **[VALUE]** ダイヤルを回して行います。もう一度 **[TRANSPOSE]** ボタンを押すとトランスポーズが解除されます。

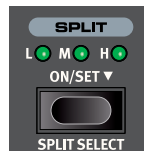
トランスポーズ設定はプログラムの一部として保存して呼び出すことができ、常にプログラムの両方のパネルに影響します。

※ **すべてのプログラムに影響するトランスポーズを設定するには、システム・メニューでトランスポーズ・パラメーターを使用します。**

パニック

[PANIC] ボタン ([SHIFT] + [TRANSPOSE]) を押すと、内部的に「オール・ノート・オフ」メッセージが発生してすべての発音が止まると同時にパラメーターの一部も強制的にリセットされます。この機能は、例えばMIDIの使用時やライブ演奏時に音が止まらなくなった場合など、すべてのサウンドを素早く止める必要がある場合に使用できます。

スプリット



Nord Stage 3 のキーボードは、Low (L)、Mid (M)、High (H) という3つのスプリット・ポイントを使用して、最大で4つのキーボード・ゾーン(1、2、3、4)に分割できます。その後、一部またはすべてのゾーンにサウンド・エンジン(オルガン、ピアノ、またはシンセ)を割り当てることができます。

スプリットの **[ON/SET]** ボタンを1回押すと、スプリット機能のオンとオフが切り替わります。「▼」で示されるようにこのボタンを長押しすると、キーボード・スプリットのポジション・ページがディスプレイに表示されます。

[SPLIT SELECT] ボタン ([SHIFT] + [ON/SET]) を押すと、L、M、Hのスプリット・ポイントの組み合わせが変わります。

キーボード・スプリットの設定

スプリットをオンにしたあと、各インストゥルメント（またはエクスターナル）の **[ZONE SELECT]** ボタン（[SHIFT] + [ON/OFF]）を押して、1 つまたは複数のゾーンにインストゥルメントを割り当てます。インストゥルメントのレベル・ロータリーの下にある 4 つのゾーン LED には割り当てが表示されます。

スプリット・ポジションを選択する

キーボード・スプリットのポジション・ページでは、3 つのスプリット・ポイント（キーボード・スプリット・ポジション）を割り当てることができます。また、設定を [Off] にしてスプリット・ポイントを無効にすることもできます。キーボード・スプリット・ポジションは F2 ~ C7 の 10 種類から選択できます。スプリット・ポイントを調節するには、各スプリット・ポイントのディスプレイ上のボタン（Low、Mid、または High。パネル上では [1] ~ [3] の **[PROGRAM]** ボタンに対応）を押してフォーカスを設定し、ダイヤルを回します。

キーボードの上には LED が付いており、どのスプリット・ポジションがオンになっているかが常に表示されます。

スプリット幅の設定

通常、2 つのキーボード・ゾーンの間のトランジションは、各ゾーンに対して選択されたサウンド同士がオーバーラップしない「ストレート」です。スプリット・ポイントのスプリット幅の設定を調節することで、サウンド同士をミックスしたり、スプリット・ポイント上でクロスフェードをかけたりしてサウンドがスムーズに切り替わるようにできます。

スプリット幅を調節するには、パネル上の **[ON/SET]** ボタンを押したまま、ディスプレイ上の ▶ ボタン（パネル上の **[PROGRAM 4]** ボタン）を押します。これによりキーボード・スプリット幅の設定ページが開き、各スプリット・ポイントのスプリット幅または「クロスフェード」の範囲を設定できます。



ディスプレイ上のボタン（Low、Mid、または High）を押して調節するスプリット・ポイントを選択し、ダイヤルを回して設定を変更します。

Off: [Off] に設定するとスプリット・ポイント上のサウンド間にクロスフェードがかかりません。

Sml: [Sml] に設定するとスプリット幅が 12 半音分になります。つまり、スプリット・ポイントより下のサウンドがスプリット・ポイントより 6 音上まで影響し、それ以上になると完全に消えます。同様に、スプリット・ポイントより上のサウンドは 6 音下のサウンドまで影響します。

Lrg: [Lrg] に設定するとスプリット幅が 24 半音分になり、スプリット・ポイントの上下 12 音にクロスフェードがかかります。

❶ どちらのパネルも同じ KB ゾーンの構成を使用します。インストゥルメントの割り当てはパネルごとに独立しています。

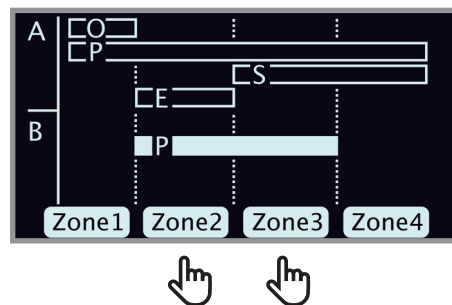
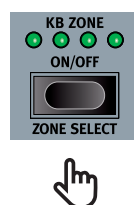
キーボード・ゾーン・エディター

KBゾーン・エディターを使用すると、各キーボード・ゾーンにサウンド・エンジンがどのように割り当てられているかが一目でわかるため、キーボード・ゾーンを簡単に設定できます。以下は、パネルAでオルガン(O)、ピアノ(P)、シンセ(S)、エクスターナル(E)の各セクションを使用し、パネルBでピアノ・セクションを使用した場合の例です。各バーの位置と長さは、そのセクションが割り当てられたキーボード・ゾーンを表しています。



サウンド・エンジン（またはエクスターナル・セクション）のゾーンへの割り当てを変更するには、各セクションの **[ON/OFF]** ボタンとディスプレイ上の Zone ボタンを組み合わせで使用します。以下の例では、パネルBのピアノがゾーン2とゾーン3をカバーするように設定します：

- ① パネル B のピアノ・セクションがオンになっていることを確認します。
- ② **[KB ZONES]** ボタン（[SHIFT] + [PROGRAM 5]）を押してエディター・ウィンドウを開きます。
- ③ ディスプレイにはピアノ・サウンドが現在割り当てられているゾーンが表示されます。KB スプリットをまだ設定していない場合は、4 つすべてのゾーン（キーボード全体）が表示されるはずですが。
- ④ パネル B でピアノの **[ON/OFF]** ボタンを押しながらディスプレイ上の Zone 2 ボタンと Zone 3 ボタン（パネル上の [PROGRAM 2] ボタンと [PROGRAM 3] ボタン）を押します。ピアノ・サウンドがゾーン 2 とゾーン 3 に割り当てられます。この例をもとに設定を行うと次のようになります：



❷ ピアノの **[ON/OFF]** ボタンを押しながら [PROGRAM] ダイアルを回して設定することもできます。この操作を行うと、設定可能なゾーンの組み合わせをすべてスクロール表示できます。

選択したゾーンの組み合わせに応じて、必要なスプリット・ポイントが自動的に割り当てられます。ただし、スプリット・ポイントの正確な位置とスプリット幅は **スプリット設定** のページで設定する必要があります（前のセクションを参照）。

オルガン、シンセ、エクスターナルの各セクションの設定も同じように行います。

保存する



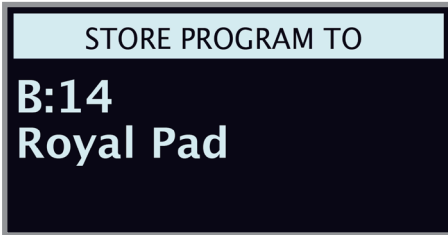
[STORE] ボタンを使用すると、エディットしたプログラムまたはソングをプログラム・バンク内の任意の場所に保存できます。選択した場所にプログラムまたはソングが存在する場合、既存のデータは上書きされます。シンセ・プリセットの保存方法については、34 ページをご参照ください。

- ❶ プログラムが誤って上書きされないよう、Nord Stage 3 の工場出荷時にはメモリーがプロテクトされています。プログラムを保存できるようにするには、システム・メニューで [Memory Protect] パラメーターを「Off」に設定する必要があります。操作方法については 52 ページをご参照ください。メモリー・プロテクト機能は、ライブ・モードのメモリーや Nord Sound Manager で行う操作には影響しません。

プログラムまたはソングを保存する/名前を付ける

名前を変更せずにプログラムまたはソングを保存する手順は以下のとおりです：

- ❶ **[STORE]** ボタンを 1 回押します。すると、[STORE] ボタンが点滅し始め、プログラムまたはソングの名前と場所がディスプレイに表示されます。



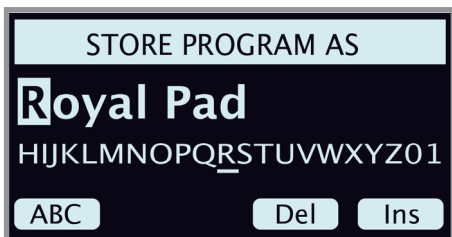
- ❷ 別の保存場所を選択するには、ダイヤルと **[PAGE ◀]**、**[PAGE ▶]** ボタンを使用します。プログラムは 5 つのライブ・プログラムのいずれかに保存することもできます。その場合は **[LIVE MODE]** ボタンを押したあと、保存先のライブ・プログラム・ボタンを選択します。選択した保存場所にあるプログラムは、キーボードを弾いていつでも確認できます。

△ 保存操作を途中で中止するには **[EXIT]** ボタンを押します。

- ❸ 適切な保存場所が見つかったら、もう一度 **[STORE]** ボタンを押して保存を確定します。

名前を付けて保存する

- ❶ プログラムまたはソングに名前を付けて保存するには、**[STORE AS]** ボタン ([SHIFT] + [STORE]) を押します。
- ❷ ディスプレイ上の **ABC** ボタンを長押しするとアルファベットの列が表示されるので、ダイヤルを使用して現在の位置の文字を選択します。**[ABC]** ソフト・ボタンを離すとカーソルが次の場所に移動します。ダイヤルと **[PAGE ◀]**、**[PAGE ▶]** ボタンを使用してカーソルを自由に動かすことができます。ディスプレイ上の **Ins** ボタンを押すと現在の位置にスペースが挿入され、**Del** ボタンを押すと現在選択している文字が削除されます。



- ❸ **[STORE]** ボタンを押すと、今度は [Store Program/Song To] 画面が表示されます。ダイヤル、**[PAGE ◀]**、**[PAGE ▶]** ボタン、**[PROGRAM]** ボタンを使用して場所を選択します。

- ❹ 適切な保存場所が見つかったら、もう一度 **[STORE]** ボタンを押して保存を確定します。

※ プログラムとソングの名前は、Nord Sound Manager を使用して付けることもできます。

ソング・モード



Nord Stage 3 には、独自のソング・モード機能があります。この機能は、セット・リストなどに含まれるソング内でプログラムがどのように使用されているかに応じて、プログラムの場所を参照してグループ化するのに使用します。プログラムの参照はソング・パートと呼ばれ、5 つのソング・パートをグループ化したものをソングと呼びます。合計で 8 つのバンクにそれぞれ 50 のソングが含まれます。

- ❶ ソングに含まれるのはプログラムの場所への参照情報のみで、プログラムやデータのコピーは含まれません。そのため、プログラムをエディットして同じ場所に保存した場合、そのプログラムを使用しているソングはエディットしたプログラムを使用することになります。

[SONG MODE] ボタンを押すと、最後に使用したソングが選択され、**[SONG MODE]** LED が点灯します。ディスプレイには、ソングの場所と名前に加え、そのソング内で現在フォーカスされているプログラムが表示されます。

ソング内でパートを切り替えるには、**[SONG PARTS]** ボタンの 1 ~ 5 を押します。ソングを変更するには **[PAGE ◀]**、**[PAGE ▶]** ボタンを押すか、**[PROGRAM]** ダイアルを回します。

※ ソング・パートの変更は本機に接続したプログラム・アップ / ダウン・ペダルでも行えます。

ソング・エディット

ソング・パートに使用するプログラムを選択するには、**[SONG EDIT]** ボタン ([SHIFT] + [SONG MODE]) をオンにします。ディスプレイにソング・エディット画面が表示され、**[SONG MODE]** LED が点灯して現在の **[PROGRAM]** LED が点滅します。

その後、変更したい **[SONG PARTS]** ボタンを押してダイヤルを回すと、ソング・パートが参照するプログラムを変更できます。ソング・エディット・モードを終了するには、**[EXIT]** ボタンを押します。

△ ソング・エディット・モードで行った変更を有効にするには、変更内容を保存する必要があります。

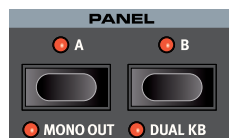
ソングを保存する

ソングに名前を付けて保存する方法はプログラムを保存する場合と同様です。詳しくは前の「保存する」のセクションをご参照ください。

エディットしたプログラムを保存する

ソングにはプログラムの保存場所への参照のみが保存されるため、ソング・モードでエディットした場合、ソングを保存してもプログラムの変更内容は保存されません。エディットしたプログラムを保存するには、**[SONG MODE]** ボタンを押してソング・モードを終了します。すると、プログラム・バンクにエディットしたプログラムが呼び出されるため、その後、保存操作を行います。

パネル・ボタン A & B



各プログラムには、パネル A とパネル B という 2 つの独立したパネルがあります。それぞれのパネルには、オルガン、ピアノ、シンセ、エクスターナル、エフェクトの各セクションの設定がすべて含まれています。パネル A とパネル B を使用すると、2 つの異なるサウンドを素早く切り替えたり、両方のパネルのサウンド・エンジンを利用してレイヤーを作成したりできます。

両方のパネルをアクティブにするには、[PANEL A] ボタンと [PANEL B] ボタンを同時に押します。両パネル計 6 つのサウンド・エンジンと各パネルに対し 1 つ、計 2 つのエフェクト・セクションを 1 つのプログラム内で使用できます。

両方のパネルをアクティブにした場合、エディット用にフォーカスされている方のパネル・ボタン LED が点滅します。エディット・フォーカスを切り替えるには、対応するパネル・ボタンを押します。片方のパネルを無効にして単一のパネル設定に戻すには、保持する方のパネルのボタンを押したままもう一方のボタンを押します。

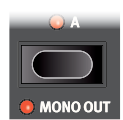
モニター/パネルのコピー/ペースト



パネルのパラメーターを変更することなく設定内容を表示するには、[MONITOR] ボタンを押したまま関連付けられたパラメーター・ノブを回します。

[COPY PANEL] ボタンと [PANEL A] または [PANEL B] ボタンを押すと、そのパネルのすべての設定がコピーされます。コピーした設定は現在のプログラム内のもう一方のパネル、または別のプログラム内のパネルにペーストできます。設定をペーストするには、[PASTE] ボタン ([SHIFT] + [MONITOR/COPY PANEL]) とペースト先のパネルのボタンを押します。

モノ・アウト



[MONO OUT] ボタン ([SHIFT] + [PANEL A]) をオンにすると、Nord Stage 3 のサウンド・ソースとエフェクトのアウトプットがすべてモノラルに設定されます。これはプログラムごとの設定ではなく、グローバル設定のため、電源を切るか、この設定を解除しない限りすべてのプログラムで有効となります。

デュアルKB

デュアル KB 機能を使うと、本機の MIDI IN に接続した外部 MIDI キーボードでパネル B の演奏とコントロールを行えます。

このとき、本機のキーボードがパネル A をコントロールし、外部キーボードがパネル B をコントロールします。なお、デュアル KB モードでは本機のキーボードからパネル B のサウンドにアクセスすることはできません。この機能を使用すると、1 つのプログラムで 2 台のキーボードを使用し、2 台目を Nord Stage 3 のパネル B のコントローラーとして使用できるため、ライブ演奏の際に非常に便利です。

デュアル KB モードのもう 1 つのメリットは、Nord Stage 3 を使用して 2 つのパネルのすべてのパラメーター・コントロールを操作できる点です。例えば、Nord Stage 3 のキーボードでパネル A のサウンドを演奏しながら、同時に外部キーボードでパネル B のドローバー設定を調節できます。

デュアル KB の設定は、他のすべてのパネル設定とともにプログラムに保存されます。

- ❶ デュアル KB モードの MIDI チャンネルは本機の MIDI メニューで設定します。詳しくは 54 ページをご参照ください。

[SHIFT]/[EXIT] ボタン



多くのボタンと一部のノブにはもうひとつの機能があり、[SHIFT] ボタンを押しながらボタンを押すかノブを回すとその機能を使用できます。[SHIFT] ボタンを押すと使用できる機能の名前は、各コントロールの下にプリントされています。例えば、[SHIFT] ボタンを押しながら [PROGRAM 3] ボタンを押すと、MIDI メニューが開きます。

[SHIFT] ボタンは、メニューを**終了**するときや、保存操作を途中で中止するときにも使用します。

ライブ・モード

Nord Stage 3 には簡単にアクセスできる 5 つのライブ・プログラムがあります。他のプログラムとは異なり、ライブ・プログラムへのエディットは自動的に保存されます。ライブ・プログラムを終了するか本機の電源を切ると、手動で保存操作を行わなくてもすべてのエディットが保存されます。ライブ・プログラムを選択するには、[LIVE MODE] ボタンを押したあと、プログラム・エリアの [1] ~ [5] のいずれかのボタンを押します。



ライブ・プログラムの選択時に設定したパラメーターをプログラム・バンクに永続的に保存する場合は、通常の保存操作で保存できます。また、通常のプログラムをライブ・プログラムとして保存することもできます。この場合、現在のライブ・メモリーの設定は保存したプログラムの設定で置き換えられます。

プログラム・イニシャライズ



[PROG INIT] 機能 ([SHIFT] + [LIVE MODE]) を使用すると、アクティブなパネルに以下の 4 つの基本的な設定のいずれかを素早く適用できます。新しいプログラムを作成する際のベースとしてこれらの設定を使用すると便利です。

Org (オルガン): オルガン・セクションをオンにして、すべてのエフェクトのソースをオルガンに設定します。他のソース・エンジンともう一方のパネルはオフになります。

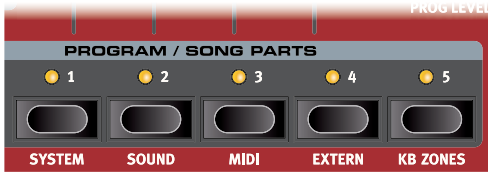
OrgSp (オルガン・スプリット): 両方のパネルのオルガン・セクションをオンにして、すべてのエフェクトのソースをオルガンに設定します。KB スプリットがオンになり、スプリット・ポイントの左にオルガン A、右にオルガン B が設定されます。他のソース・エンジンはすべてオフになります。

Piano: ピアノ・セクションをオンにして、すべてのエフェクトのソースをピアノに設定します。他のすべてのソース・エンジンともう一方のパネルはオフになります。

Synth: シンセ・セクションをオンにして、すべてのエフェクトのソースをシンセに設定します。他のソース・エンジンともう一方のパネルはオフになります。

プログラム・ボタン

5つのプログラム・ボタンで現在のプログラム・バンク内の5つのプログラムを瞬時に選ぶことができます。これらのボタンは**ソング・パート**の選択にも使われ、メニュー設定を操作する際にはディスプレイ上のボタンとして機能します。ソング・パートおよびソング・リスト・モードについては28ページ、ディスプレイ上のボタンの機能については52ページをご参照ください。



プログラムとは？

プログラムとは、パネル A とパネル B のすべての設定（マスター・レベルとモノ・アウトプットの設定を除く）を保存したものです。マスター・レベルとモノ・アウトプットは本機を再起動するたびにリセットされます。Nord Stage 3 の内部構造を理解するためにも、次の点にご留意ください：

- 各パネルには、3種類のサウンド・エンジン、すべてのエフェクト、エクスターナル・セクションの設定を個別に保存できます。
- プログラムには A/B 両方のパネルの設定を保存できます。つまり、6つのサウンド・エンジン、8基のエフェクト、2つのエクスターナル・セッティングをひとつのプログラムに保存できます。
- またプログラムには、エクスターナル A & B MIDI チャンネルとセンド・オン・ロード・セッティング（詳しくは55ページのエクスターナル・メニューのチャプターを参照）を除くすべてのエクスターナル・メニュー、各パネルのアウトプット・ルーティング（詳しくは52ページを参照）を保存できます。
- スプリット、レイヤー（キーボード・ゾーン）、モーフ・アサインはプログラムの一部として保存されます。

システム、サウンド、MIDI、エクスターナル、KBゾーン

[1] ~ [5] の **[PROGRAM]** ボタンは、**[SHIFT]** ボタンと併用することで、4つのメニューおよびKBゾーン・エディターの入り口としても機能します。メニュー設定については52ページ以降のメニューのチャプターで、KBゾーン・エディターについては27ページで説明します。

[PROGRAM]ダイアル



ディスプレイの右にある **[PROGRAM]** ダイアルは、プログラムおよびソングの選択、メニュー・パラメーター値の設定、プログラム名の文字入力に使用します。**[SHIFT]** ボタンを押しながらダイアルを回すと**リスト**機能がオンになり、すべてのプログラムまたはソングがリスト表示されます。

ページ・ボタン



プログラム・ページは **[PAGE ◀]**、**[PAGE ▶]** ボタンを押して切り替えることができます。各バンクは20ページあり、各ページには5個のプログラムがあります。**[Page]** ボタンを使用すると、ソング・モードでのソングの切り替

え、カテゴリー・モードでシンセ・プリセットをブラウズする際のカテゴリーの切り替え、システム、サウンド、MIDI、エクスターナルの各メニューでのメニュー設定の切り替えができます。

プログラム・レベル



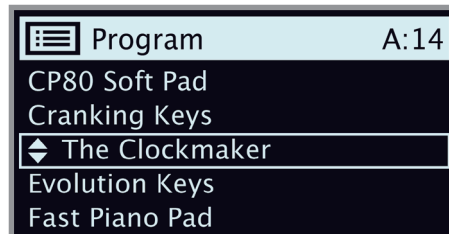
プログラム・レベル機能を使用すると、プログラム全体の音量を素早く調節できます。この機能はライブ演奏用にプログラムを準備したり、**[MASTER LEVEL]** コントロールを操作することなく全体の音量を調節したりする場合などに便利です。**[PROG LEVEL]** ボタン (**[SHIFT]** + **[PAGE ◀]**) を押して **[PROGRAM]** ダイアルを回すと、両方のパネルのすべてのサウンド・エンジンのレベルを同じ量だけ調節できます。

並べ替え

プログラム、ソング、シンセ・プリセット、サンプル、ピアノ・サウンドがそれぞれのバンクに保存される順序は、リスト・ビューで**並べ替え機能**を使用して変更できます。この機能は並べ替えの対象のコンテンツに関係なく機能しますが、ピアノ・サウンドをそのサウンドのピアノ・タイプ・バンクの外に移動することはできません。

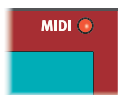
例として、プログラム・バンク内でプログラムを並べ替える方法を以下に示します：

- [SHIFT]** ボタンを押しながら **[PROGRAM]** ダイアルを回し、プログラムの**リスト・ビュー**を表示します。
- ダイアルを使用して、別の場所に移動するプログラムを選択します。
- [ORGANIZE]** ボタン (**[SHIFT]** + **[PAGE ▶]**) を押したままにします。両矢印が表示され、現在選択しているプログラムをリスト内で上下に移動できることを示します。



- [PROGRAM]** ダイアルを使用して、プログラムの移動先を選択します。**[ORGANIZE]** ボタンを離すと移動が確定します。移動前の位置と移動後の位置の間にあるプログラムの位置は自動的に変更されます。

MIDI LEDインジケーター



MIDI LED はディスプレイの右上にあり、MIDI インポートまたは USB コネクターを介して MIDI メッセージを受信すると点滅します。

- MIDI 信号を受信すると早い周期で点滅し、長い周期の点滅は Nord Stage 3 が実際に使用している（本機が受信して発音できる MIDI チャンネルの信号を受信した場合など）MIDI 信号を表示します。

7 シンセ



シンセ・セクションについて

Nord Stage 3のシンセ・セクションは様々な用途に簡単に使用できるライブ向けのシンセサイザーとして設計されていますが、それ以上に、用途に関わらず想像力を掻きたてる優れたシンセサイザー・サウンドを生み出すことを目的としています。

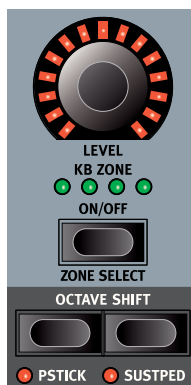
シンセ・セクションは、忠実にモデリングされたアナログ・スタイルの「クラシックな」波形を基本とした減算合成(サブトラクティブ・倍音を豊富に含んだオシレーター波形をフィルターで加工する)タイプのシンセサイザーですが、FM(周波数変調)やウェーブテーブル・シンセシス、サンプル波形もオシレーター波形に使用できます。Nord Stage 3には多くのサンプルがプリセットされているほか、Nord Sample Libraryから新しいサンプルをダウンロードすることもできます。さらに、Nord Sample Editorアプリケーションを使用してあらゆるサウンド・ソースからカスタム・サンプルを作成することもできます。

サブトラクティブ・シンセシスでは、倍音を豊富に含んだブライタなオシレーター波形を出発点とし、フィルターで倍音の一部を削り取ることでより音色を作り出します。また、発音中にフィルターのカットオフ・フリクエシーをモジュレーションさせることにより、ダイナミックな音色変化を生み出します。

その他にも、Nord Stage 3のシンセ・セクションには、豊富なオシレーター・コンフィギュレーションによってダイナミックでリッチなサウンドを生み出す様々な機能が搭載されています。これらの機能により、パルス・ウィズス・モジュレーション、オシレーター・シンク、ノイズ生成、幅広い波形ミックス設定などを行えます。また、リアルタイムの音色変化に欠かせないエンベロープを2基、LFOを1基搭載しました。

2つのパネルを使用すれば、2つの異なるサウンドをレイヤーやスプリットで同時に演奏できます。両方のパネルのシンセ・セクションを重ねることで、複雑で変化に富んだサウンドを作り出すことができます。

オン/オフの切り替えとレベルおよびゾーンの設定



シンセ・セクションは[ON/OFF]ボタンを押してオン/オフを切り替えます。シンセ・セクションのサウンド出力レベルはモーフィング可能な[LEVEL]エンコーダーでコントロールします。

[ZONE SELECT]ボタン([SHIFT] + [ON/OFF])を押すと、アクティブなキーボード・ゾーンにシンセを割り当てることができます。緑色の[KB ZONE] LEDは、シンセ・セクションが割り当てられているゾーンを表します。スプリットの設定とキーボード・ゾーンについては詳しくは、26ページをご参照ください。

オクターブ・シフト

[OCTAVE SHIFT]ボタンを使用すると、シンセ・セクションを1オクターブ上または下(±12半音)にトランスポーズできます。オクターブ・シフトをキーボード全体に割り当てると、キーボード全体を1オクターブ上または下にトランスポーズできます。ゾーンに割り当てられる場合、トランスポーズできる値は異なりますが、シンセサイザーの全範囲にはいつでもアクセスできます。

ピッチ・スティックとサスティン・ペダル

[PSTICK]ボタン([SHIFT] + [OCTAVE SHIFT]の左側のボタン/OCTAVE DOWN)を押すと、シンセのピッチ・スティック機能をオンにできます。この機能をオンにすると、ピッチ・スティックを使用してシンセ・サウンドが2半音バンドされます。

[SUSTPED]ボタン([SHIFT] + [OCTAVE SHIFT]右側のボタン/OCTAVE UP)を押すと、接続したサスティンペダルがシンセ・セクション用にアクティブ化されます。接続したペダルの設定方法について詳しくは、53ページのメニューのチャプターをご参照ください。

オシレーター

Nord Stage 3シンセ・セクションには、1つまたは2つのオシレーターを使用するスマートなオシレーター・コンフィギュレーションが用意されています。まずClassic、Wave、F-Wave、S-Wave、Samp(サンプル)カテゴリのオシレーター・ウェーブフォームからオシレーター・コンフィギュレーションを選択し、[OSC 2 PITCH]ダイヤルと[OSC CTRL]ノブを使用してその音色を調節します。

さらに、このオシレーター・セクションには各ボイスにつき複数のエクストラ・オシレーターを内蔵した波形もあり、これらはユニゾン機能をオンにすると(39ページをご参照ください)使用することができます。これらのパーチャル・オシレーターは発音数を消費することなく分厚いサウンドを作り出すことができます。

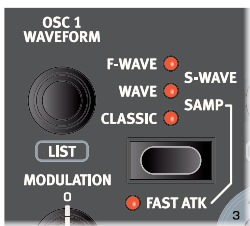
オシレーター・コントロール

オシレーター・コントロール(**[OSC CTRL]**)は、現在選択されているオシレーター・コンフィギュレーションに応じてサウンドを様々なに変化させるのに使用します。[OSC CTRL]パラメーターはモジュレーション・エンベロープやLFOによるコントロールに加えて、モーフ機能を使用できます。これにより、モジュレーション・ホイール、アフタータッチ、またはペダルでリアルタイムにサウンドをコントロールできます。[OSC CTRL]パラメーターを調節すると、シンセ・セクションのディスプレイにその量が常に表示されます。

モジュレーション

2つの機能を持つ**[MODULATION]**コントロールは、[OSC CTRL]パラメーターに適用されるモジュレーションの量を制御します。LFOモジュレーションを使用するには12時の位置(ゼロ)から反時計回りにノブを回し、モジュレーション・エンベロープを使用するには時計回りに回します。

セレクター・ボタン



以下の5つのオシレーター・タイプを選択するには、オシレーターのセレクター・ボタンを使用します:

- **CLASSIC** (アナログ・スタイル) 波形
- **WAVE** (ウェーブテーブル)
- **F-WAVE** (フォルマント・ウェーブ)
- **S-WAVE** (スーパーウェーブ)
- **SAMP** (サンプル)

[OSC 1 WAVEFORM]ダイヤルで、使用する波形またはサンプルを選択します。**[LIST]**コマンド([SHIFT] + [OSC 1 WAVEFORM]ダイヤル)を使用すると、現在選択している波形、ウェーブテーブル、またはサンプルのリスト・ビューを表示できます。

[FAST ATK]モードでは、サンプルのアタックが早くなります。この機能について詳しくは、33ページをご参照ください。

クラシック波形

「ベーシック」なクラシック波形には、サイン波、三角波、ノコギリ波、矩形波の4種類があります。その他、パルス波33、パルス波10、ESaw、ESquareという4つの拡張波形があります。以下の表は、すべての波形の一覧と、シェイプ・オシレーター・コンフィギュレーションを使用した場合に各波形がどうなるかを示しています。

		シェイプ・モード		
		OSC CTRL = 0	OSC CTRL = 5	OSC CTRL = 10
サイン波				
三角波				
ノコギリ波				
矩形波				
パルス波 33				
パルス波 10				
ESaw				
ESquare				

サイン波

サイン波は、倍音を含まない非常に純粋なサウンドになります。様々な種類の柔らかなサウンドを作成するのに役立ちます。フリケンシー・モジュレーションのオシレーター・コンフィギュレーションを使用してクラシックなFMサウンドを作成する際の「デフォルト」波形と考えてもよいでしょう。

三角波

三角波は奇数次倍音のみをわずかに含んでいるため、サイン波よりも力強く、ノコギリ波よりはるかに柔らかいサウンドになります。

ノコギリ波

ノコギリ波は、整数次倍音を豊富に含んだブライต์なサウンドで、あらゆるタイプのシンセ・サウンドに適した波形です。

矩形波、パルス波33/パルス波10

矩形波は幅が50%のパルス波に相当します。また、パルス波33は幅が33%、パルス波10は幅が10%のパルス波を表しています。パルス幅50%の波形には奇数次倍音(3倍音、5倍音、7倍音...n倍音)だけが含まれており、そのサウンド特性はやや「軽め」になります。パルス幅が狭くなるほど、か細く鼻にかかったようなサウンドになります。シェイプ構成を使用すると、矩形波のパルス幅は10%まで狭めることができます。パルス波33とパルス波10は、[OSC CTRL]を最大値にするとパルス幅を50%まで広げることができます。

- ① 矩形波/パルス波の幅を3種類から選択できるため、シェイプを使用しなくても、望むパルス幅を維持したまま他のオシレーター・コンフィギュレーションを使用できます。

ESAW

ESaw波(「拡張ノコギリ波」)は、倍音成分がノコギリ波に似ています。ただし、ノコギリ波よりもはっきりとした「金属的な」ミッドレンジが特徴です。シェイプ・パラメーターを使用するとESaw波からサイン波へ、またはその逆へとシームレスに変調できるため、モジュレーションを使用すれば粗い音と柔らかい音を行き来するサウンドを自由に生成できます。

ESQUARE

ESquare波(「拡張矩形波」)は、矩形波よりも明るく、倍音が豊富に含まれています。シェイプ・パラメーターを使用すると、ESquare波からサイン波へ、またはその逆へと変化させることができます。

WAVE

WAVEカテゴリーには、幅広い音色を持つデジタル波形が含まれています。これらの波形は他のカテゴリーでは得られないようなサウンド・キャラクターで、リッチで興味深いサウンドの波形を厳選しました。また、波形の作成には、鍵盤上の全域で使用しやすいように先進的なウェーブテーブル・シンセシス技術を採用しました。

波形の多くは様々なアコースティック波形から抽出されていますが、複数のスペクトラムをオーバーラップさせたものもあります。他にも倍音成分を非常に多く含むつつ、基音成分が希薄なものもあります。これらの波形に様々なオシレーター・コンフィギュレーションとフィルター設定を組み合わせれば、多種多様な音色を作り出すことができます。

F-WAVE

F-WAVE(「フォルマント・ウェーブ」)カテゴリー内のサウンドは、概してオーディオ・スペクトラム内の様々な周波数帯域で高いエネルギー・レゾナント・ピークを示し、ボーカル・サウンドやよく響く音色の生成に適しています。特定の母音に相当する波形や、より広義に特定のスペクトル領域内の共鳴音として説明される波形もあります。

S-WAVE

Nord Stage 3のシンセ・セクションには多くの「スーパーウェーブ」が用意されており、これらの波形は**S-WAVE**カテゴリーにまとめられています。これらの波形は多数のオシレーターで作成されており、一般に、非常にリッチで豊かなサウンドを生み出します。

- ❶ S-Wave をオシレーターのソースとして使用している場合は、一部のオシレーター・コンフィギュレーション(ピッチ、シェイプ、シンク、デチューン、デュアル/トリプル FM)を使用できません。

サンプル

サンプル・オプションを使用すると、Nord Sample Libraryのサンプルをオシレーターの波形として使用でき、サブトラックティブ・シンセサイザー・アーキテクチャの他のコンポーネントを使って波形を処理できます。これにより、Nord Stage 3のシンセ・セクションは非常に幅広いサウンドを得ることができます。さらに、Nord Sample Editorアプリケーションを使用してカスタム・サンプルを作成し、それをNord Stage 3にロードすることもできます。

☞ Nord Sample Editor ソフトウェアは、Nord ウェブサイト(www.nordkeyboards.com)から無償でダウンロードできます。

- ❶ サンプルを使用している場合は、一部のオシレーター・コンフィギュレーション(ピッチ、シェイプ、シンク、デチューン、デュアル/トリプル FM)を使用できません。

サンプルの選択は**[OSC 1 WAVEFORM]**ダイヤルで行います。

Nord Stage 3のサンプル・メモリーにはNord Sample Library形式のサンプル・ファイルを最大で480MB保存でき、必要に応じて置き換えることができます。Nord Stage 3のサンプル・メモリーには工場出荷時に多くのサウンドが搭載されていますが、Nordウェブサイト(www.nordkeyboards.com)にはそれよりもはるかに多くのサンプルが用意されています。

カテゴリーとサンプル・プリセット

Nord Stage 3の各サンプルにはカテゴリーが割り当てられており、工場出荷時にはサンプルがそれぞれのカテゴリーにグループ化されていま

す。さらに、シンセ・プリセット・バンク内ではすべてのサンプルが個々のプリセットとして自動的に表示されます。サンプル・プリセット・バンクからサンプルをロードすると、シンセ・セクションの多くのパラメーターがそのサンプルに適した値に自動的に設定されます。この機能およびシンセ・プリセットの概要については34ページをご参照ください。

ファスト・アタック



[FAST ATK]をオンにすると、波形の先頭ではない固定されたスタート・ポイントからサンプルが再生され、サンプルの元のアタックの大部分がバイパスされます。この機能は、例えばスローなストリング・サウンドの「立ち上がり」部分を取り除く場合などに使用します。

オシレーター・コンフィギュレーション (オシレーター構成)

Nord Stage 3のシンセ・セクションには便利なオシレーター・コンフィギュレーションが幅広く用意されており、1つまたは2つのオシレーターを使用する一般的なすべての設定に素早くアクセスできます(中には珍しい設定もあります)。以下、オシレーターを1つ使用するものを「シングル」構成、2つ使用するものを「デュアル」構成と呼びます。

構成を選択するには、**[CONFIG]**ダイヤル([SHIFT] + [OSC 2 PITCH])を回します。オシレーター2にピッチ選択オプションがある構成(すべての波形ミックス構成など)については、**[OSC 2 PITCH]**ダイヤルを使用して、ピッチを半音単位で選択できます。

☞ 選択したピッチは、**[CONFIG]**ダイヤルを使用して構成をブラウズしても保持されます。

[OSC CTRL]は、ベーシック以外のすべての構成で、選択に応じて量またはミックスの調節に使用します。

シングル・オシレーター・コンフィギュレーション

シングル・オシレーター・コンフィギュレーションには1つのオシレーターしかないため、**[OSC 2 PITCH]**の設定は使用しません。

ベーシック

最初の構成は、選択した波形、ウェーブテーブル、またはサンプルに応じて1つのオシレーターだけで構成されます。この構成では、**[OSC CTRL]**ダイヤルを回しても効果はありません。

ピッチ

ピッチ構成では、**[OSC CTRL]**でオシレーターのピッチをコントロールできます。範囲は0.00~24半音です。

- ❶ S-Wave 波形とサンプルにはピッチ構成がありません。

シェイプ

シェイプ構成には、選択した波形に応じて異なる効果が用意されています。前のセクションの波形の表は、シェイプ・パラメーターがクラシック波形にどのように影響するかを示したのもです。Wave波形とF-Wave波形は、スペクトル成形プロセスを使用して変化が加えられます。

- ❶ S-Wave 波形とサンプルにはシェイプ構成がありません。

デュアル・オシレーター・コンフィギュレーション

デュアル・オシレーター・コンフィギュレーションには、一方のオシレーターでもう一方を変調させるもの(シンクやFMなど)と、生成した2つのサウンドをミックスするものがあります。

2つ目のオシレーターはオシレーター2と呼ばれ、ディスプレイの右半分に表示されます。

シンク

「オシレーター・シンク」とは、一方のオシレーターからの信号を使用して、もう一方のオシレーターをリスタートすることを意味します。シンクを設定すると、オシレーター1の基本ピッチがオシレーター2(「シンク」オシレーター)の基本ピッチにロックされます。同期したオシレーターの相対ピッチの変化に伴い、音色が大きく変化するように感じられます。

オシレーター・シンクを使用するときは、[OSC CTRL]をモーフ・アサインやモジュレーション・エンベロープでコントロールすると倍音構成に連続的な変化が起こり、効果的です。

シンク構成には[OSC 2 PITCH]設定がありません。

- ❶ S-Wave 波形とサンプルにはシンク構成がありません。

デチューン

デチューン構成ではオシレーター1の内容がオシレーター2にコピーされ、半音単位で調節したり、より細かく微調整したりできます。

[OSC 2 PITCH]はオシレーター2を半音単位で調節し、[OSC CTRL]は半音4つ分の範囲内で微調整するのに使用します。

- ❶ S-Wave 波形とサンプルにはデチューン構成がありません。

サイン波、三角波、ノコギリ波、矩形波のミックス

サイン波、三角波、ノコギリ波、矩形波のミックス構成では、オシレーター2にこれら4つの基本波形のいずれかが設定されます。[OSC CTRL]を使用してオシレーター2をオシレーター1にミックスできます。

[OSC 2 PITCH]は、オシレーター2のピッチを半音単位でコントロールします(範囲:0~48)。

ミックス・ベル

ミックス・ベル・オシレーター・コンフィギュレーションを使用すると、専用の「ベル・オシレーター」をオシレーター1にミックスできます。オシレーター2では、アンブ・モジュレーションを使用して、ベルのような複雑な波形が作成されます。[OSC CTRL]は、オシレーター2モジュレーターのピッチをコントロールすることで結果的に倍音の成分と特性を変化させます。

ミックス・ノイズ

ミックス・ノイズ・オシレーター・コンフィギュレーションはホワイト・ノイズ・ジェネレーターとして動作し、[OSC CTRL]でメイン・オシレーターとミックスできます。

ミックス・ノイズ構成には[OSC 2 PITCH]設定がありません。

ミックス・ノイズ2

ミックス・ノイズ2オシレーター・コンフィギュレーションでは、バンドパス、レゾナント、ピッチを適用したノイズを生成し、[OSC CTRL]でメイン・オシレーターとミックスできます。

[OSC 2 PITCH]は、ノイズのピッチを半音単位でコントロールします(範囲:0~48)。

デュアルFM

フリケンシー・モジュレーション(FM:周波数変調)シンセシスの基本的な考え方は、あるオシレーター(モジュレーター)が別のオシレーター(キャリア)の周波数を変調するというものです。これによって生成される波形には元のサイン波よりもはるかに豊富な倍音が含まれ、モジュレーションの量を変更することで音色が大きく変化します。

FMオシレーターは昔から「オペレーター」と呼ばれており、デュアルFM構成は2つのオペレーターを持つFM設定を意味します。

倍音の数と強さはFMの量に比例して増加し、[OSC CTRL]でコントロールできます。このパラメーターをモジュレーション・エンベロープやLFOでコントロールすると音色が連続的に変化します。また、モーフ機能

を使ってモジュレーション・ホイールやアフタータッチ、ペダルでコントロールすることもできます。

[OSC 2 PITCH]は、オシレーター2(「モジュレーター」)のピッチを半音単位でコントロールします(範囲:0~48)。

- ❶ S-Wave 波形とサンプルにはデュアル FM 構成がありません。

トリプルFM

トリプルFM構成は3つのオペレーターを持つFM設定のことで、オシレーター2には2つのモジュレーターが含まれます。この2つのモジュレーションによって設定されるモジュレーションの量は、[OSC CTRL]でコントロールします。

[OSC 2 PITCH]は、2つのモジュレーターのピッチを半音単位でコントロールします(範囲:0~48)。

- ❶ S-Wave 波形とサンプルにはトリプル FM 構成がありません。

RING MOD

Ring Mod (リング・モジュレーション) 構成では、オシレーター1にオシレーター2のサイン波が乗算されます。この乗算によって音が新たに追加されますが、そのピッチはオシレーター1とオシレーター2のピッチの関係によって決まります。

[OSC 2 PITCH]はオシレーター2のピッチをコントロールし、それによって生成される信号の特性が変化します。

[OSC CTRL]はオシレーター1と変調された信号のミックスを設定します。

シンセ・プリセット

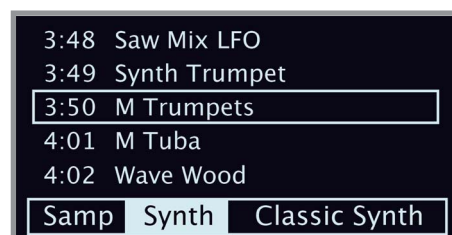
Nord Stage 3のプログラムを保存すると、シンセの設定が他のすべてのパネル設定とともに保存されますが、プログラムからシンセ・サウンドを個別に選択して保存することもできます。この方法でお気に入りのシンセ・サウンドのライブラリーを作成しておけば、必要なときにいつでもアクセスできます。また、Nord Stage 3には最初から便利なプリセットが多数搭載されています。

シンセ・プリセットを選択する

8つのバンクにそれぞれ50個のシンセ・プリセットが用意されていますが、工場出荷時にはそのうち2つが空の状態です。プリセットのブラウズと試聴を行うには、[SYNTH PRESET]ダイヤルを回します。プログラム・セクションのディスプレイに、現在選択しているプリセットの場所と名前が表示されます。シンセ・セクションのディスプレイには、現在選択しているプリセットのオシレーターとオシレーター・コンフィギュレーションの設定が表示されます。

リスト・ビュー

[SHIFT]を押しながら[SYNTH PRESET]ダイヤルを回すと、シンセ・プリセットのリスト・ビューが表示されます。ディスプレイ上のSamp、Synth、カテゴリー(下の例ではClassic Synth)に対応した各ボタンを使用すると、現在探しているコンテンツを絞り込むことができます。



Samp: Nord Stage 3に現在保存されているサンプル・コンテンツに基づいて、サンプル・プリセットのバンクが自動的に生成されます。ディスプレイ上のSampボタン(パネル上の[PROGRAM 1]ボタン)を押すと、これらのプリセットがすべて表示されます。プリセットからサンプルをロードすると、[FILTER]と[AMP ENVELOPE]のパラメーターが、このサンプルに適した値に自動的に設定されます。これらのパラメーターはもちろん、必要に応じて手動で調節することもできます。

- ① サンプル・プリセット・バンクの目的は、サンプルの種類に関係なく、すぐに演奏できるサウンドを提供することです。これに対し、[OSC 1 WAVEFORM] ダイアルを使用してサンプルをロードした場合は、ロードしたすべてのサンプルに[FILTER]と[AMP ENVELOPE]の現在の設定が適用されます。ほとんどの場合、これらのサウンドをダイナミックかつ「演奏可能」な状態にするには調整が必要です。

Synth: ディスプレイ上のSynthボタン(パネル上の[PROGRAM 2]ボタン)を選択すると(デフォルト設定)、上記のサンプル・プリセットがリストから除外されます。ユーザーが保存したシンセ・プリセット(サンプルを使用するものも含む)はすべて、シンセ・プリセット・バンクに登録されます。

カテゴリー: ディスプレイ上のカテゴリー・ボタンを押すと、現在選択しているサンプルまたはシンセ・プリセットのカテゴリーが表示されます。いずれかのボタン([PROGRAM 3]または[PROGRAM 4]ボタン)を押すとカテゴリー・ソート・モードに切り替わり、プリセットがカテゴリーごとにグループ化されます。これにより、例えばすべてのシンセ・ベース・プリセットをまとめてブラウズできるようになります。[PAGE ◀]、[PAGE ▶]ボタンを使用すると、リスト内の前または次のカテゴリーを選択できます。

- ※ [CATEGORY] ボタン ([SHIFT] + [MONO]/[LEGATO]) を押すと、シンセ・プリセットのリスト・ビューをカテゴリー・ソート・モードで瞬時に開くことができます。

シンセ・プリセットを保存する

シンセ・セクションの現在の設定は、8個のシンセ・プリセット・バンク内の任意の場所に、シンセ・プリセットとして簡単に保存できます:

- ① [STORE SYNTH] ボタン ([SHIFT] + [KB HOLD]) を 1 回押します。既存のプリセットをベースとしてシンセ・プリセットをエディットした場合は、既存のプリセットの場所が保存先として表示されます。それ以外の場合は、シンセ・プリセットの保存場所を手動で選択するよう求めるダイアログが表示されます。[PROGRAM] ダイアルを使用して、適切な場所を選択します。
 - ② プリセットに名前を付けてカテゴリーを割り当てるには、[STORE AS] ボタン ([SHIFT] + [STORE]) を押します。プリセットに名前を付ける必要がなければ、手順 5 に進みます。
 - ③ ディスプレイ上の **ABC** ボタンを長押しするとアルファベットの列が表示されるので、ダイアルを使用して現在の位置の文字を選択します。ディスプレイ上の **ABC** ボタンを放すとカーソルが次の場所に移動します。ダイアルと [PAGE ◀]、[PAGE ▶] ボタンを使用してカーソルを前後に動かすことができます。ディスプレイ上の **Ins** ボタンを押すと現在の位置にスペースが挿入され、**Del** ボタンを押すと現在選択している文字が削除されます。
 - ④ ディスプレイ上の **Cat** ボタンを押しながら [PROGRAM] ダイアルを回すと、カテゴリーを選択してプリセットに割り当てることができます。
 - ⑤ 別の保存場所を選択するには、[PROGRAM] ダイアルと [PAGE ◀]、[PAGE ▶] ボタンを使用します。選択した保存場所にある現在のプリセットはキーボードを弾いていつでも確認できます。
 - ⑥ 保存操作を途中で中止するには [EXIT] ボタンを押します。
 - ⑦ 適切な保存場所が見つかったら、[STORE] ボタンを押して操作を確定します。
- ※ シンセ・プリセットに名前を付けてカテゴリーを割り当てる操作は、Nord Sound Manager でも行えます。

フィルター・セクション



フィルターは音色全体を形作る重要なコンポーネントであり、複数のソースによる変調も可能です。Nord Stage 3には、クラシックなシンセサイザー・フィルターと革新的なシンセサイザー・フィルターの両方が厳選されて搭載されています。

ほとんどのフィルターは以下のパラメーターを共有します。[FREQ](フリケンシー)はカットオフ・フリケンシーをコントロールし、[RES](レゾナンス)はフィルター・レゾナンスをコントロールします。その例外の1つはLPとHPのコンビネーション・フィルターです。このフィルターは[RES]ノブでHPフィルターのカットオフ・フリケンシーをコントロールします。この機能については後ほど詳しく説明します。

フィルター・セレクター・ボタン

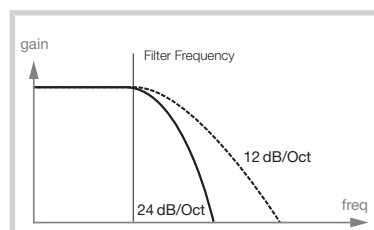
フィルター・タイプの選択はフィルター・セレクター・ボタンを押して行います。Nord Stage 3に搭載されたフィルターを1つずつご紹介します:

LP 24 & LP 12

カットオフ・フリケンシーよりも高域の成分は弱められ、低域成分はそのまま通過します。

[LP12]設定は12dB/octのローパス・フィルターを提供し、LP24設定よりも多くの倍音が保持されます。また、12dBフィルターは2ポール・フィルターとも呼ばれています。

[LP24]設定は、24dB/octの減衰傾度を持つ、よりクラシックな「シンセ・フィルター」です。このタイプのフィルターは24dB/octのスロープにより、12dBフィルターよりも急激に高域成分をカットします。また、24dBフィルターは、4ポール・フィルターとも呼ばれています。



これらのLPフィルターでは、カットオフ・フリケンシー周辺の帯域を強調するレゾナンス・コントロールを使用できます。レゾナンスを上げるとサウンドは少し細くなります。

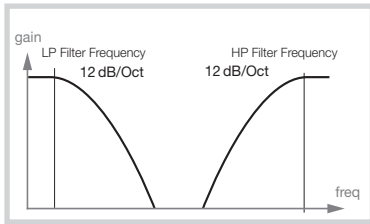
LP M

[LP M](ローパスMフィルター)設定は、有名なMiniトランジスターに搭載されたオリジナルのトランジスター・フィルターをエミュレートしたものです。大変な好評を博した画期的なこのフィルター設計は、1960年代にロバート・モーク博士が開発し、特許を取得しました。

このMフィルターは、4ポール、24dB/octのレゾネーティング・ローパス・フィルターです。このフィルター・レゾナンスの特徴は、レゾナンスを際立たせ、信号のロー・エンドの部分を一般的な24dB/octのローパス・フィルターよりも多く残すという細かな点にあります。

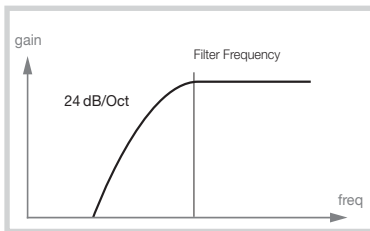
LP/HP

ハイパスとローパス (**LP/HP**) を組み合わせたこのフィルターは、12dBのローパス・フィルターと12dBのハイパス・フィルターが並列に接続されています。[FREQ]ノブはLPフィルターのカットオフ・フリケンシーをコントロールし、[RES]ノブはHPフィルターのカットオフ・フリケンシーをコントロールします。



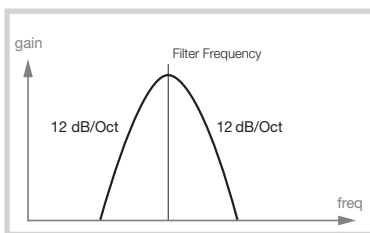
このコンビネーションは、ソースの徹底した音色形成を行う場合に非常に便利です。このフィルターにより、2つのカットオフ・フリケンシーの間の範囲をカットしたり、フィルター範囲の重なりを使用して特定の範囲を強調したりできます。

HP



[HP] (ハイパス) を使用すると、フィルター・フリケンシーより低域が弱められ、高域はそのまま通過します。実際には、フィルター・フリケンシーを高くするとサウンドが徐々に細くなります。

BP

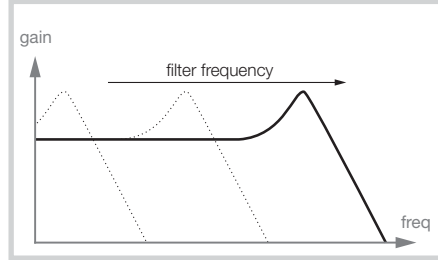


[BP] (バンドパス) フィルターは、フィルター・フリケンシー周辺の信号を通し、フィルター・フリケンシーよりも高域、低域を弱めます。このフィルターは、例えば、か細く鼻にかかったようなサウンドを作成したり、非常に「コントロール」されたサウンドを作成したりするのに使用できます。サウンドの厳密な特性は、フィルター・フリケンシーとレゾナンスの設定によって決まります。

フィルター・フリケンシー



モーフィング可能なフィルター **[FREQ]** ノブは、カットオフ・フリケンシー・ポイントの設定に使用します。カットオフ・フリケンシー・ポイントとは、周波数レンジ内でフィルターが周波数の処理を始める位置を指します。この処理の実際の結果は、使用するフィルターの種類によって異なります。



上の図はローパス・フィルターにおける3つの異なるフィルター・フリケンシーのようすをイラストにしたものです。図の左からスロープまでの範囲が、フィルターから通過できる帯域となります。スロープから右の帯域はフィルターによって弱められます。このスロープが左へ行くほどサウンドはソフトになります。スロープの頂点にある「こぶ」はレゾナンスで作られます。

フィルター・レゾナンス



モーフィング可能なレゾナンス (**[RES]**) は、フィルターの特性をさらに細かく調整するパラメーターです。レゾナンスが上がるとカットオフ・フリケンシー周辺の帯域が強調され、サウンド全体は徐々に線が細くなります。

さらに上げると、カットオフ・フリケンシー周辺の帯域で起きていた共鳴現象が一層強くなり発振を始めます。つまり、もうひとつの音がフィルターから発生するのです。この発振しているピッチは、フィルター・フリケンシーの設定で変化します。

LP/HPフィルター設定を使用する際は、**[FREQ HP]** のテキストが示しているように、**[RES]** ノブでハイパスのカットオフ・フリケンシーをコントロールします。

KBトラック



キーボードトラックをコントロールする理由は、音響の基本に関係しています。オシレーター波形のピッチが上がると、その波形の倍音も一緒に上がります。それをフリケンシー固定のフィルターに通した場合、ピッチが上がるにつれてこもった音になってしまいます。この現象を解消するのが、**KBトラック** の役割です。

KBトラックの設定

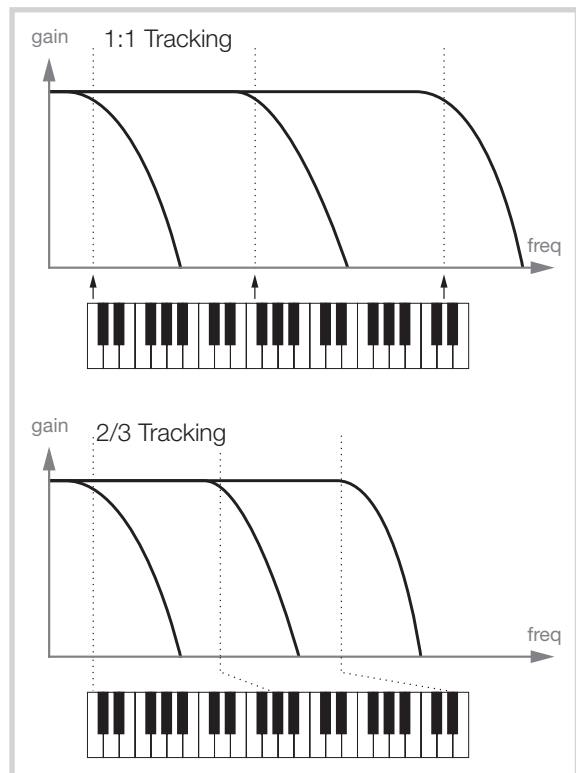
オフ (すべてのLEDが消灯): フィルター・フリケンシーのカットオフ・ポイントは、演奏されるノートによって変化しません。

1/3: カットオフ・フリケンシーは、1:3の比率でキーボードを追従します。1オクターブ上を演奏すると、カットオフ・フリケンシーは1/3オクターブ移動します。

2/3: カットオフ・フリケンシーは、2:3の比率でキーボードを追従します。1オクターブ上を演奏すると、カットオフ・フリケンシーは2/3オクターブ移動します。

1: カットオフ・フリケンシーは、1:1の比率でキーボードを追従します。

以下の図は、[1]および[2/3]に設定したときの、キーボード位置とカットオフ・フリケンシーの関係を示しています：



ドライブ



[DRIVE]ボタン([SHIFT] + [KB TRACK])をオンにすると、フィルター・ステージにディストーションが加わります。**[1]**、**[2]**、**[3]**の各設定は、それぞれ低、中、高のドライブ量を表しています。

※ **[DRIVE]** をオンにしてフィルター・レゾナンス設定を高くすると、多くの場合、おもしろく興味深いサウンドになります。

LFOアマウント



フィルター・フリケンシーは、ロー・フリケンシー・オシレーター、つまりLFOでコントロールできます。モーフイング可能な**[LFO AMT]**ノブでモジュレーションの量を設定します。**[LFO AMT]**パラメーターの正確なエフェクトは、LFOセクションがどのように設定されているかによって異なります。38ページをご参照ください。

ベロシティ/モジュレーション・エンベロープ

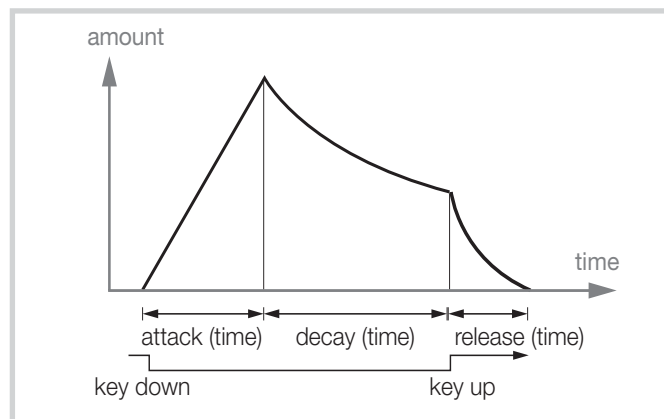


2つの機能を持つ**[VEL MOD ENV]**ノブは、キーボード・ベロシティまたはモジュレーション・エンベロープによるフィルター・フリケンシーへのモジュレーション量を制御します。中央(12時)の位置にすると、フィルターにはベロシティとモジュレーション・エンベロープのいずれのモジュレーションも適用されません。

ノブを12時(ゼロ)の位置から反時計回りに回すと、ベロシティ・コントロールの量が増加します。ノブを12時の位置から時計回りに回すと、モジュレーション・エンベロープがフリケンシーを変調する量が増加します。

エンベロープ

エンベロープは「音のかたち」、つまり打鍵してから音が鳴り終わるまでの時間的変化を作り出します。以下の図は、エンベロープ・タイム全体を通じて、各パラメーター(アタック、ディケイ、リリース)がどのような役割を果たすかを示しています。これはモジュレーション・エンベロープとアンプ・エンベロープの両方に当てはまります。



モジュレーション・エンベロープ



モジュレーション・エンベロープ(**MOD ENV**)は3ステージ・タイプのエンベロープで、**[OSC CTRL]**パラメーターとフィルターの cutoff フリケンシーに適用できます。

[OSC CTRL]の変調に使用した場合、使用するオシレーター・コンフィギュレーションに応じて、時間の経過に伴う様々な変化を実行できます。

フィルターに適用する場合は、音色の時間的変化を作り出すのに使用します。例えば、音の開始部分のフィルターを調節することで、ブライタアタックを作り出したりします。

アタック

アタックは打鍵してからエンベロープが最大値に達するまでの時間を設定します。**[ATTACK]**ノブを時計回りに回すとアタック・タイムが長くなります。

ディケイ

アタックの段階が終了した時点で鍵盤がまだ押された状態であれば、エンベロープの量はゼロに向かって再び降下し始めます。この時間を**[DECAY]**ノブで調整します。ディケイ・タイムを最大に設定すると、エンベロープはサスティン・モードになり、鍵盤から手が離れるまで一定の値を維持します。

リリース

鍵盤から手が離れると、エンベロープはリリースの段階に入ります。このリリースにかかる時間を**[RELEASE]**ノブで設定します。

ベロシティ

[MOD ENV]の**[VELOCITY]** LEDが点灯しているときは、鍵盤を弾く際のベロシティでモジュレーション・エンベロープの出力レベルをコントロールできます。鍵盤を強く弾くほどパラメーターの変化が大きくなります。

アンプ・エンベロープ

アンプは、オシレーターからスタートした信号の最終段階にあり、ここで音量をコントロールします。アンプをエンベロープでモジュレーションさせると、サウンドが鳴り始めてから消えるまでの時間的な変化を作り出すことができます。この音量の時間的な変化は、私たちが音を聴き分ける際に非常に重要としているファクターの1つです。ここでの設定次第でサウンドは「ソフトな音」、「ハードな音」、「短い音」、「伸びのある音」などになります。



アタック

[ATTACK]ノブで打鍵時に音量がゼロから最大値になるまでの時間を設定します。アタックの設定値が高い場合、サウンドの音量は徐々に上がる「フェードイン」の状態になります。

ディケイ

鍵盤が押されている状態が続き、アタックの段階を終了すると、エンベロープはゼロレベルに向かって降下します。この時間を**[DECAY]**ノブで調整します。ディケイ・タイムが最大の場合、鍵盤から手が離れるまでエンベロープは最大値をキープし続けます。

リリース

鍵盤から手が離れると、エンベロープはリリースの段階に入ります。このリリースにかかる時間を**[RELEASE]**ノブで設定します。

ベロシティ

[AMP ENV]の**[VELOCITY]**をオンにすると、鍵盤を弾く際のベロシティでシンセの出力レベルをコントロールできます。ベロシティの感度は4段階から選択できます ([VELOCITY] LEDが消灯したオフの状態を含む)。

LFO



LFOはLow Frequency Oscillator (ロー・フリケンシー・オシレーター)の略で、周期波形を非常に低い周波数で出力できます。LFOは通常、可聴周波数の生成には使用しません。代わりに、LFOの出力はNord Stage 3オシレーターの[OSC CTRL]パラメーターやフィルター・フリケンシーといった、他の機能のモジュレーションに使用します。LFOの周期(周波数)はモーフィング可能な**[RATE]**ノブで設定します。

例えば、ピッチやデチューンなどのオシレーター・コンフィギュレーションを使用してビブラート・エフェクトを作成する場合などに、[OSC CTRL]を変調するには、オシレーター・セクションで2つの機能を持つ**[LFO]/[MOD ENV]**ノブを回して12時より前の位置に設定します。フィルター・フリケンシーを変調するには**[LFO AMT]**ノブを回します。

マスター・クロック

[SHIFT]ボタンを押しながら**[RATE]**ダイヤルを回すと、LFOの周期がNord Stage 3のマスター・クロックと同期します。

LFOがマスター・クロックと同期している場合、[RATE]ノブではマスター・クロックのテンポに対する相対的な比率(譜割り)をコントロールします。1/2はクロックのテンポに対する2分音符、1/4は4分音符、1/8は8分音符というようになります。マスター・クロック機能に関する詳細は26ページをご参照ください。

LFOの波形

LFOの波形セレクター・ボタンでLFOの波形を選択します:

波形	内容
△	三角波 ナチュラルなビブラートやアナログ・シンセのパルス・ウィズス・モジュレーションなどに使用します。
▽	ノコギリ波 1 傾斜のあるモジュレーションに使用します。
▲	ノコギリ波 2 傾斜のあるモジュレーションに使用します。
□	矩形波 ぶつ切りのような変化、例えばトリルやはっきりとしたトレモロなどに使用します。
S/H	サンプル&ホールド ランダムなモジュレーションを生み出します。

ボイス・セクション



Nord Stage 3のシンセ・セクションには様々なボイス・モードが搭載されており、これらは**ボイス・セクション**で選択できます。モノフォニックやポリフォニックでの演奏に加え、3種類のユニゾン・モードなどのオプションも用意されています。

モノ・ボイス・モード

モノ・モードでは、昔のモノフォニック・シンセと同じように単音のみを発音します。また、音を発音するたびにエンベロープがリトリガーされるため、すべての音に同じモジュレーションとフィルター効果が適用されます。

レガート・ボイス・モード

レガート・モードもモノ・モードと同様、単音のモードです。ただし、最初に打鍵した手を離さないうちに次の鍵盤を弾くと、現在のエンベロープ・ステージの前の音が新しい音で置き換えられます。

レガートをオンにすると、レガート演奏をしたときのみグライドがかかります。そのため、グライド効果を得るには、前の鍵盤から手を離す前に次の鍵盤を弾く必要があります。

- ❶ [MONO] と [LEGATO] の LED がどちらも点灯していない場合、シンセ・セクションはデフォルトのポリフォニック・モードになっています。

グライド

グライド機能とは、最初に弾いたピッチと次に弾いたピッチとの間を滑らかにつなぐ機能で(別名:ポルタメント)、レガートおよびモノ・モードでのみ使用できます。グライドのかかり方は一定の比率でピッチが変化する、いわゆる「コンスタント・レイト」を採用していますので、最初に弾いたピッチと次に弾いたピッチの間隔が広い場合は、次に弾いたピッチに達するまでに時間がかかります。グライドの深さは[GLIDE]ノブで設定します。

ユニゾン

Nord Stage 3のシンセ・オシレーターには、わずかにデチューンされた「隠れた」オシレーターがいくつか内蔵されています。これらが元のサウンドに加わることで、非常に分厚いシンセ・サウンドになるのです。しかも、このユニゾン機能は発音数を減らすことなく使用できるのです!**ユニゾン**・セッティングの**1**、**2**、**3**はクラシックなデュアル・オシレーターのデチューン効果となり、数字が大きくなるほどデチューンが深くなります。

サウンドを初期化する(SOUND INIT)

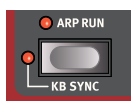
シンセ・サウンドを初期化した状態から音作りしたいときなどに**[SOUND INIT]**機能([SHIFT]+[UNISON])を使用します。この機能を使用すると、オシレーター・タイプと選択した波形を除く、シンセ・セクションのすべてのエリアが初期化されます。

アルペジエーター



アルペジエーターは、押さえた音が次々と繰り返し演奏される機能です。パラメーターは、ディレクション、レンジ、スピードの3つです。Nord Stage 3のアルペジエーターでは、4種のディレクション(UP、DOWN、UP/DOWN、RANDOM)を複数のオクターブ・レンジで演奏します。アルペジオのスピードは[RATE]ノブでコントロールする場合と、本機のマスタークロック機能と同期させる方法の2通りがあります。

アルペジオの実行とキーボード・シンク(KBS)



[ARP RUN]ボタンを押すとアルペジオがオンになります。このボタンはシンセ・セクションの左下にあります。

[KB SYNC]ボタン([SHIFT] + [ARP RUN])を押すとキーボード・シンクがオンになります。このモードでは、新しい音を弾くたびにアルペジエーターがリセットされます。キーボード・シンクをオフにすると、アルペジオの実行中に演奏した新しい音は、現在のテンポ設定の「グリッド」に従います。

アルペジエーター・レンジ

アルペジエーターのセレクター・ボタンを押すと、オクターブ・レンジを切り替えられます。LEDがすべて消えている状態では、弾いたピッチのままでアルペジオ演奏をします。最大4オクターブまでレンジを選択できます。

アルペジエーター・ディレクション

[SHIFT]ボタンを押しながらアルペジエーターのセレクター・ボタンを押すと、アルペジエーターのディレクションを設定できます。LEDが消灯しているときはアップ(低い音から高い音へ順に演奏)になります。その他にダウン(**DN**:高い音から低い音へ順に演奏)、アップ&ダウン(**U/D**:低い音順に演奏し、次に高い音順に演奏)、ランダム(**RND**:構成音をランダムに演奏)があります。

アルペジエーター・レイト

[RATE]ノブでアルペジオのテンポを設定します。テンポはBPMでディスプレイに表示されます。

アルペジエーターのマスター・クロック

[SHIFT]ボタンを押しながらアルペジエーターの**[RATE]**ノブを回すと、Nord Stage 3のマスター・クロックにアルペジオが同期します。このとき[RATE]ノブでアルペジオの譜割りを選択することができます。譜割りとはマスター・クロックに対する相対比のことです。1/2は2分音符、1/4は4分音符、1/8は8分音符となります。また、「T」は三連符です。

マスター・クロックとテンポの設定方法につきましては、26ページをご参照ください。

キーボード・ホールド



[KB HOLD](キーボード・ホールド)モードでは、すべての指が鍵盤から離れても発音が続きます。この機能を使用すると、鍵盤を押さえ続けなくてもアルペジオの実行を維持できるほか、コードやドロンの演奏を継続しながら両手で別の演奏を行えるため便利です。

ビブラート



ビブラートは、オシレーター・のピッチをモジュレートしてナチュラルなビブラートをかけることができます。

このビブラートには3種の方法があり、ビブラート・セクションのセレクター・ボタンで切り替えることができます:

ディレイ・モードである**[DLY1]**、**[DLY2]**、**[DLY3]**のいずれかを選択した場合、発音後、少し時間が経ってからビブラートがかかります。この時間は数字が増えるほど長くなります。ディレイ・モードのビブラートの深さとすべてのビブラート・モードのレイトは、サウンド・メニューで設定できます。詳しくは53ページをご参照ください。

アフタータッチ(**[A T]**)が選択されている場合、アフタータッチでビブラートをかけることができます。

[WHL]が選択されている場合、ビブラートの深さをモジュレーション・ホイールで調整できます。

8 エクスターナル

エクスターナル・セクション



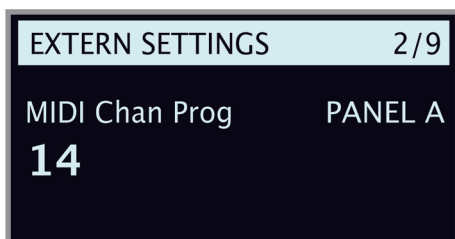
Nord Stage 3には外部 MIDI 機器をコントロールするエクスターナル・セクションを搭載しています。エクスターナル・セクションを使用すれば、外部 MIDI のコントロールに不可欠なあらゆる機能を、Nord Stage 3 のサウンド・エンジンをコントロールするのと同じくらい簡単に使用できます。

エクスターナル・セクションの重要な機能は、インストゥルメント・セクションと同様に動作します。キーボード・ゾーンの設定方法もインストゥルメント・セクションと同様です。このセクションには多目的な **[VALUE]** エンコーダーがあり、MIDI ボリューム、プログラム・チェンジ、コンティニューアス・コントローラー・メッセージなどの送信に使用します。該当するパラメーター・ボタンを使用して、送信するパラメーターを選択します。

MIDI チャンネルやプログラム・チェンジ、コンティニューアス・コントローラー・メッセージやその他 MIDI 関連の細かな設定は、エクスターナル・メニューで行えます (55 ページをご参照ください)。また、これらの設定はプログラムごとに保存できるため、プログラムを変更する際にプログラム・チェンジなどの MIDI メッセージを Nord Stage 3 から外部ユニットに送信できます。

設定する

- ① MIDI ケーブルを Nord Stage 3 の MIDI OUT から外部 MIDI 機器の MIDI IN に接続します。外部 MIDI 機器には、ラック・シンセ・ユニット、コンピュータ、MIDI IN ポートを備えた機器などを使用できます。
- ② **[EXTERN]** ボタン ([SHIFT] + [PROGRAM 4]) を押して、エクスターナル・メニューに入ります。
- ③ **[PAGE ◀]**、**[PAGE ▶]** ボタンを押して「Extern Settings MIDI Chan」ページに入ります。このページには、エクスターナル・メニューの最初のページで設定された内容によって、「MIDI Chan Prog」または「MIDI Chan Glob」と表示されます。



- ④ **[PROGRAM]** ダイヤルで送信 MIDI チャンネル (1 ~ 16) を選択します。[PANEL A] および [PANEL B] ボタンを使用して、各パネルのチャンネル設定にアクセスできます。**[EXIT]** ([SHIFT]) ボタンを押してメニューを終了します。
- ⑤ 前の手順で設定した MIDI チャンネルで受信するように、外部 MIDI 機器を設定します。

- ① エクスターナル・メニューの最初のページでは、プログラムごとに MIDI チャンネルを設定するかグローバルに設定するかを選択できます。グローバルに設定した場合は、エクスターナル・セクションを使用するすべてのプログラムがパネル A とパネル B のそれぞれに同じ MIDI チャンネルを使用します。このプログラム設定 (デフォルト) の場合、各プログラムはそのプログラム内で定義され、保存されている外部 MIDI チャンネルを使用します。

エクスターナル・セクションを使う

オンにする

エクスターナル・セクションをオンにする方法は、Nord Stage 3 のサウンド・エンジンと同じで、エクスターナル・セクションの **[ON/OFF]** ボタンを押します。

キーボード・ゾーン

エクスターナル・セクションは、パネル A とパネル B に 1 つずつ用意されており、内蔵サウンド・エンジンと同様にキーボード・ゾーンを使ってレイヤーやスプリット作成することができます。例えば、エクスターナル・セクションがゾーン 1 および 2 のみにアサインされている場合、外部 MIDI 機器はそのゾーンを演奏したときにのみ反応します。

キーボード・ゾーンの設定および使用方法については、26 ページのスプリット機能に関するセクションをご参照ください。

キーボードを使わずにエクスターナル・セクションの設定を行うエクスターナル・セクションには通常のキーボード・ゾーンに加えて、もう 1 つのオプションがあります。選択方法は通常のキーボード・ゾーンと同じですが、このオプションではエクスターナル・セクションを内蔵キーボードに一切割り当てません。そのため、エクスターナル・セクション用の **[KB ZONE]** LED はすべてオフになります。ただし、ピッチ・スティックや **[PARAMETER]** ノブといった、エクスターナル・セクションのほかの機能はすべて有効なままです。この機能は、MIDI キーボード・メッセージを使わずに外部機器をコントロールしたい場合に便利です。

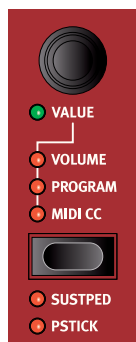
オクターブ・シフト

[OCT UP] を押すと、送信された MIDI ノートが 1 オクターブ上にシフトし、**[OCT DOWN]** ボタン ([SHIFT] + [OCT UP]) を押すと 1 オクターブ下にシフトします。シフトする範囲は、外部 MIDI 機器のノート範囲全体と、外部 MIDI 機器が現在割り当てられているキーボード・ゾーンの範囲に応じて決まります。

ピッチ・スティック/サスティン・ペダル・メッセージ

[SHIFT] ボタンを押しながらパラメーター・ボタンを押すと、ピッチ・バンドやサスティン・ペダル・メッセージを外部 MIDI チャンネルを介して送信するかどうかを設定できます。メッセージを送信する設定の場合は、**[SUSTPED]** と **[PSTICK]** の LED が点灯します。

エクスターナル・パラメーター



エクスターナル・パラメーターはパラメーター・ボタンで選択し、値は [VALUE] エンコーダーでコントロールします。

※ [VALUE] エンコーダーはモーフ機能でコントロールできます。詳しくは 25 ページをご参照ください。

以下のパラメーターは、パラメーター・ボタンを使用して選択できます：

ボリューム

ボリューム (**VOLUME**) を選択すると、[VALUE] エンコーダーで MIDI ボリューム・メッセージ (CC7:0 ~ 127) を送信できます。これにより外部 MIDI 機器のレベルをコントロールできます。なお、外部 MIDI 機器でこの MIDI CC メッセージを受信できるように設定する必要がある場合がありますのでご注意ください。

プログラム

[PROGRAM] オプションを選択すると、[VALUE] エンコーダーでプログラム・チェンジ・メッセージ (0 ~ 127) を送信でき、外部 MIDI 機器のプログラムを選択することができます。この機能はほかのパラメーターと動作が少し異なり、[VALUE] エンコーダーの周囲にある LED 1 つで 1 プログラムとなりますので、127 個すべてのプログラム・チェンジ・メッセージにアクセスするためには、このエンコーダーを何周か回します。なお、外部 MIDI 機器側で MIDI プログラム・チェンジ・メッセージを受信できる状態に設定する必要がある場合がありますのでご注意ください。

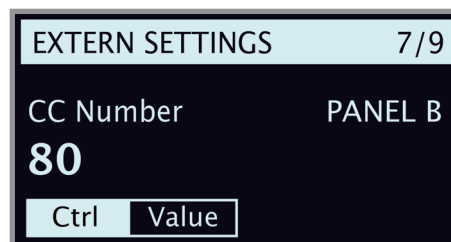
⚠ エクスターナル・セクションを使用しなくても本機でバンク、ページ、プログラムを選択したときに MIDI プログラム・チェンジ・メッセージを送信することができ、外部 MIDI 機器で受信してしまうことがあります。このような場合、パネル A、パネル B の MIDI チャンネルがエクスターナル MIDI チャンネルと同じチャンネルになっていないかどうかをご確認ください。また、MIDI メニューでエクスターナル・セクション以外から MIDI プログラム・チェンジ・メッセージの送信をオフにすることもできます。

外部 MIDI 機器のプログラムがバンクとプログラムで構成されている場合、エクスターナル・メニューでバンク・チェンジ・メッセージを送信できるようにするオプションもあります。詳しくは 55 ページをご参照ください。

MIDI CC

[MIDI CC] 設定を使用すると、外部 MIDI 機器で選択したパラメーターをコントロールするための MIDI コントロール・チェンジ・メッセージを送信できます。[VALUE] エンコーダーで送信する CC メッセージの値をコントロールします。まず、エクスターナル・メニューで、送信するコントロール・ナンバーを設定する必要があります：

- ① [EXTERNAL] ボタン ([SHIFT] + [PROGRAM 4]) を押してエクスターナル・メニューに入ります。
- ② [PAGE ◀], [PAGE ▶] ボタンで「EXTERNAL SETTINGS」の「CTRL/VALUE」メニュー・ページを選択します。



- ③ [PROGRAM] ダイアルで MIDI CC ナンバー (0 ~ 119) を選択します。どのパラメーターをどの CC ナンバーに割り当てるかについては、外部 MIDI 機器のマニュアルをご参照ください。
- ④ プログラムのロード時に選択した MIDI CC パラメーターの初期値を設定するには、ディスプレイ上の **Value** ボタンを押し、ダイアルを使用して値を選択します。ディスプレイ上の **Ctrl** ボタンを押すと、MIDI CC ナンバーの設定に戻ります。
- ⑤ [EXIT] ([SHIFT]) ボタンを押してメニューを終了します。

繰り返しますが、外部 MIDI 機器でこの MIDI CC メッセージを受信できるように設定する必要がある場合がありますのでご注意ください。

SEND ON LOAD

Nord Stage 3 にプログラムをロードしてすぐに特定の MIDI データを送信したい場合は、外部 MIDI 機器のプログラムを切り替えたり、Nord Stage 3 のプログラム・チェンジに同期するように CC の値をリセットしたりできます。プログラム・チェンジ (PC)、ボリューム (Vol)、ユーザー定義の CC メッセージ (UsrCC) は、それぞれオンまたはオフに設定できます。設定は、エクスターナル・メニューの「Send On Load」ページで行えます。

エクスターナル・セクションとMIDIソフト・スルー

外部 MIDI 機器から Nord Stage 3 に MIDI ノート・データが送信されていて、同時に本機のエクスターナル・セクションがオンになっている場合、本機で受信した MIDI ノート・データは本機の MIDI アウトから、エクスターナル・セクションで設定されている MIDI チャンネルで再び送信されます。

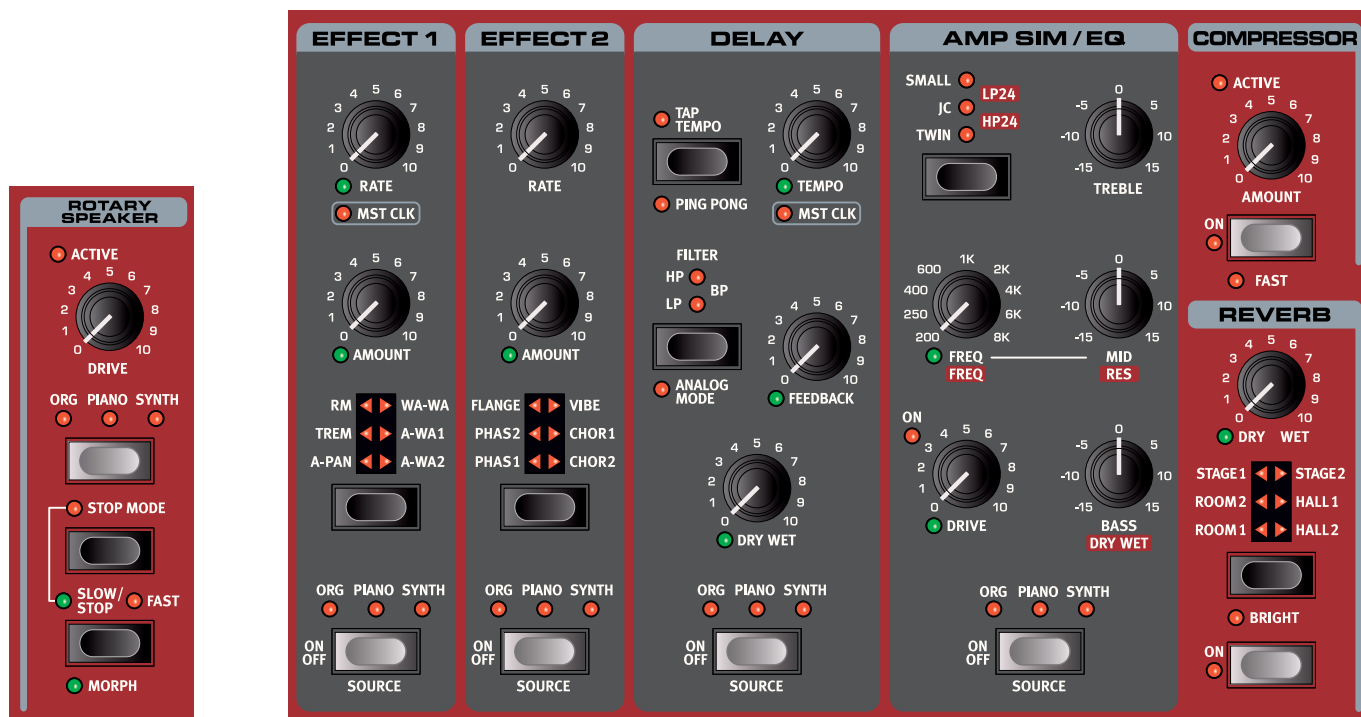
この機能を利用して、外部機器からの MIDI データでさらに外部 MIDI 機器をコントロールすることができます。このとき、本機に入力される MIDI ノート・データを、デュアル KB 機能、パネル A またはパネル B の MIDI チャンネル、あるいはグローバル MIDI チャンネルのいずれかと同じにする必要があります。

※ この場合、エクスターナル・メニューでソフト・スルー機能をオンしておく必要があります。

エクスターナル・メニューのその他の設定

このセクションでは紹介していませんが、エクスターナル・セクションにはほかにもいくつかのメニュー設定があります。詳しくは、55 ページのメニューのチャプターをご参照ください。

9 エフェクト



概要

Nord Stage 3のエフェクトはすべてパネルごとに設定できます。つまり、エフェクト・ユニットが2つつ存在し、それぞれをプログラムごとに個別に設定できるのです。ただし、ロータリー・エフェクトの設定だけは例外で、これらのエフェクトはパネルおよびサウンド・エンジンごとに個別に設定できますが、速度とドライブはどちらのパネルでも常に同じ設定が使用されます。

エフェクトをオンにする

エフェクトをオンにするには、各エフェクトの **[ON OFF]** ボタンを押します。すると、LED が点灯してどのサウンド・エンジンにエフェクトがアサインされているかを表示します。**[SOURCE]** ボタン ([SHIFT] + [ON OFF]) を押すと、エフェクトがかかるサウンド・エンジンが切り替わります。

エフェクトがかかるサウンド・エンジンは、**[SOURCE]** ボタンをダブルタップして選択することもできます。この方法は **[SHIFT]** ボタンを使用する必要がなく、片手で操作できますので便利です。

エフェクト・オフ時にエフェクト・タイプを選択する

エフェクト 1 およびエフェクト 2 セクションがオフの場合でも、オフになっているエフェクトのエフェクト・セレクター・ボタンでエフェクト・タイプを選択できます。セレクター・ボタンを1回押すと、セレクター LED が短時間点灯してそのとき選択していたエフェクトを表示します。また、セレクター・ボタンを繰り返し押すと、エフェクトをオンにしなくてもエフェクト・タイプを切り替えることができます。

エフェクトの設定は、実際にエフェクトがオフになっている場合でも設定

を変更できます。この場合、設定値はディスプレイに表示されます。

エフェクト 1

エフェクト 1 セクションには 6 種類のモジュレーション・タイプのエフェクトがあり、セレクター・ボタンで切り替えます。

[MST CLK] ノブ ([SHIFT] + [RATE]) を回すことでエフェクト 1 の周期がマスター・クロックと同期します。マスター・クロック・モードでは、周期がマスター・クロック・テンポの譜割りとして表されます。

A-PAN(オート・パン)

A-PAN は左右のアウトプット間をスムーズにサウンドが行き来するエフェクトです。

パンニングのスピードと広がりはそれぞれ **[RATE]** と **[AMOUNT]** ノブでコントロールします。

応用例:サウンドのパンポットとして使う

オートパン・エフェクトを使用すると、左右間のサウンドの位置を手動でコントロールできます:

- ① パンを振りたいサウンド・エンジン (オルガン / ピアノ / シンセ) の **エフェクト 1** をオンにし、エフェクト・タイプから A-Pan を選択します。
- ② **[RATE]** ノブを 0 にセットし、**[AMOUNT]** ノブでミキシング・コンソールのパンポットを操作する要領で左右間の好きな位置に定位させることができます。



TREM(トレモロ)

[TREM] (トレモロ) は音量をモジュレートして周期的に変化させるエフェクトで、エレクトリック・ピアノに非常によく使われます。

トレモロの周期と深さを調節するには、**[RATE]** ノブと **[AMOUNT]** ノブを使用します。トレモロ・エフェクトの出力レベルは、**[AMOUNT]** が 0 のときに最大になりますのでご注意ください。

RM(リング・モジュレーション)

[RM] (リング・モジュレーション) は 2 つの入力信号を互いに掛け算するエフェクトで、不協和なベルのような音になります。Nord Stage 3 のリング・モジュレーションでは、インストゥルメントからの信号とエフェクトに内蔵のサイン波を掛け算するようになっています。

[RATE] ノブでサイン波のピッチを、**[AMOUNT]** ノブでリング・モジュレーションの深さをコントロールします。

WA-WA(ワウ)

[WA-WA] (ワウ) はあらゆるサウンド・ソースをアヒルの鳴き声に似た特徴的なサウンドにするエフェクトで、エレクトリック・ピアノやクラビネットに使うと非常に効果的です。このエフェクトはローパス・タイプのフィルターを使ったもので、フィルターのフリケンシーをモジュレートさせていますので、スィープするときにサウンド・キャラクターが大きく変化します。

[RATE] ノブでワウの「ペダル・ポジション」を、**[AMOUNT]** ノブでエフェクト音と原音のバランス (ドライ / ウェット) を調整します。

[RATE] パラメーターをモーフ機能にアサインし、エクスプレッション・ペダルでコントロールすることも可能です。詳しくは 25 ページをご参照ください。

A-WA1&2(オート・ワウ)

[A-WA1]、**[A-WA-2]** (オート・ワウ) はワウ・エフェクトのバリエーションです。オート・ワウは入力信号の音量変化 (エンベロープ・フォロワー) でフィルターのフリケンシーをコントロールする、いわば「ベロシティ・センシティブ」なエフェクトです。**[RATE]** ノブでオート・ワウのレンジを、**[AMOUNT]** ノブでドライ / ウェットのバランスをそれぞれ調整します。

オート・ワウ 2 は 1 と同様の動作ですが、サウンド・キャラクターが異なります。

エフェクト 2

エフェクト 2 には、フェイザーとコーラス各 2 種類、フランジャーとヴァイブ・エフェクト各 1 種類を含むモジュレーション・エフェクトが用意されています。どのエフェクトも **[RATE]** ノブでエフェクトの周期を、**[AMOUNT]** ノブで量を調整します。

PHAS 1&2(フェイザー)

[PHAS] (フェイザー)・エフェクトはいわゆるスィープ・サウンドが特徴的で、エレクトリック・ピアノによく合うエフェクトです。Nord Stage 3 のデジタル・フェイザーは、Bi-Phase や Small Stone といったクラシック・フェイザーをベースにしています。



FLANGE(フランジャー)

[FLANGE] (フランジャー) は強烈なコム・フィルター効果を生み出すエフェクトで、サウンドに反響と「うねり」を加えます。

VIBE(ヴァイブ)

[VIBE] (ヴァイブ)・エフェクトは伝統的なフット・ペダルのエフェクトからヒントを得たもので、ピッチバンドとフェイザーの両方をかけたようなサウンドになります。このエフェクトは、一般的なフェイザーとは異なる方法でフェイズ・フィルターを多段階に配列したものです。

CHOR 1&2(コーラス)

様々な用途に使用できる **[CHOR]** (コーラス)・エフェクトは、モジュレーションをかけたオーディオ信号のコピーを複数ブレンドすることでサウンドに「広がり」を加えます。また、設定値を高くすれば強いデチューンをかけることもできます。コーラスは **[CHOR1]** と **[CHOR2]** の 2 種類あり、2 つ目のエフェクトの方がはっきりとした効果を得られます。

ディレイ

ディレイ は、リピート・エコーを作り出すエフェクトです。ディレイ・タイムは **[TEMPO]** ノブで設定します。

[MST CLK] (マスター・クロック) をオンにすると、テンポはマスター・クロックに設定したテンポの譜割りとして表されます。この機能については、以下をご参照ください。



[FEEDBACK] ノブでディレイを繰り返す量 (タップ) を調整します。最も低い値に設定すると最初のタップだけが聴こえ、高い値に設定するとフィードバック・テイルが非常に長くなります。

[MIX] ノブで原音とディレイ音のバランスを調整します。

ピンポン・モード

[PING PONG] ボタン ([SHIFT] + [TAP TEMPO]) を押すとピンポン・モードがオンになります。このモードでは、ディレイ・リピートを左右のチャンネルに交互に出すことができます。ディレイ・タイムを短くすると、リピートが非対称になり、リバーブ・エフェクトの初期反射音のようなサウンドになります。

タップ・テンポ

[TAP TEMPO] ボタンを使用して曲のテンポに合ったディレイ・タイムを設定することができます。欲しいディレイ・タイムのテンポを **[TAP TEMPO]** ボタンで数

回叩くと、あとは自動的にディレイ・タイムが調整されます。

- ① アナログ・モードがオンになっていても、タップ・テンポ入力中はディレイ音のピッチは変わりません。

フィルター

ディレイの[FILTER]セクションにある各フィルターは、ディレイ・サウンドの形成に役立つ優れたツールであり、特にフィードバック量を高く設定する場合に効果的です。生成されたディレイ・タップにフィルターをかけることで、サウンドにさらなる効果を与えます。

[LP]に設定した場合、すべてのディレイ・タップがローパス・フィルターを通り、ディレイ・フィードバック信号から高周波数部分が減衰されます。

[HP]に設定するとハイパス・フィルターがかかり、低周波数部分がカットされます。この設定は、長いディレイ・テイルの響きをはっきりさせたい場合に便利です。

[BP]設定は、ディレイ信号にバンドパス・フィルターを加えます。この設定では低周波数と高周波数の両方がカットされるため、非常に細かいサウンドになります。

アナログ・モード

ディレイには通常モード（「非アナログ」モード）とアナログ・モードという2種類のモードがあります。アナログ・モードは[ANALOG MODE]ボタン（[SHIFT] + [FILTER]）を押すことでオンにできます。アナログ・モードでは、テンポを変更するとビンテージのアナログ・ディレイのようにディレイ音のピッチが揺れ動きます。さらに、フィードバック・フィルターの設定ごとの効果が「非アナログ」モードの場合とわずかに異なります。また、アナログ・モードではタップごとにディレイ・ラインにわずかなディストーションがかかります。これはフィードバック量を高く設定すると、よりはっきりします。

マスター・クロック

ディレイ・セクションのマスター・クロック機能をオンにするには、[MST CLK]ノブ（[SHIFT] + [TEMPO KNOB]）を回します。この機能をオンにすると、プログラム・セクションのマスター・クロックに設定したテンポにディレイが同期します。このテンポを設定する方法については26ページの手順をご参照ください。

これでディレイのテンポがマスター・クロックのテンポの譜割りとして表されるようになります（範囲は1/2 ~ 1/32音）。通常の譜割り / ディレイ・タップのほかにも、スウィング (S)、三連符 (T)、付点音符 (D) のオプションから選択できます。

アンプ・シミュレーター/EQ

AMP SIM / EQ エフェクト・ユニットは、3バンドEQとアンプ / スピーカー・キャビネット・シミュレーターを組み合わせたエフェクトです。このエフェクトには24dBのレゾナント・ローパス・フィルターおよびハイパス・フィルターも含まれており、すべてのサウンド・エンジンで優れた効果を発揮します。アンプ・モデルまたはフィルターが選択されていない場合、アンプ・シミュレーター/EQセクションはニュートラルなEQおよびチューブ・スタイルのオーバードライブとして使用できます。

DRIVE

[DRIVE]はモーフィング可能なだけでなく、チューブ・スタイルのオーバードライブ・エフェクトとして使用できます。アンプ・モデルが選択されている場合は、そのアンプ・モデルのオーバードライブの量をコントロールします。オーバードライブがかかると[DRIVE] LEDが点灯します。

EQセクション

トレブル、ミッド、ベースの3バンド・イコライザーです。各バンドの周波数は**トレブル**が4kHz、**ミッド**は200Hz ~ 8kHz、**ベース**は100Hzです。モーフィング可能なミッド周波数は[FREQ]ノブを使用して設定できます。ブースト / カット量は±15dBです。

LP 24フィルター

[LP24]フィルターは、オルガン、ピアノ、シンセのどのサウンド・エンジンにも適用できる24dB/octのレゾナント・ローパス・フィルターです。モーフィング可能な[FREQ]ノブを使用してフィルターのカットオフ・フリクエンシーを調節し、[RES]ノブを使用してカットオフ・ポイント周辺のレゾナンスの量を設定します。[DRY WET]コントロールは、フィルター適用前のサウンドと適用後のサウンドのバランスを設定するのに使用します。

HP 24フィルター

[HP24]フィルターは、オルガン、ピアノ、シンセのどのサウンド・エンジンにも適用できる24dB/octのレゾナント・ハイパス・フィルターです。モーフィング可能な[FREQ]ノブを使用してフィルターのカットオフ・フリクエンシーを調節し、[RES]ノブを使用してカットオフ・ポイント周辺のレゾナンスの量を設定します。[DRY WET]コントロールは、フィルター適用前のサウンドと適用後のサウンドのバランスを設定するのに使用します。



アンプ・モデル

アンプ・モデルの選択は、セクター・ボタンで行います。アンプ・モデルには次のタイプがあります：

モデル	内容
JC	Roland Jazz Chorus のキャビネットをチューブ・アンプで駆動したサウンドのシミュレーション
SMALL	Wurlitzer 200A の内蔵スピーカーをチューブ・アンプで駆動したサウンドのシミュレーション
TWIN	Fender Twin のチューブ・アンプとスピーカー・キャビネットのシミュレーション

コンプレッサー

コンプレッサー・エフェクトはサウンドのダイナミック・レンジを低減することで、低いレベルの音を持ち上げ、高いレベルの音を下げます。これにより、タイトで迫力のあるサウンドになり、特にライブでのミックスがしやすくなります。**[ON]** ボタンでコンプレッサーがオンになります。**[AMOUNT]** ノブでコンプレッサーのかかり具合を調整します。



ファスト・モード

[FAST] モード (**[SHIFT]** + **[ON]**) をオンにすると、コンプレッサーをトリガーしたあとの戻りが速くなります。コンプレッサーを高い値に設定するとポンピング効果が生じ、よりはっきりと圧縮されたサウンドになります。

リバーブ

リバーブ は、様々な音響環境で発生する自然な残響音をシミュレートするエフェクトです。このセクションには 6 タイプのリバーブがあり、それぞれ残響の長さや密度が異なります。各タイプを選択すると、そのタイプの LED が点灯します。

ホール・リバーブは大ホールの音響特性をシミュレートしたもので、長い残響音の特徴です。**ステージ**・リバーブはそれよりもやや短めの残響音、**ルーム**・リバーブは短い残響音にアンビエンスをプラスしたものです。

[BRIGHT] スイッチをオンにすると、リバーブ信号の高周波数部分がより多く残ります。

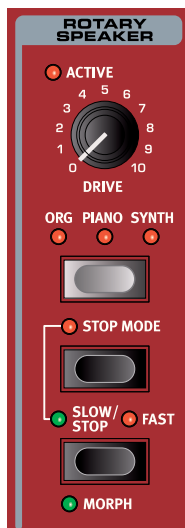
モーフィング可能な **[DRY WET]** コントロールでリバーブ音と原音のバランスを調整します。

- ❶ ロータリー・エフェクトを使用している場合は、リバーブの「コピー」がロータリー・スピーカーにルーティングされ、ロータリー・エフェクトを使用するサウンド・ソースに適用されます。この機能について詳しくは、次のロータリー・スピーカーのセクションをご参照ください。

ロータリー・スピーカー

Nord Stage 3 のロータリー・スピーカーは、回転するローターやホーンはもちろんのこと、オリジナルの内蔵プリアンプの特性も忠実に再現したものです。

- ロータリー・エフェクトは他のエフェクトと同じように、インストゥルメントごとにオン / オフできます。操作は **[SOURCE]** ボタンを押し、**[ORG]/[PIANO]/[SYNTH]** を切り替えます。パネル A とパネル B には異なるソースを選択でき、エフェクトはパネルごとに個別にオンにできます。
- ロータリーのファスト / スロー切り替えは **[SLOW/STOP]** ボタンで行います。
- このエフェクトにはスピード切り替え以外にストップ・モードもあります。ローターの回転を止めるには、**[STOP MODE]** ボタンを押し、次に **[SLOW/STOP]** ボタンを押します。止まっている状態は、エフェクトがオフになっているということではなく、ローターが静止している状態のことです。この状態から **[SLOW/STOP]** ボタンを押すと、回転スピードが徐々に上がりファストになります。これは、ファストとストップ 2 モードだった初期のロータリー・スピーカーの動作を再現したものです。
- ロータリーの回転が切り替わる速度を、サウンド・メニューで設定することができます。詳しくは 53 ページをご参照ください。



- ロータリー・スピードは段階的に切り替える以外に、モーフ機能を使って無段階にコントロールすることができます。このモードでは **[MORPH]** LED が点灯します。これにより、ファストやスロー、ストップ以外のスピードにも設定できます。

[DRIVE] ノブでオーバードライブの量を調整できます。これはオリジナルのロータリー・スピーカーのプリアンプ部で発生するオーバードライブを再現したものです。

サスティン・ペダルまたはフット・スイッチをロータリー・ペダル・インプットに接続すると、ロータリー・スピードをペダルでコントロールできます。Nord Stage 3 Compact モデルでは、別売の Nord Half Moon スイッチを使用して、昔ながらの方法でロータリー・スピードを切り替えることもできます。ロータリー・コントロールについて詳しくは、53 ページをご参照ください。

- ❶ **[DRIVE]** パラメーターは入力するインストゥルメントのレベル設定によって効き具合が大きく変わります。インストゥルメントの音量が非常に小さいと、オリジナルと同様、ドライブできる量も非常に限定的になります。例えばスウェル・ペダルでオルガンの音量を上げると、ロータリー・エフェクトでのオーバードライブ量もその分だけ増えます。

ロータリー・スピーカーとリバーブ

ロータリー・スピーカー・エフェクトがオンになっているパネルでリバーブをオンにすると、ロータリーに送信されるオーディオにそのリバーブが適用されます。つまり、リバーブはロータリー・スピーカーよりも前にロータリー・スピーカーにアサインされたサウンド・エンジンに適用されます。

- ⚠ 両方のパネルでロータリー・スピーカーがオンになっている場合、リバーブのコントロールはパネル A で行います。

ロータリー・メニューの設定

サウンド・メニューには、ロータリー・スピーカーの動作とサウンドを調節するためのパラメーターがいくつか用意されています。詳しくは 53 ページをご参照ください。

10 MIDI

MIDIを使う

Nord Stage 3 の MIDI 機能は、可能な限り自由度を高く設計され、外部音源などのハードウェアやソフトウェアをマスター・キーボードとしてコントロールしたり、シーケンサーなどの外部 MIDI 機器から 2 つの独立したパネルをコントロールすることも可能です。もちろん、その両方を同時に行うこともできます。

Nord Stage 3 の MIDI 機能は、グローバル、パネル、エクスターナルの 3 つに分類でき、それぞれ個別に MIDI チャンネルに割り当てることができます。また、関連するチャンネルをオフにして MIDI 機能を無効にすることもできます。MIDI チャンネルは、MIDI メニューおよびエクスターナル・メニューで設定できます。詳しくは 52 ページをご参照ください。

グローバル、エクスターナルは外部 MIDI 機器に MIDI データを送信する際に使用し、パネルは MIDI データの受信専用を使用します。MIDI 機能に関連するすべてのセッティングは、MIDI メニューで設定できますが、エクスターナルに関する設定はエクスターナル・メニューで行います。

Nord Stage 3	MIDI IN	MIDI OUT
グローバル	✓	✓
パネル A/B	✓	
エクスターナル		✓

グローバル

グローバル MIDI チャンネルを使用すると、MIDI 情報の送受信を同時に行えます。本機の内蔵音源を使用しているのと同様の感覚でキーボード上での演奏やペダル、パネル上の操作を MIDI 信号として送信できます。

Nord Stage 3 のグローバル MIDI チャンネルに入力される MIDI データはすべて、オンになっているプラグラム上のアクティブなサウンド・エンジンに送られます。プログラムにレイヤーやスプリットが含まれている場合も、他の情報と同様に、入力される MIDI に認識されます。

グローバルは、キーボードで生成される MIDI データとパネルで生成される MIDI データの両方を送信します。例えば、シンセ・セクションでノブを回したり、モジュレーション・ホイール、アフタータッチ、接続されたペダルやピッチ・スティックを使用したりすると MIDI データが生成され、グローバル・チャンネルに送信されます。

- ❶ グローバル MIDI は、MIDI メニューでオフにすることができます。オフにすると、本機のグローバル・コンポーネントからの MIDI の送受信がすべてオフになります。

パネル A/B

パネル MIDI チャンネルは MIDI の受信のみを行い、パネル全体およびそのパネルでアクティブになっているサウンド・エンジンを外部デバイスからコントロールします。Nord Stage 3 の MIDI メニューで、パネル A とパネル B を MIDI チャンネルに個別にアサインできます。

エクスターナル・セクション

エクスターナル・セクションは主に、ライブ演奏用に外部の MIDI 機器を組み込むことを目的として設計されています。以下に、設定方法の実例をご紹介します。エクスターナル・セクションを使用した操作について詳しくは、41 ページ以降のエクスターナルのチャプターをご参照ください。

外部機器をエクスターナル・セクションでコントロールする

エクスターナル・セクションは、オルガンやピアノ、シンセといった他のセクションと同様に、A/B2つの音源をコントロールできるセクションです。レイヤーやゾーン、ピッチスティックのオン/オフやサスティンペダルを使用するかどうか等々、すべて他のセクションとまったく同様の手順で設定することができます。

また、プログラム・チェンジやバンク・セレクト、ボリュームといった基本的な設定も、エクスターナル・セクションのスロット A/B に保存することができます。さらに、エクスターナル・セクションには任意の MIDI CC# (コントロール・チェンジ) を送信できるエンコーダーも装備しています。ほとんどの設定は、グローバルに保存することも、プログラムごとに保存することもできます。

- ① 外部サウンドを統合する Nord Stage 3 プログラムを選択します。
- ② エクスターナル A セクションと外部 MIDI 機器を同じチャンネルに設定します。Nord Stage 3 では、**[EXTERN]** ボタン ([SHIFT] + [PROGRAM 4]) を押してエクスターナル・メニューを開いて設定します。
- △ エクスターナル・チャンネルが本機のグローバル MIDI チャンネルと同じになっていないかを確認します。同じ場合は、グローバルのチャンネルを別のチャンネルに変更します。
- ③ エクスターナル・セクションをオンにし、必要なキーボード・ゾーンにエクスターナル・セクションをアサインします。
- ④ エクスターナル A にアサインしたキーボード・ゾーンを演奏すると外部 MIDI 機器が発音します。
- ❶ 外部 MIDI 機器の MIDI チャンネル等の設定につきましては、その機器の取扱説明書をご参照ください。
- ⑤ **[OCT UP]/[OCT DOWN]**、**[SUST PED]**、**[PSTICK]** を必要に応じて設定します。
- ⑥ エクスターナル・セクションのパラメーター・ボタンを、**[PROGRAM]** LED が点灯するまで数回押します。エンコーダーを回して、外部 MIDI 機器で使いたいプログラムを選択します。外部 MIDI 機器の選択にバンク・セレクト・メッセージの送信が必要な場合は、エクスターナル・メニューでそれらのデータを手動で入れる必要があります。
- ⑦ パラメーター・ボタンを **[VOLUME]** LED が点灯するまで数回押し、エンコーダーを回して外部 MIDI 機器のボリュームを調整します。このとき、Nord Stage 3 から MIDI CC#7 (MIDI ボリューム) が送信されます。
- ⑧ これで外部 MIDI 機器をコントロールする設定が完了しました。この設定をプログラムに保存します。

エクスターナル・メニューで「Send On Load」をオンにした場合、このプログラムを選択すると、保存されたすべてのデータ (プログラム・チェンジ、バンク・セレクト、MIDI CC、ボリューム) が本機から外部 MIDI 機器に自動的に送信されます。エクスターナル・メニューでは、必要に応じて、コンティニューアス・コントローラー・メッセージの設定も行えます。手順は、CC ナンバーとその値を設定するだけで完了です。これでその他のデータとともに送信できます。

さらに、モーフ機能を設定すれば、エクスターナル・セクションのエンコーダーをモジュレーション・ホイールやアフタータッチ、コントロール・ペダルからコントロールすることもできます。

また、エクスターナル・セクションは、他のインストゥルメント・セクションと同様に A/B2つのパネルでそれぞれ異なるセッティングをプログラムに保存することができ、さらにそれらを同一のゾーンや別のゾーンに割り当てることもできます。

- ❶ パネル上のトランスポーズ機能を使用すると、エクスターナル・セクションから送信されるノート・データもトランスポーズがかかった状態になります。

外部MIDI機器からNORD STAGE 3をコントロールする

もう 1 台のキーボードや外部 MIDI 機器から本機をコントロールする方法はいくつかあります。まずはじめにデュアル・キーボード機能をご紹介します。

デュアルKB

この機能を使用すると、インストゥルメントのパネル B を外部キーボードで演奏することができます。

- ① **[DUAL KB]** ボタン ([SHIFT] + [PANEL B]) を押してデュアル KB モードをオンにします。
 - ② 外部 MIDI キーボードを Nord Stage 3 の [MIDI IN] ジャックに接続します。
 - ③ 本機の MIDI メニューで、デュアル KB MIDI チャンネルを外部 MIDI キーボードの MIDI チャンネルに合わせます。デフォルト設定の MIDI チャンネルは 16 です。
 - ④ 本機のサウンド・エンジンのパネル B をオンにします（複数のサウンド・エンジンをオンにすることもできます）。
- ❶ デュアル KB 機能のオン / オフはプログラムごとに保存できます。

デュアル KB 機能がオンの場合、どちらのパネルにフォーカスしているかに関係なくパネル A のサウンド・エンジンを本機のキーボードで演奏でき、スロット B は外部キーボードでのみコントロールできます。また、本機で操作するコントローラー（ピッチ・ベンドやペダルなど）の効果は、パネル B のサウンド・エンジンにはかかりません。

△ 本機でパネル・トランスポーズを使用している場合、デュアル KB 機能で受信した MIDI ノート・データもトランスポーズされます。

パネルMIDIコントロール

外部 MIDI 機器から本機をコントロールするもう 1 つの方法は、パネル MIDI 機能を使うことです。これにより、それぞれのパネル（A および B）を異なる MIDI チャンネルでコントロールできます。この機能はデュアル KB 機能と似ていますが、Nord Stage 3 のキーボードから両方のパネルを「ローカル」にコントロールできるという点が異なります。

この機能を設定するには、**[MIDI]** ボタン ([SHIFT] + [PROGRAM 3]) を押して MIDI メニューを開き、パネル A および B に MIDI チャンネルを 1 つずつアサインします。

グローバルMIDI

外部 MIDI 機器から本機をコントロールする第 3 の方法は、グローバル MIDI 機能を使うことです。外部 MIDI 機器から送信される MIDI チャンネルが本機のグローバル MIDI チャンネルと同一の場合、本機のキーボードを演奏するのと同じように外部 MIDI 機器を演奏できます。

- ❶ グローバル MIDI は、MIDI メニューでオフにすることができます。オフにすると、本機のグローバル・コンポーネントからの MIDI の送受信がすべてオフになります。

エクスターナル・シンク

Nord Stage 3 のマスター・クロックは、外部 MIDI クロックとの同期が行えます。マスター・クロックのレイト設定と外部クロックとの同期は、本機の MIDI インプットや USB MIDI のインプットから MIDI クロックを受信すると自動的に行われます。

本機のマスター・クロックが外部 MIDI クロックと同期している場合、**[MST CLK]** ボタンを押すと表示されるマスター・クロック・ページに「external」と表示され、外部 MIDI クロックのテンポが BPM で表示されます。

エクスターナル・セクションとMIDIの再ルーティング

外部 MIDI 機器から Nord Stage 3 に MIDI ノート・データが送信されていて、同時に本機のエクスターナル・セクションがオンになっている場合、本機で受信した MIDI ノート・データは本機の MIDI アウトから、エクスターナル・セクションで設定されている MIDI チャンネルで再び送信されます。この機能を利用して、外部機器からの MIDI データでさらに外部 MIDI 機器をコントロールすることができます。このとき、本機に入力される MIDI ノート・データは、デュアル KB 機能、パネル A またはパネル B の MIDI チャンネル、あるいはグローバル MIDI チャンネルのいずれかと同じになっている必要があります。また、エクスターナル・メニューでソフト・スルー機能をオンにする必要もあります。

本機での演奏をシーケンサーにレコーディングする

キーボードでの演奏はもちろんのこと、ペダルの操作、モーフ機能などを含んだ Nord Stage 3 での演奏を、MIDI シーケンサーにレコーディングする方法をご紹介します。この方法は、グローバル MIDI チャンネルをフル活用できる方法の 1 つと言えます。

- ① MIDI シーケンサーに入力された MIDI 信号を、本機のグローバル MIDI チャンネルとして再ルーティングします。
- ② MIDI メニューに入り、ローカルをオフにします。

- ③ レコーディングで使用したい本機のプログラムを選択します。
- ④ シーケンサーのレコーディングを開始します。

グローバル・チャンネルの MIDI アウトでは、本機のスプリットの状態は反映されず、単に本機のキーボードからの MIDI ノート・ナンバーを送信します。

- ❶ パネル上のトランスポーズ機能またはシステム・メニューの「Global Transpose」設定でトランスポーズ値が設定されている場合、MIDI への効果は MIDI メニューの「Transpose MIDI at」の設定によって異なります。この機能については 54 ページで詳しく説明します。

プログラム・チェンジ

MIDI メニューでプログラム・チェンジの設定が「Receive」または「Send/Receive」になっている場合、プログラム・チェンジ・メッセージをグローバル MIDI チャンネルで受信すると、本機のプログラムがプログラム・チェンジ・メッセージに従って切り替わります。MIDI メニューでのプログラム・チェンジの設定は、本機でのプログラム切り替えを MIDI 信号として送信する場合にも使用します。

- ❶ 外部 MIDI 機器にプログラム・チェンジ・メッセージを送信したい場合は、エクスターナル・セクションを使用すると便利です。

各種MIDIメッセージ

Nord Stage 3 では、次の MIDI メッセージを送受信できます：

ノート・オン/オフ

- ノート・オンおよびノート・オフ・メッセージの送受信

ピッチ・ベンド

- ピッチ・ベンド・メッセージの送受信

コントローラー

コントロール・チェンジ・メッセージの送受信設定は、MIDI メニューで行います（54 ページをご参照ください）。

- コントロール / エクスプレッション・ペダルをオルガン・スウェル・インプットに接続している場合、コントローラー 4（CC4:フット・コントローラー）の送受信を行います。
- コントロール / エクスプレッション・ペダルをコントロール・ペダル・インプットに接続している場合、コントローラー 11（CC11:エクスプレッション）の送受信を行います。
- サスティン・ペダルをサスティン・ペダル・インプットに接続している場合、コントローラー 64（CC64:サスティン・ペダル）の送受信を行います。
- 本機のフロント・パネル上にあるほとんどのノブやボタンもコントロール・チェンジ・メッセージの送受信を行え、パネル上の操作をシーケンサーにレコーディングすることができます。すべてのパラメーターとコントロール・ナンバーの対応を一覧にした表は、58 ページをご参照ください。

キーボード・ベロシティ

Nord Stage 3 はキーボード・ベロシティ・メッセージの送受信が行えます。ただし、オルガン・サウンドは、入力したベロシティ・データに関係なく一定のレベルで発音します。また、本機からはリリース・ベロシティの送信が可能ですが、受信はできません。

アフタータッチ

Nord Stage 3 のキーボードからアフタータッチ・メッセージ（チャンネル・プレッシャーとも呼ばれています）を送信します。アフタータッチは、鍵盤を弾いたときにさらに鍵盤を深く押し込んだときに送信される信号で、パラメーターのコントロールなどに使用します。

プログラム・チェンジ

MIDI メニューで、プログラム・チェンジ・メッセージのグローバル・チャンネルでの送受信設定を行えます。プログラム・チェンジ・メッセージの 0 ~ 49 は本機を選択されているバンクのプログラムに対応し、50 ~ 54 は 5 つのライブ・メモリーに対応しています。

バンク・セレクト

Nord Stage 3 の 8 つのプログラム・バンクは外部からのバンク・セレクト・メッセージで切り替えることができます。データはこのようになります：CC0, value 0, CC32, value 0-7（バンク 1 ~ 8 に対応）。バンク・セレクト・メッセージの直後には必ずプログラム・チェンジ・メッセージ（0 ~ 49）が入る必要があります。

ローカル・オン/オフ

ローカル・オフは Nord Stage 3 のキーボードと音源部を切り離すときに使用します。シーケンサーなどに本機を MIDI 接続したときに、音が二重に発音してしまうような場合は、MIDI がループしてしまっている状態ですのでローカルをオフにします。この設定は MIDI メニューで行います（54 ページをご参照ください）。

パニック



MIDI のセッティングを行っているときに本機の音が止まらなくなってしまった場合、または何らかの理由ですべてのサウンドを止める必要がある場合には、**[PANIC]** 機能（[SHIFT] + [TRANSCOPE]）を使用します。これは、内部的に「オール・ノート・オフ」メッセージを発生させ、そのとき入力されているコントロール・チェンジ・メッセージをリセットする機能です。

11 メニュー

システム、サウンド、MIDI、エクスターナルの各メニューで行った設定はその場で有効になり、次に変更するまで維持されます。

- ❶ 例外として、MIDI ローカル・オン / オフ設定だけは Nord Stage 3 を起動するたびにローカル・オンの状態に戻ります。

ほとんどの設定は、現在ロードされているプログラムに関係なく適用されるグローバル設定です。また、アウトプット・ルーティングのようにプログラムごとに適用するかグローバルに適用するかを選択できるものや、エクスターナル・セクションのほとんどの設定のように必ずプログラムごとに保存されるものもあります。

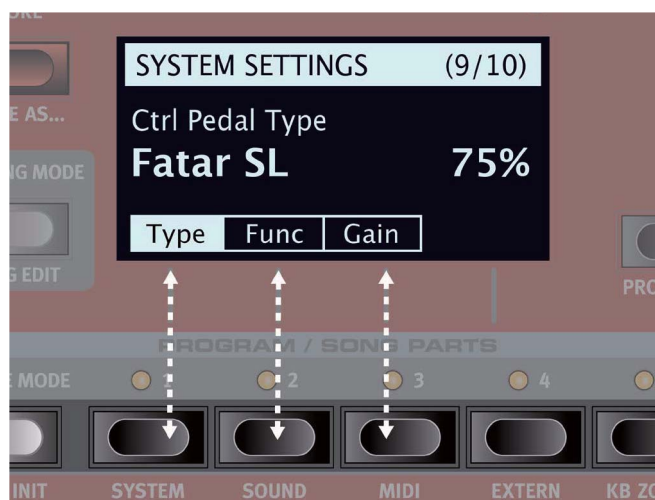
- 🔍 グローバルにもプログラムごとにも適用できる設定の場合、プログラムごとに保存された値は、グローバル・モードとの切り替えを行っても保持されます。

各メニューを開くには、**[SYSTEM]**、**[SOUND]**、**[MIDI]**、または**[EXTERN]** ボタン ([SHIFT] + [PROGRAM] ボタンの [1] ~ [4]) を押します。メニューの切り替えは **[PAGE ◀]**、**[PAGE ▶]** ボタンで行い、設定を変更するには **[PROGRAM]** ダイアルを回します。

メニューを終了するには **[EXIT]** ([SHIFT]) ボタンを押します。

ディスプレイ上のボタン

1 つのメニュー・ページには関連する複数の設定が含まれていることがあります。この場合、ディスプレイ上の下部にボタンが表示されるので、[PROGRAM] ボタンの [1] ~ [4] を使用して各設定を選択できます。



ディスプレイ上のメニューボタンは [PROGRAM] ボタンの [1] ~ [4] に対応します。ディスプレイに表示されるメニュー・ページには、ボタンが 3 つあります。

システム・メニュー

[SYSTEM] ボタン ([SHIFT] + [PROGRAM 1]) を押すとシステム・メニューに入ります。**[PAGE ◀]**、**[PAGE ▶]** ボタンで、システム・メニュー上の様々なメニュー項目を選択できます。設定の変更は **[PROGRAM]** ダイアルで行い、パネル A とパネル B の切り替えにはパネル上のボタンを使用します。その他の設定がある場合にはディスプレイ上のボタンを使用して表示できます (前述の説明を参照)。設定が終了したら、**[EXIT]** ([SHIFT]) ボタンを押してメニューを終了します。

1 - MEMORY PROTECT

プログラムやシンセ・プリセットが誤って上書きされないように、Nord Stage 3 の出荷時にはメモリー・プロテクトがオンに設定されています。メモリー・プロテクトをオフに設定すると、すべての保存操作が可能になります。メニュー設定と 5 つのライブ・プログラムはこの設定の影響を受けません。

レンジ: On (デフォルト値)、Off

2 - GLOBAL TRANSPOSE

この設定では Nord Stage 3 全体のトランスポーズを半音単位でセットします。ここで設定した値は、プログラムごとに設定、保存できるパネル上で設定したトランスポーズ値に加算されます。

レンジ: ± 6 半音 (デフォルト値 = 「none」)

3 - FINE TUNE

Nord Stage 3 のピッチを細かい精度でチューニングします。

レンジ: ± 50 セント (デフォルト値 = 0)

4 - SEAMLESS PROG CHANGE

プログラムを切り替えたときにサウンドをシームレスに移行するかどうかを設定します。「On」に設定すると、プログラムを切り替えたときにサステイン・ノートとエフェクト・テイルが常に保持されます。「Off」に設定すると、プログラムを切り替えたときに鳴っている音はすべて停止します。

レンジ: Off、On (デフォルト値)

5 - OUTPUT ROUTING MODE

Nord Stage 3 の出力先は、本機全体としてのグローバル設定、またはプログラムごとの設定の 2 通りで設定できます。プログラムでのアウトプットの選択は、個々のプログラム・パラメーターとして保存されます。このパラメーターで「Global」を選択した場合、本機のオーディオ信号の出力先は、個々のプログラムでの設定値よりも優先してすべてのプログラムで同じ設定になります。

レンジ: Global (デフォルト値)、Program

6 - OUTPUT PANEL A/B

各パネルに使用する出力先 (ステレオ・ペアまたはモノ・アウト) を設定します。Output Routing が「Program」に設定されている場合、これらの設定はプログラムごとに保存されます。

レンジ: 「Stereo 1 & 2」 (デフォルト値)、「Stereo 3 & 4」、「Mono 3」、「Mono 4」

7 - SUSTAIN PEDAL

TYPE

[SUSTAIN PEDAL] ジャックに接続されたペダルの種類を選択します。サステイン・ペダルには極性があり、ペダルと本機の極性が合っていないとペダルを踏んでいないときにサステインがかかってしまい、踏んだときにサステインが止まります。このような場合、このパラメーターで極性を反転させます。「Auto」の場合は、本機がペダルの極性を自動的に検出します。

レンジ: Open, Closed, Triple (Nord Triple Pedal), Auto (デフォルト値)

FUNC(機能)

[SUSTAIN PEDAL] インプットに接続したペダルでサステイン・ペダルとローター・スピード・ペダルの両方の機能を使用したい場合、このオプションを使用し、サステインのみ、サステインとローター・ホールド (ペダルを踏んだときにのみファストになる)、サステインとローター・トグル (ペダルを踏んだときにファストとスローを切り替える) のいずれかを選べます。

レンジ: Sustain (デフォルト値), Sus+Rotor Hold, Sus+Rotor Toggle

8 - ROTER PEDAL

TYPE

[ROTOR PEDAL] インプットに接続したペダルの極性が本機と合っていない場合に、このパラメーターで極性を反転させます。Nord Stage 3 Compact モデルでは、「Half Moon Switch」に設定することもできます。「Auto」の場合は、本機がペダルの極性を自動的に検出します。

レンジ: Open, Closed, Half Moon Switch (Compact モデルのみ), Auto (デフォルト値)

FUNC(機能)

Nord Stage 3 の **[ROTOR PEDAL]** インプットに接続したスイッチ・ペダルの機能を変更できます。ローター・ホールドは、ペダルを踏んでいる間だけファストになり、ペダルから足を離すとスローになる設定で、ローター・トグルは、オン/オフ・スイッチ・ペダルと同様に、ペダルを踏んだ都度ファストとスローを切り替える設定です。

レンジ: Rotor Hold (デフォルト値), Rotor Toggle

9 - PROG PEDAL

TYPE

[PROG PEDAL] ジャックに接続された 2 ボタンのモーメンタリー・ペダルの極性を設定します。2 ボタン・ペダルは、ボタンを押すことでプログラム・バンク内の次のプログラム (アップまたはダウン) に切り替えることができます。ペダルのボタンの機能を反転する (「アップ」ボタンを「ダウン」に、「ダウン」ボタンを「アップ」にする) 必要がある場合には、この設定が役立ちます。

レンジ: Open, Closed, Auto (デフォルト値)

10 - CTRL PEDAL

TYPE

Nord Stage 3 は多くのブランドのコントロール・ペダルを **[CONTROL PEDAL]** インプットに接続できます。コントロール・ペダルを使用する際、このパラメーターで主な各ペダルの特性に合わせます。

※ お使いのペダルがこのパラメーターのプリセットにない場合、このパラメーターを設定中に、コントロール・ペダルを操作すると、ディスプレイにペダルのレンジが 0 から 100 のパーセンテージで表示され、最適なセッティングを見つけ出すのに有効です。

レンジ: Roland EV7 (デフォルト値)、Yamaha FC7、Korg、Fatar (& Studiologic)

FUNC(機能)

[CONTROL PEDAL] インプットに接続したペダルの機能を次の 2 タイプから選択できます: Control (モーフ機能のペダルとして使用)、Ctrl + Swell (モーフ機能とオルガン・スウェルとして使用)。

レンジ: Control (デフォルト値)、Ctrl + Swell

GAIN

[CONTROL PEDAL] インプットに接続したペダルを完全に踏み込んだ状態でも、コントロールするパラメーターの最大値や最大設定に達しない場合、この設定でペダルからの出力をアップさせることができます。

レンジ: 1 ~ 10

11 - SWELL PEDAL

TYPE

[ORGAN SWELL] ジャックに接続されたスウェル・ペダルの設定を行います。詳細は前述の「Ctrl Pedal」の「Type」をご覧ください。

レンジ: Roland EV7 (デフォルト値)、Yamaha FC7、Korg、Fatar (& Studiologic)

FUNC(機能)

スウェル・ペダルの機能を設定します「Swell」の場合、オルガンのスウェル・ペダルとして機能し、「Volume」に設定すると、本機のすべてのサウンド・エンジンのポリウム・コントロールとして機能します。

レンジ: Swell (デフォルト値)、Volume

GAIN

[ORGAN SWELL] インプットに接続したペダルを完全に踏み込んだ状態でも、コントロールするパラメーターの最大値や最大設定に達しない場合、この設定でペダルからの出力をアップさせることができます。

レンジ: 1 ~ 10

サウンドメニュー

[SOUND] ボタン ([SHIFT] + [PROGRAM 2]) を押して、サウンドメニューに入ります。**[PAGE ◀]**、**[PAGE ▶]** ボタンで、サウンドメニュー上の様々なメニュー項目を選択できます。設定の変更は **[PROGRAM]** ダイアルで行います。その他の設定がある場合にはディスプレイ上のボタンを操作して設定を表示できます (前述の説明を参照)。**[EXIT]** ([SHIFT]) ボタンを押してメニューを終了します。

1 - PIANO PEDAL NOISE LEVEL

Nord Triple Pedal を使用し、ペダル・ノイズ機能をオンにした場合の、ピアノのペダル・ノイズのレベルを設定します。

レンジ: ± 6dB (デフォルト値 = 0dB)

2 - PIANO STRING RES LEVEL

ストリング・レゾナンス機能をオンにした場合の、ストリング・レゾナンスのレベルを設定します (アコースティック・ピアノ・モデルのミディアム、ラージ、エクストラ・ラージ・サイズでのみ使用可能)。

レンジ: ± 6dB (デフォルト値 = 0dB)

3 - B3 ORGAN TONEWHEEL MODE

B3 オルガン・モデルのトーンホイール・クロストークやケーブル・リーケージのレベルを設定します。

レンジ: Clean、Vintage1 (デフォルト値)、Vintage2

4 - B3 ORGAN CLICK LEVEL

B3 オルガン・モデルのキー・クリックのレベルを設定します。

レンジ: Low、Normal (デフォルト値)、High

5 - B3 ORGAN KEYBOARD TRIGGER POINT

B3 サウンドのキーボード・トリガー設定を行います。「High」に設定されている場合、鍵盤を完全に押し込む前にサウンドがトリガーされ、実際の B3 の動作により近くなります。

レンジ: High、Low (デフォルト値)

6 - SYNTH VIBRATO

RATE

シンセ・ビブラートの周期 (スピード) を設定します。

レンジ: 4.00 ~ 8.00Hz (デフォルト値 = 6.00Hz)

AMNT(アマウント)

シンセ・セクションでディレイ・ビブラートがオンになっているときのディレイの長さを設定します。

レンジ: 0 ~ 50 cent (デフォルト値 = 25 cent)

7 - ROTARY ROTOR

SPEED

ロータリー・スピーカーのベース・ローターの回転スピードを設定します。

レンジ: Low、Normal (デフォルト値)、High

ACCEL(アクセラレーション)

ロータリー・スピーカーのスピードを切り替えたときに、ベース・ローターの回転スピードが徐々に変化する速さを設定します。

レンジ: Low、Normal (デフォルト値)、High

8 - ROTARY HORN

SPEED

ロータリー・スピーカーのトレブル・ホーンの回転スピードを設定します。

レンジ: Low、Normal (デフォルト値)、High

ACCEL(アクセラレーション)

ロータリー・スピーカーのスピードを切り替えたときに、トレブル・ホーンの回転スピードが徐々に変化する速さを設定します。

レンジ: Low、Normal (デフォルト値)、High

MIDIメニュー

[MIDI]ボタン([SHIFT] + [PROGRAM 3])を押して、MIDIメニューに入ります。[PAGE ◀]、[PAGE ▶]ボタンで、MIDIメニュー上の様々なメニュー項目を選択できます。設定の変更は[PROGRAM]ダイヤルで行い、パネルAとパネルBの切り替えにはパネル上のボタンを使用します。その他の設定がある場合にはディスプレイ上のボタンを使用して表示できます。設定が終了したら、[EXIT]([SHIFT])ボタンを押してメニューを終了します。

1 - LOCAL CONTROL

Nord Stage 3の鍵盤とフロント・パネルで内部音源とプログラムを制御するか、またはMIDI信号のみを送信するか(ローカル・コントロール)の設定をします。ローカル・オンが通常のモードで、ローカル・オフの場合は、フロント・パネルとキーボードはMIDI信号のみを送信します。

レンジ: On (デフォルト値)、Off

- ❶ このパラメーターの設定は本機の電源投入時に必ず「On」になります。

2 - CHANNEL

GLOBAL

グローバル・チャンネルの送受信 MIDI チャンネルをこのパラメーターで設定します。グローバル・チャンネルは、すべてのキーボード、ペダル、パネル上の操作を MIDI 信号として送信するチャンネルです。また、本機全体を MIDI でコントロールするときもこのチャンネルを使用します。

レンジ: 1 ~ 16、Off (デフォルト値 = 1)

PANEL A/B

パネル A/B の MIDI 受信チャンネルを設定します。

レンジ: 1 ~ 16、Off (デフォルト値、パネル A/B)

DUAL KB

デュアルKBモードをオンにした場合の外部MIDIキーボードのMIDIチャンネルを設定します。詳しくは29ページをご参照ください。

レンジ: 1 ~ 16、Off (デフォルト値 = 16)

3 - CONTROL/PROGRAM CHANGE MODE

CC(コントロール・チェンジ)

MIDIコントローラー・メッセージを、グローバル・チャンネルで送受信するかどうかの設定を行います。

レンジ: Off、Send、Receive、Send & Receive (デフォルト値)

PC(プログラム・チェンジ)

MIDI プログラム・チェンジ・メッセージを、グローバル・チャンネルで送信 / 受信するかどうかの設定を行います。

- ❶ ここでの設定は本機のプログラムのみに対する設定で、エクスターナル・セクションの設定ではありません。

レンジ: Off、Send、Receive、Send & Receive (デフォルト値)

4 - TRANSPOSE MIDI AT

「In」に設定すると、アクティブなトランスポーズ値(グローバル/プログラムごとの設定)が受信されるMIDIデータにのみ適用され、送信されるMIDIストリームには適用されません。「Out」に設定すると、アクティブなトランスポーズ値が送信されるMIDIノートにのみ適用され、受信するMIDIノートには影響しません。

レンジ: In (デフォルト値)、Out

エクスターナル・メニュー

[EXTERNAL]ボタン([SHIFT] + [PROGRAM 4])を押すとエクスターナル・メニューに入ります。ここではエクスターナル・セクションに関連する設定と機能が表示されます。[PAGE ◀]、[PAGE ▶]ボタンでメニュー・ページを切り替え、ディスプレイ上のボタンでページ内の別の設定を表示できます。設定の変更は[PROGRAM]ダイアルで行います。設定が終了したら、[EXIT]([SHIFT])ボタンを押してメニューを終了します。

- ① エクスターナル・メニューのほとんどのパラメーターはパネルごとに設定できます。
- ② エクスターナル・メニューのほとんどのパラメーター・セッティングはプログラムごとに保存されます。例外は「Extern MIDI A/B Channel」が「Global」に設定された場合のみです。

1 - MIDI CHANNEL MODE

エクスターナル・セクションのMIDIチャンネルは、グローバルまたはプログラムごとに設定できます。「Global」を選択した場合は、エクスターナル・セクションのMIDIチャンネルA/Bはすべてのプログラムで同じ設定になります。「Program」を選択した場合は、エクスターナル・セクションのMIDIチャンネルA/Bはプログラムごとに保存されます。

レンジ: Global、Program (デフォルト値)

2 - MIDI PANEL A/B CHANNEL (PROG/GLOB)

エクスターナル・セクションの各パネルから送信するMIDIチャンネルを設定します。この設定には、エクスターナル・メニューのページ1でどちらが選択されているかによって、Prog (プログラム) または Glob (グローバル) のいずれかが表示されます。

レンジ: 1 ~ 16 (デフォルト値: 14 (パネルA)、15 (パネルB))

3 - KEYB VELOCITY PANEL A/B

各パネルのエクスターナルMIDIチャンネルにデータを送信する際のキーボードのペロシティカーブを設定します。「Soft」に設定すると鍵盤を強く弾かなくても高いペロシティ値が生成されますが、「Hard」に設定した場合は鍵盤を強く弾く必要があります。

レンジ: Soft、Mid (デフォルト値)、Hard

4 - DEVICE MIDI PANEL A/B

モジュレーション・ホイール、コントロール(エクスペッション)ペダル、アフタータッチ、スウェル・ペダルによって生成されたデータを送信するかどうかを、パネルごとに設定できます。MIDIデータを生成する必要がない場合は、それぞれの設定を「Off」にします。

Wheel、A.T、Expr、Swellのレンジ: On (デフォルト値)、Off

5 - SEND ON LOAD

本機でプログラムを切り替えたときに、エクスターナル・セクションのプログラム・チェンジ (PC)、ボリューム (Vol)、ユーザー定義のMIDI CC (UsrCC) メッセージも自動的に送信するかどうかを選択します。

PC、Vol、UsrCCのレンジ: Off (デフォルト)、On

6 - PROGRAM CHANGE SETTINGS PANEL A/B

「完全な」プログラム・チェンジ・メッセージは、バンク・セレクトMSB値、バンク・セレクトLSB値、およびプログラム・チェンジ値という3つの部分で構成されています。

- ③ Nord Stage 3 では、プログラム・チェンジの「Send On Load」設定が「On」になっている場合、プログラムをロードするとプログラム・チェンジ・メッセージが自動的に送信されます。

BANK MSB

多くの内部バンクを含むユニットを扱う場合、バンク・セレクトMSB (「Most Significant Byte (最上位バイト)») コントロール・チェンジ・メッセージの設定が必要になることがあります。MIDI規格ではこのコントロール・チェンジ・メッセージはCC# 0となり、合計128個のバンク値に対して1バイトのデータを使用します。

レンジ: 0 ~ 127、Off (デフォルト値 = Off)

BANK LSB

バンク・セレクトLSB (「Least Significant Byte (最下位バイト)») コントロール・チェンジ・メッセージ (CC# 32) は、1バイトのデータで合計128個のバンクに対応します。

レンジ: 0 ~ 127、Off (デフォルト値 = Off)

PROGRAM NUMBER

実際のプログラム・チェンジ・メッセージは、合計128個のプログラム値に対して1バイトのデータで構成されています。

レンジ: 0 ~ 127、Off (デフォルト値 = Off)

7 - CONTROL CHANGE SETTINGS A/B

CTRL (コントロール)

コントロール・チェンジ・ナンバーは、使用する外部MIDI機器のパラメーターに応じて設定する必要があります。どのCCナンバーがどのパラメーターに対応するかについては、外部MIDI機器のマニュアルをご参照ください。

レンジ: 0 ~ 119、Off (デフォルト値 = Off)

VALUE

この値は、CCセンド・オン・ロード機能を使用する際に送信する初期値に従って設定します。

レンジ: 0 ~ 127、Off (デフォルト値 = Off)

8 - VOLUME VALUE A/B

エクスターナル・セクションはMIDIボリューム(CC#7)メッセージを送信でき、外部MIDI機器のレベルをコントロールできます。ここで設定する値によって、ボリューム・センド・オン・ロード機能を使用する際に送信される初期値が決まります。

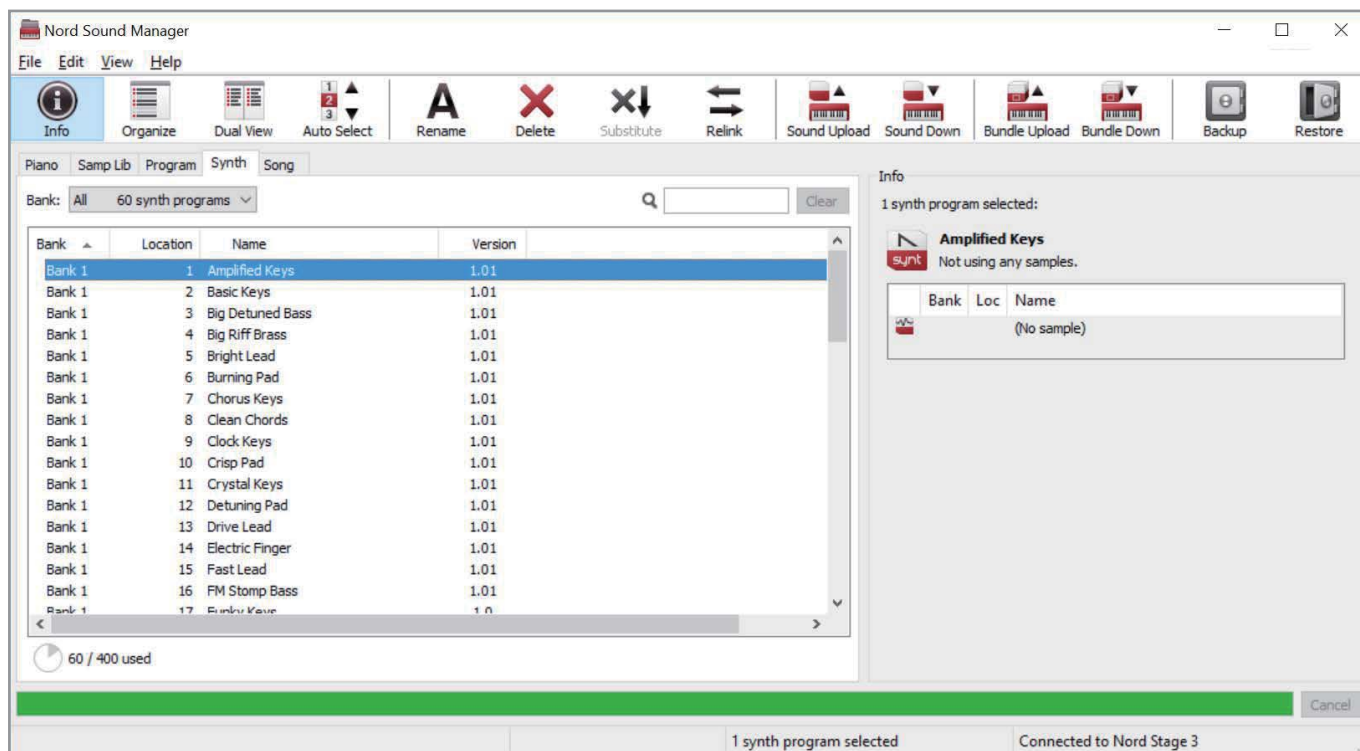
レンジ: 0 ~ 127 (デフォルト値 = 0)

9 - GLOBAL SOFT THRU

エクスターナル・セクションがオンになっているプログラムを使用しているときに、グローバルMIDIチャンネルまたはパネルA/Bチャンネルと一致したMIDI信号を受信した場合、同じMIDI信号をエクスターナル・チャンネルとして送信するかどうかを設定します。つまり、MIDI信号の再ルーティングのオン/オフを決める設定となります。

レンジ: Off (デフォルト値)、On

12 NORD SOUND MANAGER



NORD SOUND MANAGERについて

Nord Sound ManagerはNord Stage 3ユーザーにとって非常に重要なアプリケーションです。Nord Sound Managerを使用することで、Nord Stage 3の様々なメモリー・エリア内のコンテンツにアクセスし、変更やバックアップなどを実行できます。Nord Sound Managerでは主に次のようなタスクを実行します:

- プログラム、シンセ・プリセット、ソングに名前を付ける/並べ替える
- ピアノ・パーティションに新しいピアノ・サウンドをダウンロードする
- サンプル・パーティションに新しいサンプルをダウンロードする
- Nord Stage 3からコンピュータにプログラムをアップロードする
- プログラムおよび関連付けられたピアノ・ファイルとサンプル・ファイルを含むバンドルをアップロードする
- インストールメント全体のバックアップを実行する
- インストールメント全体を以前の状態に戻す

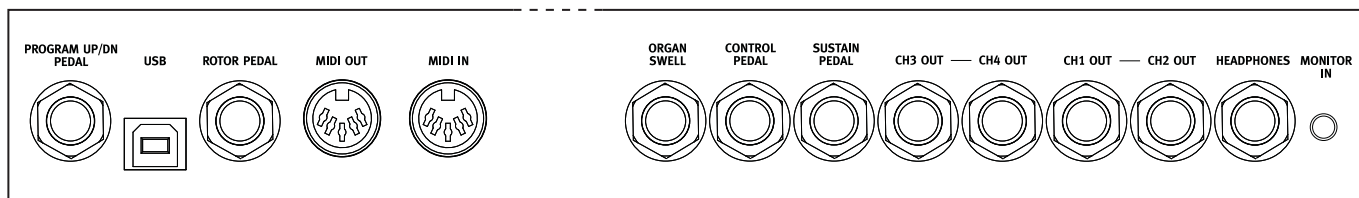
Nord Sound Managerおよびこのアプリケーションのユーザー・マニュアルは、Nordウェブサイト (www.nordkeyboards.com) の「Software」ページからダウンロードできます。

動作環境

Mac OS X 10.6以降
Windows XP、Windows Vista、Windows 7、Windows 8、Windows 10。

Windowsでご利用の場合は、Nord USB Driver version v3.0以降をインストールする必要があります。

付録:接続について



オーディオの接続

オーディオ接続について:すべての接続が済んでからアンプの電源を入れてください。アンプの電源は必ず最後に入れ、電源を切るときは必ず最初にアンプまたはアクティブなスピーカーの電源を切ってください。

△ Nord Stage 3を大音量で使用すると、聴覚を損なう恐れがあります。

HEADPHONES

1/4インチのステレオヘッドフォンジャックです。アウトプットルーティングの設定に関係なく、オーディオは常にヘッドフォンアウトプットから出力されます。

CH 1&2, CH 3&4 OUT

アンプやレコーディング機器に使用する1/4インチのアンバランスラインレベル出力です。Nord Stage 3は、左右のオーディオチャンネルに個別の信号経路を持つステレオ・インストゥルメントです。

出荷時には、CH 1およびCH 2アウトプットからオーディオを出力するように構成されています。ステレオ構成またはモノラル構成でCH 3およびCH 4アウトプットを使用する方法については、52ページのシステムメニューのセクションをご参照ください。

MONITOR IN

スマートフォン、タブレット、コンピュータなどのデバイスをNord Stage 3に接続するための1/8インチジャックです。事前に録音した音楽やメトロノームに合わせて演奏やリハーサルを行ったり、ステージ上で追加のサウンドソースを使用したりする場合に便利です。モニターインで入力された信号は、ヘッドフォンアウトプットとCH 1およびCH 2アウトプットにルーティングされます。

△ Nord Stage 3のマスターレベルコントロールは、モニターイン信号のレベルには影響しません。

MIDIの接続

MIDI IN

コントローラーキーボード、シーケンサー、コンピュータなどの外部MIDI機器から送信されたMIDIデータを受信するための5ピンMIDIイン接続です。

MIDI OUT

外部のMIDI音源モジュールやコンピュータなどのデバイスにMIDIデータを送信する5ピンMIDIアウト接続です。

USB接続

USBポートはNord Stage 3をコンピュータに接続する際に使用します。MIDI送信やOSアップデートのほか、Nord Sound ManagerやNord Sample Editorといったアプリケーションの接続に使用できます。これらのアプリケーションと最新のOSは、Nordウェブサイト(www.nordkeyboards.com)からいつでもダウンロードできます。

❶ USB MIDI と標準の5ピンMIDIコネクタは同時に使用できません。メニューなどでどちらかを選択する必要はありません。

ペダル接続

SUSTAIN PEDAL

Nord Triple Pedalを含め、一般的なあらゆるタイプのサスティンペダルを接続するための1/4インチコネクタです。サスティンペダルの極性は自動的に検出することも、システムメニューで手動で設定することもできます(52ページを参照)。

☞ Nord Triple Pedalの機能については、23ページをご参照ください。

CONTROL PEDAL

モーフ機能やボリュームのコントロールに使用するコンティニューアスタタイプのエクスプレッションペダルを接続するための1/4インチコネクタです。一般的なエクスプレッションペダルのほとんどのメーカーとモデルに対応しています。使用するエクスプレッションペダルはシステムメニューで選択できます。

ORGAN SWELL

オルガンセクションでスウェルペダルとして使用するコンティニューアスタタイプのエクスプレッションペダルを接続するための1/4インチコネクタです。一般的なエクスプレッションペダルのほとんどのメーカーとモデルに対応しています。使用するエクスプレッションペダルはシステムメニューで選択できます。

PROGRAM UP/DN PEDAL

プログラムの切り替え(アップ/ダウン)やソングパートの切り替え(ソングモードの場合)に使用する2ボタンのモーメンタリーペダルを接続するための1/4インチコネクタです。ペダルの極性はシステムメニューで設定できます。

付録:MIDIコントローラー・リスト

Nord Stage 3 パラメーター	MIDI CC ナンバー
Bank Select MSB	0
Bank Select LSB	32
Sustain	64
Sostenuto	66
Soft Pedal	67
Ctrl Pedal (Expression)	11
Live Mode	2
Song Mode	3
Song Part	5
Panel Enable	6
Panel Focus	8
Organ Enable	9
Organ Octave Shift	12
Organ Level	13
Organ Model	14
Organ Preset	15
Organ Drawbar 1	16
Organ Drawbar 2	17
Organ Drawbar 3	18
Organ Drawbar 4	19
Organ Drawbar 5	20
Organ Drawbar 6	21
Organ Drawbar 7	22
Organ Drawbar 8	23
Organ Drawbar 9	24
Organ Percussion Enable	25
Organ Vibrato Type	26
Organ Vibrato Enable	27
Organ Percussion Harmonic	28
Organ Percussion Speed	29
Organ Percussion Level	30
Piano Enable	33
Piano Level	34
Piano Octave Shift	35
Piano Type	36
Piano Model	37
Piano Variation	38

Nord Stage 3 パラメーター	MIDI CC ナンバー
Piano Layer Detune	39
Piano EQ	40
Synth Enable	42
Synth Level	43
Synth Octave Shift	44
Synth Osc Config	45
Synth Osc Bank	46
Synth OscWave	47
Synth Glide Rate	48
Synth Voice Mode	49
Synth Unison	50
Synth Vibrato Mode	51
Synth Mod Envelope Attack	52
Synth Mod Envelope Decay	53
Synth Mod Envelope Velocity	54
Synth Osc Pitch	55
Synth Osc Ctrl	56
Synth Mod Envelope Release	57
Synth Osc Modulation	58
Synth Filter Freq	59
Synth Filter Resonance	60
Synth Filter Drive	61
Synth Filter LFO Amount	62
Synth Filter KBD Track	63
Synth Filter Type	65
Synth Amp Envelope Attack	68
Synth Amp Envelope Decay	69
Synth Amp Envelope Release	71
Synth Amp Envelope Velocity	72
Synth Filter Modulation	73
Synth Arpeggiator Rate	74
Synth Arpeggiator Pattern	75
Synth Arpeggiator Range	76
Synth Arpeggiator Run	77

Nord Stage 3 パラメーター	MIDI CC ナンバー
Synth Keyboard Hold	78
Synth LFO Rate	79
Synth LFO Wave	80
Effect 1 Enable	82
Effect 1 Type	83
Effect 1 Source	84
Effect 1 Amount	85
Effect 1 Rate	86
Effect 2 Type	87
Effect 2 Source	88
Effect 2 Amount	89
Effect 2 Rate	90
Effect 2 Enable	91
Delay Source	92
Delay Amount	93
Delay Rate	94
Delay Feedback	95
Delay Mode	96
Delay Enable	97
Delay Ping-pong	98
Delay Filter Type	99
Amp/EQ Type	100
Amp/EQ Drive	101
Amp/EQ Bass	102
Amp/EQ Mid	103
Amp/EQ Treble	104
Amp/EQ Enable	105
Amp/EQ Source	106
Amp/EQ Mid Frequency	107
Rotary Speed	108
Rotary Source	109
Rotary Drive	110
Rotary Enable	111
Reverb Bright	112
Reverb Amount	113
Reverb Type	115
Reverb Enable	116
Compressor Amount	117
Compressor Enable	118
Compressor Mode	119

付録:索引

記号・英数字

[PROGRAM]ダイアル 30
 Acc (Rotary Horn) 54
 Acc (Rotary Rotor) 54
 Amnt (Synth Vibrato) 54
 A-Pan (オート・パン) 43
 Arp Run 40
 A Touch (アフタータッチ) 25
 A-Wah1&2 (オート・ワウ) 44
 B3 18
 B3 Organ Key Click Level 54
 B3 Organ Tonewheel Mode 53
 Bank LSB (エクスターナル) 55
 Bank MSB (エクスターナル) 55
 BP (バンドパス) 36
 CC (MIDIメニュー) 54
 CH 1&2 OUT 57
 CH 3&4 OUT 57
 CHOR 1&2 (コーラス) 44
 Classic (シンセ) 32
 Clav EQ (クラビネットEQ) 24
 Clav/Hps 22
 Control Change Settings A/B (エクスターナル) 55
 Control/Program Change Mode 54
 Ctrlped 25
 Ctrl Pedal 53
 Ctrl (エクスターナル) 55
 Device Filter A/B (エクスターナル) 55
 DRIVE 45
 EQ (エフェクト) 45
 ESaw 32
 ESquare 33
 Exit (ボタン) 29
 Farf 19
 Fast Atk 33
 Fine Tune 52
 FLANGE (フランジャー) 44
 Freq (シンセ) 36
 Func (Ctrl Pedal) 53
 Func (Rotor Pedal) 53
 Func (Sustain Pedal) 53
 Func (Swell Pedal) 53
 F-Wave 33
 Gain (Ctrl Pedal) 53
 Gain (Swell Pedal) 53
 Global Soft Thru (エクスターナル) 55
 Global Transpose 52
 HP 24フィルター (エフェクト) 45
 HP (ハイパス) 36
 JC (アンプ・モデル) 46
 KBD Touch 22
 KBS (キーボード・シンク) 40
 KBゾーン 27
 KBトラック 36
 Keyb Velocity A/B (エクスターナル) 55
 LFO (シンセ) 38
 LP 12 35
 LP 24 (シンセ) 35
 LP 24フィルター (エフェクト) 45
 LP/HP 36
 LP M 35
 Mid (EQ) 45
 MIDI 48
 MIDI A/B Channel (エクスターナル) 55
 MIDI CC (エクスターナル) 42
 MIDI Channel Mode (エクスターナル) 55
 MIDI (LED) 30

MIDIコントローラー・リスト 58
 MIDIメッセージ 51
 MIDIメニュー 54
 Mod Env 37
 Mst Clk (マスター・クロック) 26
 Nord Piano Library 22
 Nord Sound Manager 56
 Nord Triple Pedal 23
 Organize 30
 Organ Keyboard Trigger Point 54
 OrgSp (プログラム・イニシャルイズ) 29
 Org (プログラム・イニシャルイズ) 29
 PC (MIDIメニュー) 54
 PHAS 1&2 (フェイザー) 44
 Piano/Clav (EQ) 24
 Piano Pedal Noise Level 53
 Piano String Res Level 53
 Piano (プログラム・イニシャルイズ) 29
 Pipe1 20
 Pipe2 20
 Prog Pedal 53
 Program Change Settings A/B (エクスターナル) 55
 Program Number (エクスターナル) 55
 Rate (Synth Vibrato) 54
 Res (レゾナンス) 36
 RM (リング・モジュレーション) 44
 Rotary Horn 54
 Rotary Rotor 54
 Rotor Pedal 53
 Send On Load (エクスターナル) 55
 SHIFT (ボタン) 29
 Small (アンプ・モデル) 46
 Sound Menu 53
 Speed (Rotary Horn) 54
 Speed (Rotary Rotor) 54
 S-Wave 33
 Synth Vibrato 54
 Synth (プログラム・イニシャルイズ) 29
 System Menu 52
 Transpose MIDI At (MIDIメニュー) 54
 Trem (トレモロ) 44
 Twin (アンプ・モデル) 46
 Type (Ctrl Pedal) 53
 Type (Prog Pedal) 53
 Type (Rotor Pedal) 53
 Type (Sustain Pedal) 53
 Type (Swell Pedal) 53
 Value (エクスターナル) 55
 VIBE (ヴァイブ) 44
 Volume A/B (エクスターナル) 55
 Vox 19
 Wave (オシレーター・タイプ) 33
 Wa-Wa (ワウ) 44
 www.nordkeyboards.com 6

ア行

アウトプット・ルーティング 52
 アップライト 22
 アナログ・モード (ディレイ) 45
 アルペジエーター 40
 アンプ・シミュレーター/EQ 45
 ウナ・コルダ 23
 エクスターナル 48
 エクスターナル・シンク (マスター・クロック) 26、50
 エクスターナル・セクション 41
 エクスターナル・メニュー 55

エフェクト1 43
 エフェクト2 44
 エフェクト・セクション 43
 エレクトリック (ピアノ) 22
 エンベロープ (シンセ) 37
 オーディオ接続 57
 オクターブ・シフト (エクスターナル) 41
 オシレーター 17、21、31
 オシレーター・コンフィギュレーション 33
 オシレーター・コントロール 32
 オルガン 17

カ行

概要 8
 キー・クリック (B3) 18
 キーボード・スプリット 27
 キーボード・ゾーン (エクスターナル) 41
 キーボード・ゾーン・エディター 27
 キーボード・トラック (シンセ) 36
 キーボード・ホールド 40
 矩形波 32
 グライド 39
 クラビネット 22
 グランド 22
 グローバル (MIDI) 48
 グローバル (MIDIチャンネル) 48、54
 コーラス (オルガン) 18
 コンプレッサー 46

サ

サイン波 32
 サイン波 (オシレーター・コンフィギュレーション) 34
 サウンド・イニシャルイズ (シンセ) 39
 サステイン・ペダル 53
 サステイン・ペダル (エクスターナル) 41
 三角波 32
 三角波 (オシレーター・コンフィギュレーション) 34
 サンプル (オシレーター・タイプ) 33
 シェイブ (オシレーター・コンフィギュレーション) 33
 シンセ (オシレーター・コンフィギュレーション) 34
 シンセ・セクション 31
 シンセ・プリセット 34
 スウェル (オルガン) 20
 スウェル・ペダル 53
 スーパーウェーブ 33
 ストリング・レゾナンス 23
 スプリット 26
 スプリット幅 (クロスフェード) 27
 スプリット・ポジション 27
 接続 57
 ゾーン・セレクト 27
 ソステヌート 23
 ソフト・ペダル 23
 ソフト・リリース 22
 ソング・エディット 28
 ソング・パート 30
 ソング・モード 28

タ行

タイプ (ピアノ) 21
 タップ・テンポ (ディレイ) 44
 使い始める 10
 ディケイ (Amp Env) 38
 ディケイ (Mod Env) 37
 ディスプレイ上のボタン 52
 ディレイ (エフェクト) 44
 デジタル (ピアノ) 22
 デチューン
 (オシレーター・コンフィギュレーション) 34
 デュアルFM
 (オシレーター・コンフィギュレーション) 34
 デュアルKB 29、49
 デュアルKB (MIDIチャンネル) 54
 ドライブ (フィルター) 37
 トランスポーズ 26
 トリプルFM
 (オシレーター・コンフィギュレーション) 34
 トレブル (EQ) 45
 ドローパー 17
 ドローパー・ライブ (Compactモデル) 20

ナ行

名前を付けて保存 28
 ノイズ2
 (オシレーター・コンフィギュレーション) 34
 ノイズ
 (オシレーター・コンフィギュレーション) 34
 ノコギリ波 32
 ノコギリ波
 (オシレーター・コンフィギュレーション) 34

ハ行

パーカッション (B3) 18
 パニック 26、51
 パネル 28
 パネルA/B (MIDIチャンネル) 54
 パネルA/Bアウトプット 52
 パネルMIDIコントロール 50
 パネルをコピー 29
 パラメーター (エクスターナル) 42
 パルス波10 32
 パルス波33 32
 バンク・セレクト 51
 ピアノ 21
 ピアノ・インフォ 22
 ピアノ・サイズ 22
 ピアノ・セレクト 22
 ピッチ
 (オシレーター・コンフィギュレーション) 33
 ピッチ・スティック (エクスターナル) 41
 ビブラート (オルガン) 18
 ビブラート (シンセ) 40
 ビンボン 44
 ファスト (コンプレッサー) 46
 フィルター・セクション 35
 フィルター・セクター・ボタン 35
 フィルター (ディレイ) 45
 フォルマント 33
 プリセット (オルガン) 20
 プログラム 30
 プログラム・イニシャルイズ 29
 プログラム (エクスターナル) 42
 プログラム (セクション) 25
 プログラム・チェンジ 51
 プログラム (ボタン) 30
 プログラム・レベル 30
 譜割り (マスター・クロック) 26
 ページ (ボタン) 30
 ベース (EQ) 45
 ベダル・ノイズ 23
 ヘッドフォン 57
 ベル (オシレーター・コンフィギュレーション) 34
 ペロシティ (Amp Env) 38
 ペロシティ (Mod Env) 37

ペロシティ/モジュレーション・エンベロープ 37
 ホイール 25
 保存 (シンセ・プリセット) 35
 保存 (プログラム、ソング) 27
 ボリューム (エクスターナル) 42

マ行

マスター・クロック 26
 マスター・クロック (アルペジエーター) 40
 マスター・クロック (ディレイ) 45
 メニュー 52
 メモリー・プロテクト 52
 モーフ 25
 モーフLED 26
 モーフ・アサイン 25
 モーフ・インジケーター 26
 モーフ・デスティネーション 25
 モジュレーション (シンセ) 32
 モデル (ピアノ) 22
 モニター 29
 モノ・アウトプット 29

ヤ行

ユニゾン 39

ラ行

ライブ・モード 29
 リスト・ビュー (ピアノ) 22
 リバーブ 46
 リリース (Amp Env) 38
 リリース (Mod Env) 37
 リング・モジュレーション
 (オシレーター・コンフィギュレーション) 34
 レイト (アルペジエーター) 40
 レイヤー・デチューン 24
 レイヤー (ピアノ) 22
 ローカル (MIDI) 51、54
 ロータリー・スピーカー 46

仕様

一般仕様

- ・ マスター・レベル・コントロール
- ・ 木製ピッチ・スティック
- ・ モジュレーション・ホイール
- ・ プログラム：400 (5 プログラム x 10 ページ x 8 バンク)
- ・ ソング・モード：5 プログラム x 50 ソング x 8 バンク
- ・ ライブ・モード：5 ライブ・プログラム
- ・ 2 独立パネル・セットアップ
- ・ モーフィング機能：ソース x 3 (モジュレーション・ホイール、コントロール・ペダル、アフタータッチ)
- ・ グローバル・モノ・アウトプット
- ・ プログラマブル・トランスポーズ：± 6 半音
- ・ マスター・クロック機能：タップ・テンポによる設定または外部 MIDI クロック
- ・ 内部 MIDI クロック・ソース
- ・ USB MIDI 機能
- ・ レベル・コントロール
- ・ アフタータッチ
- ・ 最大 3 つのスプリット・ポイント (4 つのキーボード・ゾーン) を設定可能。ゾーン間の LED が点灯
- ・ スプリット・ポイントのクロスフェード・オプション：3 (ラージ、スモール、オフ)
- ・ キーボード・ゾーン・エディター・モード

オルガン・セクション

- ・ Nord C2D B3 トーン・ホイール・オルガン・シミュレーション
- ・ Vox Continental、Farfisa モデル
- ・ パイプ・オルガン・モデル x 2
- ・ デジタル・ドローバー x 9
- ・ 物理ドローバー x 9 (Compact モデルのみ)
- ・ ドローバー・ライブ・モード (Compact モデルのみ)
- ・ パーカッション・コントロール
- ・ ビブラート / コーラス・コントロール
- ・ 1 スロットにつき 2 組のドローバー・プリセットを使用可能
- ・ 2 パート・マルチティンバー (2 段鍵盤)

ピアノ・セクション

- ・ メモリー容量：2GB (Nord Piano Library 用)
- ・ Nord Sound Manager を使用して、すべてのサウンドを入れ替え可能 (Mac/Win)
- ・ 最大同時発音数：120 ボイス
- ・ カテゴリー：グランド、アップライト、エレクトリック、デジタル、レイヤー、クラビネット / ハープスコード
- ・ ベロシティ・カーブ：4 種類
- ・ ピアノ・フィルター
- ・ クラビネット EQ コントロール
- ・ アドバンスド・ストリング・レゾナンス (第 2 世代)：グランド・ピアノ、アップライト・ピアノで使用可能
- ・ ソフト・リリース機能を選択可能
- ・ ペダル・ノイズ機能 (Nord Triple Pedal (別売) 使用時。アコースティック / エレクトリック・ピアノのみ)
- ・ レイヤー (スロット) デチューン機能
- ・ 2 パート・マルチティンバー

シンセ・セクション

- ・ サンプル・プレイバック内蔵 Nord Lead A1 シンセ・エンジン
- ・ オンシレーター・セクション専用有機 EL (OLED) ディスプレイ
- ・ メモリー容量：480MB (Nord Sample Library 用)
- ・ Nord Sound Manager を使用して、すべてのサンプルを入れ替え可能 (Mac/Win)
- ・ 最大同時発音数：34 ボイス
- ・ オンシレーター・タイプ：クラシック、ウェーブテーブル (Wave)、フォルマント、スーパーウェーブ (S-Wave)、サンプル
- ・ オンシレーター・コンフィギュレーション：ピッチ、デチューン*、シェイプ*、シンク*、サイン波、三角波、矩形波、ノコギリ波、ベル、ノイズ・ミックス、FM*、リング・モジュレーション
* サンプルおよびスーパーウェーブには使用できません。
- ・ クラシック・トランジスター・ラダー・フィルター (LP M)、12/24dB ローパス、ハイパス、バンドパス、ローパスとハイパス (LP+HP) のコンビネーション・フィルター
- ・ フィルター・ドライブ：オフ、1、2、3
- ・ フィルター・トラッキング：オフ、1/3、2/3、フル
- ・ ユニゾン・モード x 3
- ・ ベロシティ・コントロール付きアンプ・エンベロープ (アタック、ディケイ、リリース)
- ・ ベロシティ・コントロール付きモジュレーション・エンベロープ (アタック、ディケイ、リリース)
- ・ LFO：5 波形 / モード (矩形波、三角波、ノコギリ波 (アップ / ダウン)、サンプル&ホールド)
- ・ シンセ・プリセット：400 (8 x 50、シンセ・プリセット・カテゴリ付き)
- ・ アルベジエーター：アップ、ダウン、アップ&ダウン、ランダム、レンジ：1、2、3、4 オクターブ
- ・ LFO、アルベジエーターはマスター・クロックに同期可能
- ・ 2 パート・マルチティンバー

エフェクト・セクション

- ・ エフェクト 1：リング・モジュレーター、トレモロ、オートパン、ワウ、オートワウ 1、オートワウ 2
- ・ エフェクト 2：フランジャー、ヴァイブ、フェイザー x 2、コーラス x 2
- ・ デレイ：テンポ、フィードバックおよびミックス (ドライ / ウェット) コントロール、ピンポン (ステレオ・タップ)、タップ・テンポ、フィードバック・フィルター (HP/LP/BP)、アナログ・モード
- ・ スピーカー・シミュレーション：3 タイプ (JC、Twin、Small)
- ・ カットオフ、レゾナンス、ミックス・コントロール搭載のフィルター・モード (HP24/LP24)
- ・ オーバードライブ付きチューブ・アンプ・シミュレーション
- ・ 3 バンド・イコライザー：100Hz、200Hz ~ 8kHz、4kHz
- ・ ロータリースピーカー：スピード切替 (ストップ、スロー、ファスト)、オーバードライブ
- ・ モーフィング可能なパラメーターを拡張 (フィルター・レゾナンス、リバーブ・ドライ / ウェット、デレイ・フィードバック、アンプ・ドライブ)
- ・ エフェクト周期およびテンポはマスター・クロックと同期可能
- ・ ファスト・モード付きコンプレッサー
- ・ リバーブ：6 アルゴリズム、ブライト・モード付き

鍵盤

- Nord Stage 3 88 : 88 鍵 (A ~ C) ペロシティ・センス付き
ハンマー・アクション鍵盤
- Nord Stage 3 HP76 : 76 鍵 (E ~ G) ペロシティ・センス付き
ハンマー・アクション・ポータブル鍵盤
- Nord Stage 3 Compact : 73 鍵 (E ~ E) ペロシティ・センス
付きセミウェイテッド・ウォーターフォール鍵盤

接続端子

- オーディオ出力 : 4 系統 (アサインابل)、標準ジャック (アンバランス)
- ヘッドフォン出力 : 標準ステレオ・ジャック
- モニター入力 : ミニステレオ・ジャック
- サスティン・ペダル入力 : 標準ジャック (モーメンタリー・タイプの
ペダルをご使用ください)、Nord Triple Pedal (別売オプション)
対応
- ローター・ペダル入力 : 標準ジャック
- オルガン・スウェル・ペダル入力 : TRS ステレオ・ジャック (エク
スプレッション・ペダルをご使用ください)
- コントロール・ペダル入力 : TRS ステレオ・ジャック (エクスプレ
ッション・ペダルをご使用ください)
- プログラム・チェンジ・ペダル入力 : TRS ステレオ・ジャック
(2 ボタンのモーメンタリー・タイプのスイッチをご使用ください)
- MIDI : MIDI IN、MIDI OUT (5 ピン DIN コネクター)
- USB : タイプ B コネクター
- 電源コネクター : IEC C14

付属品

- 取扱説明書
- サスティン・ペダル (88、HP 76 モデルの
み)
- 電源コード

オプション

- Nord Keyboard Stand EX (88、HP 76 モデルのみ)
- Nord Soft Case
- Nord Triple Pedal
- Nord Music Stand EX (88、HP 76 モデルのみ)
- Nord Half Moon Switch (Compact モデルのみ)

外形寸法

- Nord Stage 3 88 : 1,287 (W) x 334 (D) x 118 (H) mm
- Nord Stage 3 HP 76 : 1,122 (W) x 347 (D) x 127 (H) mm
- Nord Stage 3 Compact : 1,070 (W) x 302 (D) x 104 (H) mm

重量

- Nord Stage 3 88 : 19kg
- Nord Stage 3 HP 76 : 12.5kg
- Nord Stage 3 Compact : 10kg

仕様は予告なく変更することがあります。

本書はOSバージョン: 1.04時に作成しています。今後のアップデートで機能の拡張やユーザー・インターフェースが変更になる場合があります。

本書に記載のブランド名、製品名はすべて各所有者の商標または登録商標であり、Clavia社とは一切の関係はありません。また、これらの製品名、ブランド名は本機の性能やサウンドを説明するためにのみ使用しています。

